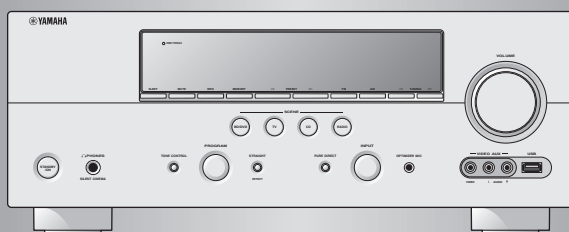
J

AV アンプ

NATURAL SOUND AV AMPLIFIER

AX-V1065

取扱説明書

ヤマハ製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

■本機の優れた性能を十分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書と保証書をよくお読みください。
お読みになったあとは、保証書と共に大切に保管し、必要に応じてご利用ください。

■保証書は、「お買上げ日、販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

保証書別添付

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	「～しないでください」という「禁止」を示します。
	「必ず実行してください」という強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。

この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

⚠ 警告

電源/電源コード

必ず実行

電源プラグは、見える位置で、手が届く範囲のコンセントに接続する。

万一の場合、電源プラグを容易に引き抜くためです。

プラグを抜く

下記の場合には、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- 異常なにおいや音がする。 ● 煙が出る。
- 内部に水や異物が混入した。

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

禁止

電源コードを傷つけない。

- 重いものを上に載せない。
- ステープルで止めない。● 加工をしない。
- 熱器具には近づけない。● 無理な力を加えない。

芯線がむき出しのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

必ず実行

必ずAC100V (50/60Hz)の電源電圧で使用する。

それ以外の電源電圧で使用すると、火災や感電の原因になります。

電池

禁止

電池を充電しない。

電池の破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

禁止

電池からもれ出た液には直接触れない。

液が目や口に入ったり、皮膚についたりした場合はすぐに水で洗い流し、医師に相談してください。

分解禁止

分解禁止

分解・改造は厳禁。キャビネットは絶対に開けない。

火災や感電の原因になります。

修理・調整は販売店にご依頼ください。

設置

水ぬれ禁止

本機を下記の場所には設置しない。

- 浴室・台所・海岸・水辺
- 加湿器を過度にきかせた部屋
- 雨や雪、水がかかるところ

水の混入により、火災や感電の原因になります。

禁止

放熱のため本機を設置する際には:

- 布やテーブルクロスをかけない。
- じゅうたん・カーペットの上には設置しない。
- 仰向けや横倒しには設置しない。
- 通気性の悪い狭いところへは押し込まない。

(本機の周囲に左右20cm、上30cm、背面20cm以上のスペースを確保する。)

本機の内部に熱がこもり、火災の原因になります。

使用上の注意

禁止

放熱用の通風孔、パネルのすき間から金属や紙片など異物を入れない。

火災や感電の原因になります。

必ず実行

本機を落としたり、本機が破損した場合には、必ず販売店に点検や修理を依頼する。

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

接触禁止

雷が鳴りはじめたら、電源プラグには触れない。

感電の原因になります。

禁止

本機の上には、花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品・ロウソクなどを置かない。

水や異物が中に入ると、火災や感電の原因になります。接触面が経年変化を起こし、本機の外装を損傷する原因になります。

手入れ

必ず実行

電源プラグのゴミやほこりは、定期的にとり除く。

ほこりがたまったまま使用を続けると、プラグがショートして火災や感電の原因になります。

注意

電源/電源コード

必ず実行

必ず付属の専用電源コードを使用する。

専用電源コード以外の使用は、火災や感電の原因になります。

プラグを抜く

長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。

火災や感電の原因になります。

ぬれ手禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電の原因になります。

禁止

電源プラグを抜くときは、電源コードをひっぱらない。

コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

必ず実行

電源プラグは、コンセントに根元まで、確実に差し込む。

差し込みが不充分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積して発熱や火災の原因になります。

禁止

電源プラグを差し込んだとき、ゆるみがあるコンセントは使用しない。

感電や発熱および火災の原因になります。

電池

必ず実行

電池は極性表示(プラス+とマイナス−)に従って、正しく入れる。

間違えると破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

禁止

指定以外の電池は使用しない。また、種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない。

破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

禁止

電池と金属片をいっしょにポケットやバッグなどに入れて携帯、保管しない。

電池がショートし、破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

禁止

電池を加熱・分解したり、火や水の中へ入れない。

破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

必ず実行

下記の場合には、すべての乾電池を新しいものに交換する。

- **リモコンの操作範囲がせまくなった**
- **トランスミットインジケーターが光らない、または光が弱くなった**

古い乾電池を使用していると、破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

必ず実行

使い切った電池は、すぐに電池ケースから取り外す。

破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

必ず実行

新しい乾電池を入れる前に、電池ケース内をきれいにふく。

異物が入ると、火災や故障の原因になります。

必ず実行

使い切った電池は、自治体の条例または取り決めに従って廃棄する。

設置

必ず実行

必ず2人以上で開梱や持ち運びをする。

重いので、けがの原因になります。

禁止

不安定な場所や振動する場所には設置しない。

本機が落下や転倒して、けがの原因になります。

禁止

直射日光のあたる場所や、温度が異常に高くなる場所(暖房機のそばなど)には設置しない。

本機の外装が変形したり内部回路に悪影響が生じて、火災の原因になります。

禁止

ほこりや湿気の多い場所に設置しない。

ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因になります。

必ず実行

他の電気製品とはできるだけ離して設置する。

本機はデジタル信号を扱います。他の電気製品に障害をあたえるおそれがあります。

禁止

他の電気製品を本機の上に置かない。

本機の上部は高温になります。他の電気製品に障害をあたえるおそれがあります。

必ず実行

屋外アンテナ工事は販売店に依頼する。

工事には、技術と経験が必要です。

移動

プラグを抜く

移動をするときには電源スイッチを切り、すべての接続を外す。

接続機器が落下や転倒して、けがの原因になります。
コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

使用上の注意

必ず実行

再生を始める前には、アンプの音量(ボリューム)を最小にする。

突然大きな音が出て、聴覚障害の原因になります。

禁止

音が歪んだ状態で長時間使用しない。

スピーカーが発熱し、火災の原因になります。

禁止

大きな音で長時間ヘッドホンを使用しない。

聴覚障害の原因になります。

注意

環境温度が急激に変化したとき、本機に結露が発生することがあります。

正常に動作しないときには、電源を入れない状態でしばらく放置してください。

禁止

業務用機器とは接続しない。

デジタルオーディオインターフェース規格は、民生用と業務用では異なります。本機は民生用のデジタルオーディオインターフェースに接続する目的で設計されています。業務用のデジタルオーディオインターフェース機器との接続は、本機の故障の原因となるばかりでなく、スピーカーを傷める原因になります。

リモコン

禁止

水やお茶などの液体をこぼさない。

電池がショートし、破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。
感電の原因になります。

禁止

落としたり、強い衝撃を与えたりしない。

故障の原因になります。

禁止

下記のような場所に置かない。

- 風呂場の近くなど、湿度が高いところ
- 暖房器具やストーブの近くなど、温度が高いところ
- 極端に寒いところ
- ほこりの多いところ

火災や故障の原因になります。

注意

乾電池を外したまましばらく（2分以上）放置したり、消耗した乾電池をそのまま入れておいたりすると、リモコンに設定したリモコンコードが消えてしまうことがある。

乾電池を新しいものに交換し、リモコンコードを設定し直してください。

手入れ

必ず実行

手入れをするときには、必ず電源プラグを抜く。

感電の原因になります。

禁止

薬物厳禁

ベンジン・シンナー・合成洗剤等で外装をふかない。また接点復活剤を使用しない。

外装が傷んだり、部品が溶解することがあります。

注意

年に一度くらいは内部の掃除を販売店に依頼する。

ほこりがたまったまま使用を続けると、火災や故障の原因になります。

本機は「JIS C 61000-3-2」適合品です。
JIS C 61000-3-2 適合品とは、日本工業規格「電磁両立性第 3-2 部：限度値－高調波電流発生限度値（1相当たりの入力電流が 20A 以下の機器）」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

はじめに

本機の特長

■ 高音質ハイパワー 7 チャンネルアンプ

- 定格出力（6Ω、20 Hz ～ 20 kHz、0.09% THD）
- フロント：105 W + 105 W
- センター：105 W
- サラウンド：105 W + 105 W
- サラウンドバック：105 W + 105 W

■ スピーカー / プリアウト出力

- スピーカー端子（7チャンネル＋プレゼンス2チャンネル）、プリアウト端子（7.1 チャンネル）

■ 入出力端子

入力端子

- HDMI 入力× 4
- 音声 / 映像入力
  [音声] 同軸デジタル端子× 2、光デジタル端子× 2、アナログ端子× 3（リア× 2、フロント V-AUX × 1）
  [映像]D4 ビデオ / コンポーネントビデオ端子× 2、ビデオ端子× 5（リア× 4、フロント V-AUX × 1）
- 音声入力（アナログ端子）× 2
- フォノ入力（アナログ端子× 1）
- アナログマルチチャンネル音声入力（7.1 チャンネル）
- DOCK 入力× 1
- USB 入力× 1

出力端子

- モニター出力
  [音声 / 映像]HDMI × 1
  [映像]D4 ビデオ / コンポーネントビデオ端子× 1、ビデオ端子× 1
- 音声 / 映像出力
  [音声] アナログ端子× 1
  [映像] ビデオ端子× 1
- 音声出力（アナログ端子）× 1

その他端子

- リモート出力× 1

■ ヤマハ独自の音場技術

- CINEMA DSP 3D
- コンプレストミュージック・エンハンサー
- バーチャルシネマ DSP
- サイレントシネマ

■ 多彩なデコーダー

- Dolby TrueHD、Dolby Digital Plus
- DTS-HD Master Audio、DTS-HD High Resolution Audio、DTS Express
- Dolby Digital / Dolby Digital EX
- DTS、DTS 96/24、DTS-ES Matrix 6.1、DTS-ES Discrete 6.1
- Dolby Pro Logic / Dolby Pro Logic II / Dolby Pro Logic IIx
- DTS NEO:6
- AAC
- DSD

■ HDMI™ （High-Definition Multimedia Interface）

- フルハイビジョン映像をマルチチャンネルデジタル音声と一緒に楽しめる HDMI インターフェース
  – 映像と音声のずれ補正機能（リップシンク）
  – Deep Color 映像信号（30/36bit）対応
  – x.v.Color 映像信号対応
  – ハイビジョン映像対応
  – 高品質デジタル音声フォーマット対応
- アナログ映像入力信号を変換してすべてのモニター出力端子に出力できるビデオコンバージョン機能（ビデオ ↔ コンポーネントビデオ /D 端子 →HDMI）
- アナログ映像入力を HDMI デジタル映像として出力する際の解像度変換機能（480i または 480p→720p または 1080i、1080p）
- 本機と HDMI 接続したテレビのリモコンで本機を操作できる、HDMI コントロール機能対応

■ DOCK 端子

- ヤマハ製 iPod ユニバーサルドック（別売 YDS-11 など）や Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバー（別売 YBA-10 など）を接続できる DOCK 端子を装備

■ USB 端子

- USBデバイスに記録した音声ファイルを再生できる USB 端子を装備

■ スピーカー自動設定機能

- 視聴空間自動最適化システム「YPAO」（Yamaha Parametric Room Acoustic Optimizer）

■ その他

- 192kHz、24bit の DA コンバーター
- 各種設定をテレビで確認しながら変更できる GUI（グラフィカル・ユーザー・インターフェース）表示機能
- iPod/USB ファイル表示機能
- アルバムアート表示機能
- すべてのソースを高音質で再生できるピュアダイレクトモード
- 小音量で再生したときでも聞きやすい音量 / ダイナミックレンジの連動機能（Adaptive DRC）
- 入力ソースや音場プログラムなどを一括して切り替えられるシーン機能
- バイアンプ接続
- 高機能 FM/AM チューナー
- スリープタイマー

もくじ

はじめに

準備

基本操作

応用操作

付録

本書について

本書の記載について

- フロントパネルキーとリモコンキーのどちらでも操作できる場合があります。フロントパネルキーとリモコンキーの名称が違う場合は、（　）内にリモコンキーの名称を記載しています。
- 本書は製品の生産に先がけて印刷されています。製品改良などの理由で、実際の製品と仕様が一部異なる場合があります。また、仕様は予告なく変更されることがあります。ご了承ください。
- 本書に掲載しているメニュー画面の表示例では、見やすくするために画面上の文字を拡大しています。これにより、他の表示物（アイコンなど）と文字サイズの比率が実際の画面表示と異なる場合があります。
- 「Ⓐ**SLEEP**」や「⑤**HDMI1**」（例）は、フロントパネルまたはリモコンキーなどの名称を表しています。それぞれのキーの場所については、本書の「各部の名称と機能」または別紙「操作パネル図」をご覧ください。
- ☞ は、関連情報が記載されているページを表しています。
- 💡 は、知っておくと便利な補足情報を記載しています。
- 本書では、テレビやプロジェクターなど、映像を表示する機器を「テレビ」と表記しています。

DOLBY TRUEHD

ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。「ドルビー」、「PRO LOGIC」、「Surround EX」およびダブル D 記号 ◻◻ は、ドルビーラボラトリーズの商標です。

dts-HD Master Audio

米国特許 5,451,942、5,956,674、5,974,380、5,978,762、6,226,616、6,487,535 およびその他の国における特許（出願中含む）に基づき製造されています。
DTS は DTS 社の登録商標です。また、DTS ロゴ、記号、および DTS-HD、DTS-HD Master Audio は DTS 社の商標です。
著作権 1996-2007 年 DTS 社。不許複製。

AAC ロゴマーク（AAC）はドルビーラボラトリーズの商標です。
以下はパテントナンバーです。

08/937,950	5,633,981	5,227,788	5,299,239
5848391	5 297 236	5,285,498	5,299,240
5,291,557	4,914,701	5,481,614	5,197,087
5,451,954	5,235,671	5,592,584	5,490,170
5 400 433	07/640,550	5,781,888	5,264,846
5,222,189	5,579,430	08/039,478	5,268,685
5,357,594	08/678,666	08/211,547	5,375,189
5 752 225	98/03037	5,703,999	5,581,654
5,394,473	97/02875	08/557,046	05-183,988
5,583,962	97/02874	08/894,844	5,548,574
5,274,740	98/03036	5,299,238	08/506,729

iPod

iPod は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標または登録商標です。

Bluetooth®

Bluetooth は、Bluetooth SIG の登録商標でありヤマハはライセンスに基づき使用しています。

HDMI

HDMI、HDMI ロゴ、および High-Definition Multimedia Interface は、HDMI Licensing, LLC の商標または登録商標です。

x.v.Color

「x.v.Color」は、ソニー株式会社の商標です。

SILENT™ CINEMA

「サイレントシネマ ™　SILENT CINEMA™」はヤマハ株式会社の登録商標です。

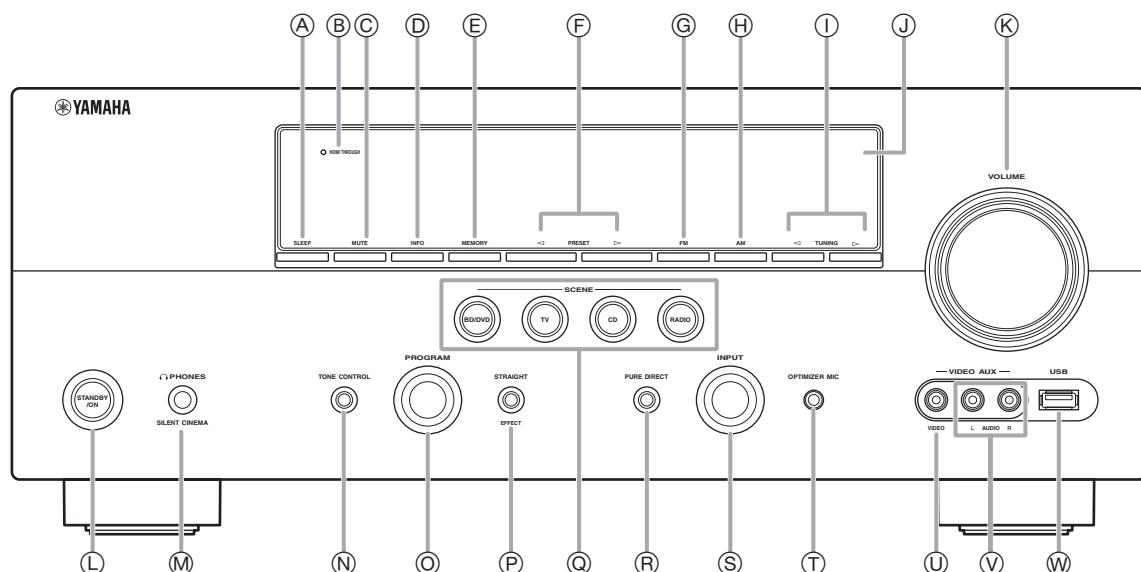
音楽を楽しむエチケット
楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

付属品を確認する

同梱されている付属品をご確認ください。

- リモコン（11 ページ）
- 単 4 乾電池× 2（11 ページ）
- オプティマイザーマイク（26 ページ）
- AM ループアンテナ（25 ページ）
- FM 簡易アンテナ（25 ページ）
- 電源コード（25 ページ）
- 操作パネル図

各部の名称と機能

フロントパネル

Ⓐ **SLEEP（スリープ）**
スリープタイマーの動作を切り替えます（42 ページ）。

Ⓑ **HDMI THROUGH（HDMI スルー）**
本機がスタンバイ状態の場合、下記のいずれかの動作をすると点灯します。
– HDMI コントロール機能が有効な場合（50 ページ）
– 本機に入力されたHDMI信号が、本機を経由してスルー出力されている場合（50 ページ）

Ⓒ **MUTE(ミュート)**
一時的に音量を下げます（30 ページ）。

Ⓓ **INFO（インフォ）**
フロントパネルディスプレイに表示する情報（入力ソース名、音場プログラム、サラウンドデコーダーなど）を切り替えます（31 ページ）。

Ⓔ **MEMORY（メモリー）**
FM/AM 放送局をプリセット放送局として登録します（37 ページ）。

Ⓕ **PRESET◁ / ▷（プリセット）**
プリセットした FM/AM 放送局を選択します（37 ページ）。

Ⓖ **FM**
FM/AM チューナーのバンドを FM に切り替えます（36 ページ）。

Ⓗ **AM**
FM/AM チューナーのバンドを AM に切り替えます（36 ページ）。

Ⓘ **TUNING ◁ / ▷（チューニング）**
FM/AM チューナーの周波数を増減させます（36 ページ）。

Ⓙ **フロントパネルディスプレイ**
本機の各種情報を表示します（11 ページ）。

Ⓚ **VOLUME（ボリューム）コントロール**
本機の音量を調節します（29 ページ）。

Ⓛ **STANDBY/ON（スタンバイ / オン）**
本機のスタンバイ / オンを切り替えます（25 ページ）。

Ⓜ **PHONES（フォーンズ）端子**
ヘッドホンを接続します（31 ページ）。

Ⓝ **TONE CONTROL（トーン コントロール）**
スピーカー / ヘッドホン出力の高音 / 低音を調節します（30 ページ）。

Ⓞ **PROGRAM（プログラム）セレクター**
音場プログラムを切り替えます（32 ページ）。

Ⓟ **STRAIGHT（ストレート）**
音場プログラムをストレートデコードモードに切り替えます（35 ページ）。

Ⓠ **SCENE（シーン）**
入力ソースや音場プログラムを一括して切り替えます（29 ページ）。

Ⓡ **PURE DIRECT（ピュアダイレクト）**
音場プログラムをピュアダイレクトモードに切り替えます。ピュアダイレクトモードのときはキーが点灯します（30 ページ）。

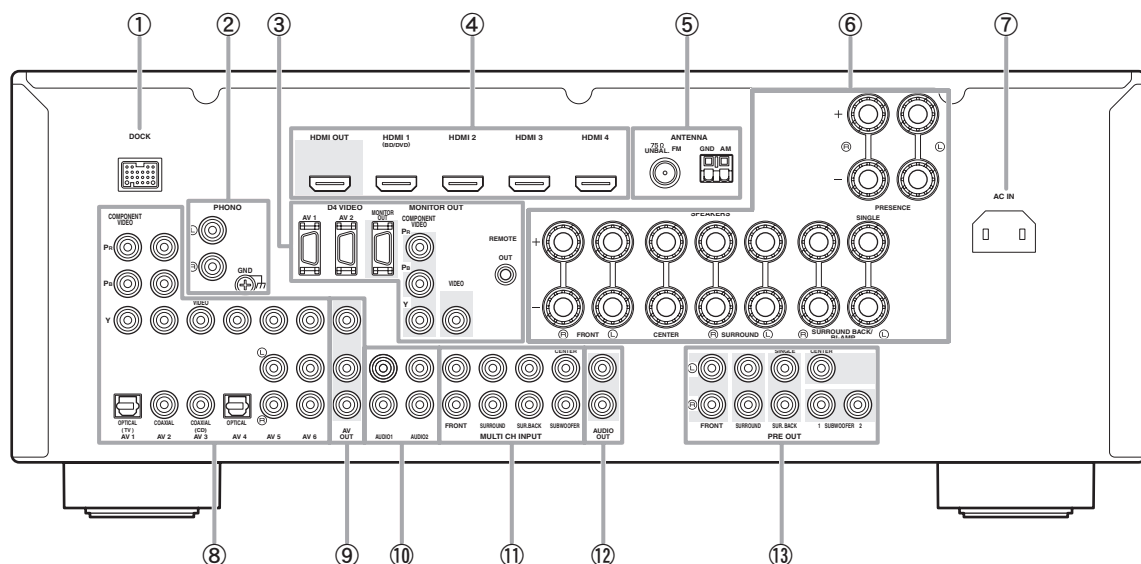
Ⓢ **INPUT（インプット）セレクター**
入力ソースを選択します（29 ページ）。

Ⓣ **OPTIMIZER MIC（オプティマイザー マイク）端子**
付属のオプティマイザーマイクを接続して、スピーカーの出力特性を調整します（26 ページ）。

Ⓤ **VIDEO（ビデオ）端子（VIDEO AUX）**
ビデオカメラやゲーム機のビデオ出力端子を接続します（24 ページ）。

Ⓥ **AUDIO（オーディオ）L/R 端子（VIDEO AUX）**
ビデオカメラやゲーム機の音声出力端子を接続します（24 ページ）。

Ⓦ **USB 端子**
USB デバイスを接続します（24 ページ）。

リアパネル

① **DOCK（ドック）端子**
別売のヤマハ製 iPod ユニバーサルドック（YDS-11）や Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバー（YBA-10）を接続します（24 ページ）。

② **PHONO（フォノ）端子**
レコードプレーヤーを接続します（21 ページ）。

GND 端子
レコードプレーヤー使用時に、雑音を低減するために接続します（22 ページ）。

③ **D4 VIDEO（D4 ビデオ）端子**
D 端子を装備したテレビや外部機器を接続します（19、21 ページ）。

MONITOR OUT（モニター アウト）端子
本機の映像信号をテレビなどのモニター機器へ出力します（19 ページ）。

REMOTE OUT（リモート アウト）端子
SCENEコントロール信号受信機能対応のヤマハ製機器を接続します（23 ページ）。

④ **HDMI OUT（HDMI アウト）端子**
HDMI 対応のテレビを接続します（19 ページ）。

HDMI1 ～4端子
HDMI 1～4に入力する外部機器を接続します（21 ページ）。

⑤ **ANTENNA（アンテナ）端子**
付属のFMアンテナおよびAMアンテナを接続します(25 ページ)。

⑥ **SPEAKERS（スピーカー）端子**
フロント、センター、サラウンド、サラウンドバック、プレゼンスの各スピーカーを接続します（15 ページ）。

⑦ **AC IN（AC イン）端子**
電源コードを接続します（25 ページ）。

⑧ **AV1 ～ 6 端子**
AV1～6に入力する外部機器を接続します(21 ページ)。

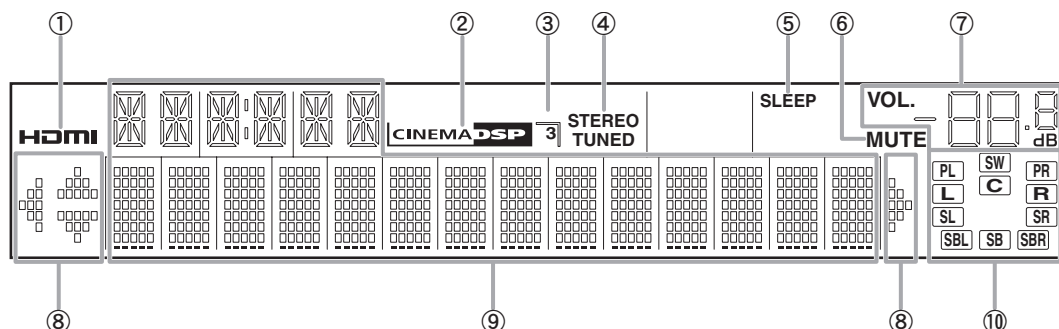
⑨ **AV OUT（AV アウト）端子**
選択されているアナログ入力ソースの映像/音声信号を外部に出力します（21 ページ）。

⑩ **AUDIO（オーディオ）1/2 端子**
AUDIO1 ～ 2 へ入力する外部機器を接続します（21 ページ）。

⑪ **MULTI CH INPUT（マルチチャンネルインプット）端子**
アナログマルチチャンネル出力端子を装備している再生機器を接続します（23 ページ）。

⑫ **AUDIO OUT（オーディオ アウト）端子**
選択したアナログ入力ソースの音声を外部に出力します（21 ページ）。

⑬ **PRE OUT（プリ アウト）端子**
外部パワーアンプやサブウーファーを接続します（23 ページ）。

フロントパネルディスプレイ

① **HDMI インジケーター**
入力ソースとして HDMI を選択したとき、正常に送受信が行われていると点灯します。

② **CINEMA DSP（シネマ DSP）インジケーター**
CINEMA DSP 系の音場プログラムを選択すると点灯します。

③ **CINEMA DSP 3D（シネマ DSP 3D）インジケーター**
シネマ DSP 3D モードで再生しているときに点灯します（35 ページ）。

④ **チューナーインジケーター**
FM/AM 放送を受信しているときに点灯します（36 ページ）。

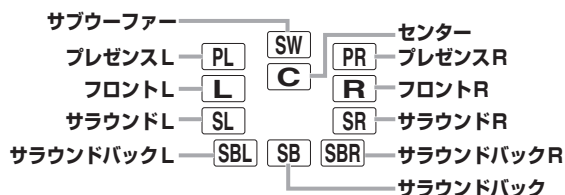
⑤ **SLEEP（スリープ）インジケーター**
スリープタイマーが動作しているときに点灯します（42 ページ）。

⑥ **MUTE（ミュート）インジケーター**
音声を消音しているときに点滅します。

⑦ **VOLUME（ボリューム）インジケーター**
音量の設定値を表示します。

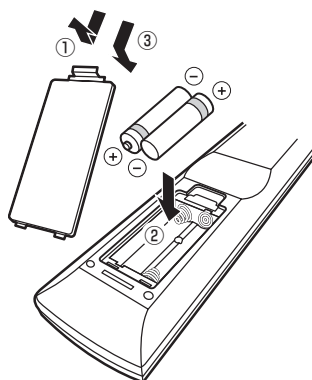
⑧ **カーソルインジケーター**
リモコンの ⑪ **カーソル** △ / ▽ / ◁ / ▷ を操作可能な場合に、キーに対応するインジケーターが点灯します。

⑨ **マルチインフォメーションディスプレイ**
本機の動作に合わせて、設定メニューの項目や設定値が表示されます。

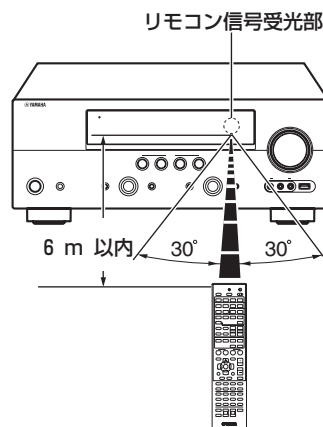
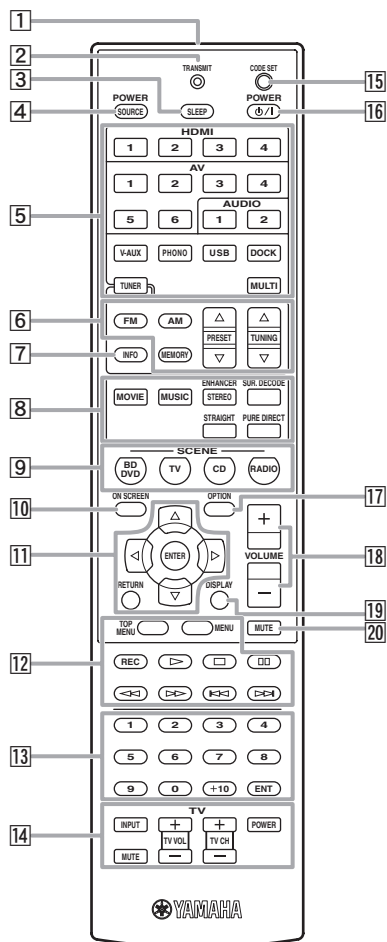
⑩ **スピーカーインジケーター**
現在信号を出力しているスピーカー端子を表示します。

リモコン

ご注意

- 乾電池を入れる前やリモコンを使う前に、「安全上のご注意」（2 ページ）の「電池」および「リモコン」の項目をよくお読みください。

■ リモコンに乾電池を入れる

① リモコンの電池カバーを取り外す。
② 付属の単 4 乾電池（2 本）を、プラス / マイナスの表示に合わせて電池ケースに入れる。
③ 電池カバーを元に戻す。

■ 操作範囲

本機のリモコンは直進性の強い赤外線を使っています。本体のリモコン信号受光部に向けて、正しく操作してください。

1 **リモコン信号送信部**
赤外線を送信します。

2 **TRANSMIT（トランスミット）**
リモコンから信号を送信した場合に点灯します。

3 **SLEEP（スリープ）**
スリープタイマーの動作を切り替えます（42 ページ）。

4 **SOURCE POWER（ソース パワー）**
外部機器の電源オン / オフを切り替えます。

5 **入力ソース選択キー**

HDMI1 ～ 4	HDMI1 ～ 4 を入力選択します。
AV1 ～ 6	AV1 ～ 6 を入力選択します。
AUDIO1/2	AUDIO1 ～ 2 を入力選択します。
V-AUX	V-AUX を入力選択します。
PHONO（フォノ）	PHONO を入力選択します。
USB	USB を入力選択します。
DOCK（ドック）	DOCK 端子に接続したヤマハ製 iPod ユニバーサルドック / Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバーを入力選択します。
MULTI（マルチ）	MULTI CH INPUT を入力選択します。
TUNER（チューナー）	FM/AM チューナーを入力選択します。

6 **チューナーキー**

FM **AM**	FM/AM のバンドを切り替えます。
MEMORY（メモリー）	放送局をプリセットします。
PRESET △ / ▽（プリセット）	プリセット放送局を呼び出します。
TUNING △ / ▽（チューニング）	チューナーの周波数を増減させます。

7 **INFO（インフォ）**
フロントパネルディスプレイに表示する情報を切り替えます（31 ページ）。

8 **音場プログラム選択キー**
音場プログラムを選択します（30 ページ、32 ページ）。

9 **SCENE（シーン）**
入力ソースや音場プログラムを一括して切り替えます（29 ページ）。

10 **ON SCREEN（オン スクリーン）**
メニュー画面を表示します（30 ページ）。

11

カーソル △/▽/◁/▷	各種メニューで項目を選択したり、設定値を変更します。
ENTER	選択した項目を決定します。
RETURN	1 つ手前のメニュー表示に戻したり、メニュー表示を終了します。

12 **外部機器操作キー**
外部機器の録画や再生などの操作を行います（56 ページ）。

13 **数字キー**
数値入力を行います。

14 **テレビ操作キー**
テレビやプロジェクターを操作します。

15 **CODE SET（コード セット）**
外部機器操作用のリモコンコードを設定します（56 ページ）。

16 **POWER（パワー）**
本機のオン / スタンバイを切り替えます。

17 **OPTION（オプション）**
オプションメニューを表示します（43 ページ）。

18 **VOLUME（ボリューム）+/–**
本機の音量を調節します（29 ページ）。

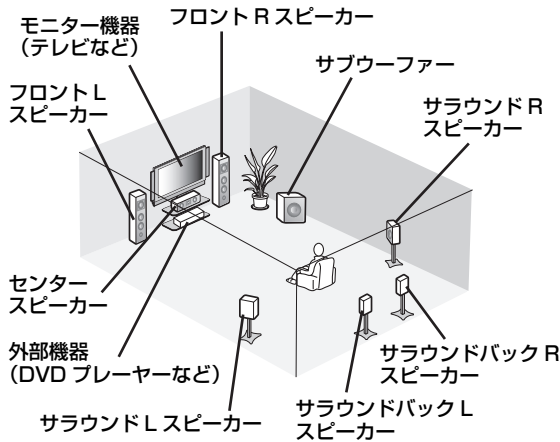
19 **DISPLAY（ディスプレイ）**
ヤマハ製 iPod ユニバーサルドックを接続した場合に、iPod の操作モードを切り替えます（38 ページ）。

20 **MUTE（ミュート）**
音声出力の消音 / 消音解除を切り替えます（30 ページ）。

クイックスタートガイド

本機をご使用になるには、最初に以下のステップでセットアップを行います。それぞれの詳しい操作 / 設定については、各ステップに対応するページをご覧ください。

ステップ 1：接続に必要なものを準備する

スピーカー、DVD プレーヤーなどの再生装置、各種ケーブルなど、セットアップに必要なものを用意します。
たとえば 7.1 チャンネルのサラウンドシステムをセットアップする場合は、下記のものをご用意ください。

品名		数量
スピーカー	フロントスピーカー	2
	センタースピーカー	1
	サラウンドスピーカー	2
	サラウンドバック スピーカー	2
アンプ内蔵サブウーファー		1
スピーカーケーブル		7
サブウーファー用ピンケーブル		1
DVD プレーヤーなどの再生機器		1
テレビなどのモニター機器		1
映像ケーブルまたは HDMI ケーブル		2
音声ケーブル		2
電源コード		1

- フロント用以外のスピーカーは以下の順番で優先的にご用意ください。
  1サラウンドスピーカー（2 本）
  2センタースピーカー（1 本）
  3サラウンドバックスピーカー（1 本または 2 本）
- HDMI ケーブルを使用する場合、映像 / 音声ケーブルは不要です。

ステップ 2：スピーカーを設置 / 接続する

スピーカーをリスニングルームに設置して、本機と接続します。

- スピーカーを設置する ☞14 ページ
- スピーカーを接続する ☞15 ページ

- 本機には、視聴環境の特性（スピーカーのオーディオ特性や配置、リスニングルームの音響など）を計測して自動的に最適化する「YPAO」（Yamaha Parametric Room Acoustic Optimizer）が搭載されています。YPAO を使用すれば、特別な知識を必要とせずにバランスのよい適切なサウンドが得られます。詳しくは 26 ページをご覧ください。

ステップ 3：外部機器を接続する

テレビなどのモニター機器や DVD プレーヤーなどの再生機器を接続します。

- モニター機器を接続する ☞19 ページ
- DVD プレーヤーなどの外部機器を接続する ☞21 ページ
- マルチチャンネル接続端子がある機器を接続する ☞23 ページ
- 外部パワーアンプを接続する ☞23 ページ
- USB デバイスを接続する ☞24 ページ
- ヤマハ製iPodユニバーサルドックやBluetoothワイヤレスオーディオレシーバーを接続する ☞24 ページ
- FM/AM アンテナを接続する ☞25 ページ

ステップ 4：電源をオンにする

電源コードを接続して、本機の電源を入れます。

- 電源コードを接続する ☞25 ページ
- 本機の電源をオン / オフする ☞25 ページ

ステップ 5：入力ソースを選択して再生する

ステップ 3 で接続した機器を入力ソースとして選択し、再生します。

- 再生の基本操作 ☞29 ページ
- 音場プログラムを楽しむ ☞32 ページ

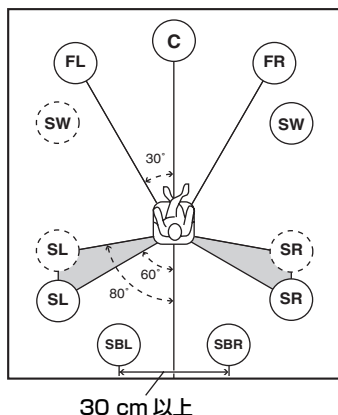
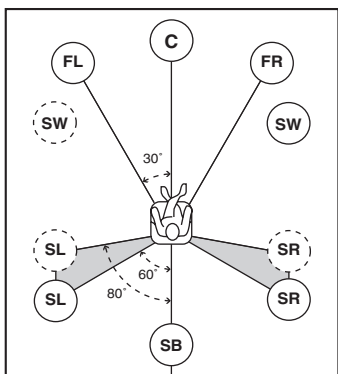
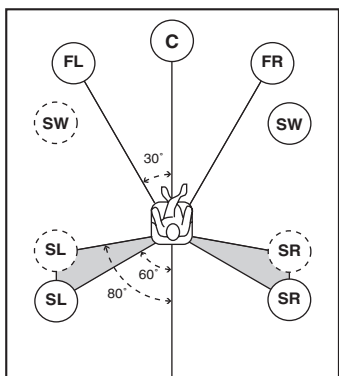
- 本機は、入力ソースや音場プログラムなどを一括して切り替えられる「シーン機能」に対応しています。ブルーレイディスク /DVD 用、CD 用など、目的に合わせて 4 つのシーンがプリセットされており、リモコンのキー 1 つで操作できます。詳しくは 29 ページをご覧ください。

準備

接続する

スピーカーを設置する

本機は、最大 7.1 チャンネルのサラウンドに対応しています。最適なサラウンド効果が得られるよう、下図のようなスピーカー配置をおすすめします。

7.1 チャンネル構成の場合

6.1 チャンネル構成の場合

5.1 チャンネル構成の場合

スピーカーのチャンネルについて

■ フロント L/R スピーカー（FL / FR）

フロントチャンネルの音声（ステレオ音声）と効果音を出力します。リスニングルーム前方に、左右のスピーカーをリスニングポジションから等距離に設置します。画面の下辺から 4 分の 1 位の高さにフロントスピーカーのツィーターが位置するように、テレビ（スクリーン）の高さを調整します。

■ センタースピーカー（C）

会話やボーカルなど、画面中央に定位する音を出力します。フロント L/R スピーカーの中間に設置します。テレビをお使いの場合は、画面とスピーカーの前面を揃え、テレビの上や下など、できるだけ画面に近いところの中央に設置します。スクリーンをお使いの場合は、スクリーン真下の中央に設置します。

■ サラウンド L/R スピーカー（SL / SR）

サラウンド音と効果音を出力します。リスニングルーム左右後方に、リスニングポジションに向けて設置します。
5.1 チャンネル構成で使用する場合は、自然な音のつながりが得られるよう、7.1 チャンネル構成よりもやや後方にスピーカーを設置します。

■ サラウンドバック L/R スピーカー（SBL / SBR）/ サラウンドバックスピーカー（SB）

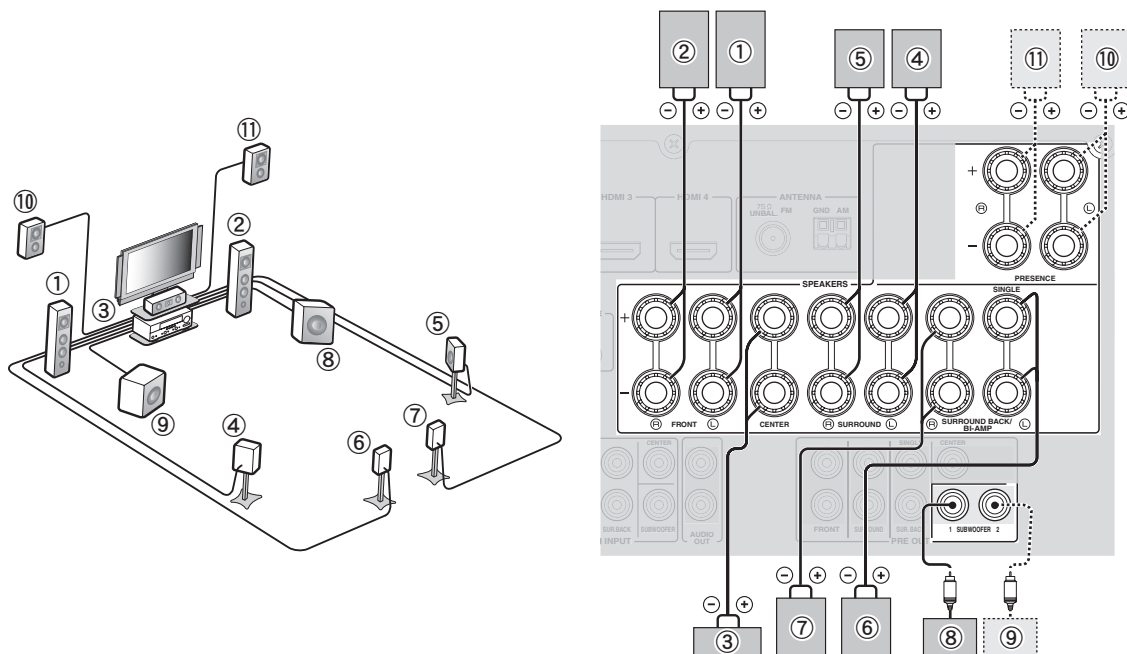
後方の効果音を出力します。サラウンドバックスピーカーは、リスニングルーム後方にリスニングポジションに向けて設置します。左右のスピーカーは 30cm 以上間隔を開けて設置してください。フロント L/R スピーカーと同じ間隔が理想的です。
6.1 チャンネル構成で使用する場合は、サラウンドバックの左右の音声がダウンミックスされ 1 つのスピーカーから出力されます。
5.1チャンネル構成で使用する場合、サラウンドバックの左右の音声は、サラウンドスピーカーに振り分けられて出力されます。

■ サブウーファー（SW）

Dolby Digital、DTS、AAC 信号に含まれる LFE（低域効果音）や低音を出力します。ヤマハ・アクティブサーボ・サブウーファーシステムなどの、アンプ内蔵サブウーファーをお使いください。リスニングルーム前方のフロント L/R スピーカーの外側に、壁の反射を防ぐために少し内向きにして設置します。

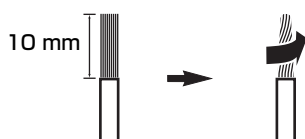
スピーカーを接続する

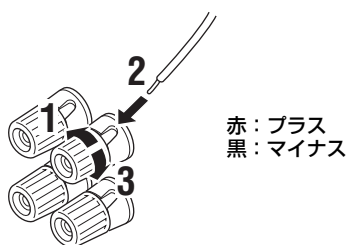
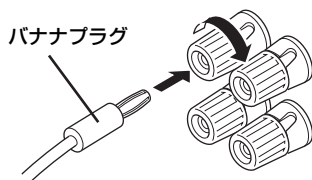
ご使用になる構成に合わせて端子とスピーカーを接続してください。下図は 7.1 チャンネル構成時のスピーカーの接続方法を表しています。

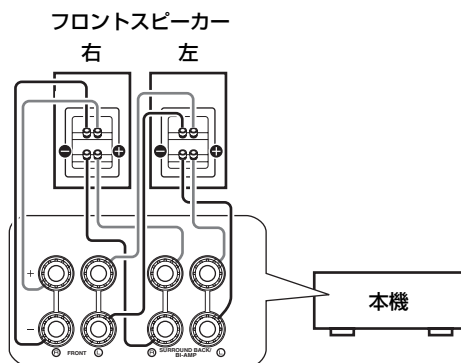
- 本機には 2 台のサブウーファーを接続できます。2 つのサブウーファーからは同じ音声が出力されます。

スピーカー	本機の端子	7.1 チャンネル	6.1 チャンネル	5.1 チャンネル
① フロント左	FRONT（L）	○	○	○
② フロント右	FRONT（R）	○	○	○
③ センター	CENTER	○	○	○
④ サラウンド左	SURROUND（L）	○	○	○
⑤ サラウンド右	SURROUND（R）	○	○	○
⑥ サラウンドバック左（6.1 チャンネル用サラウンドバック）	SURROUND BACK（L）（SINGLE）	○	○	
⑦ サラウンドバック右	SURROUND BACK（R）	○		
⑧ サブウーファー1	SUBWOOFER 1	○	○	○
⑨ サブウーファー2	SUBWOOFER 2	オプション	オプション	オプション
⑩ プレゼンス左	SP1 (L)	オプション	オプション	オプション
⑪ プレゼンス右	SP1 (R)	オプション	オプション	オプション

警告
- 一般的にスピーカーケーブルは、平行した2本の絶縁ケーブルです。ケーブルのうちの1本は極性を判別するために異なった色またはラインが入っています。異なった色の（またはラインの入っている、などの）ケーブルを本機とスピーカーの「+」（プラス、赤）へ、もう片方のケーブルを「−」（マイナス、黒）へ接続してください。
- スピーカーを接続する場合は、本機の電源プラグをコンセントからはずしてください。
- スピーカーケーブルの芯線どうしが接触したり、本機の金属部に触れたりしないようにしてください。本機やスピーカーが故障する原因となります。また、スピーカーケーブルがショートしていると、本機の電源をオンにしたときにフロントパネルディスプレイに「CHECK SP WIRES!」と表示されます。
- テレビ（ブラウン管タイプ）画面が乱れる場合は、テレビとスピーカーを離して設置してください。
- スピーカーはインピーダンスが 6Ω 以上のものをお使いください。

■ スピーカーケーブルを接続する

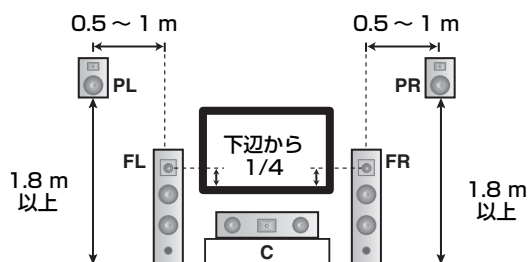
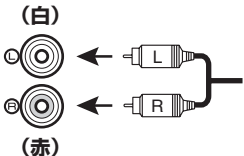
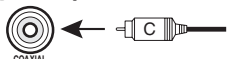
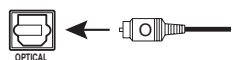
1 スピーカーケーブル先端の絶縁部（被覆）を10mm ほどはがし、ショートしないように芯線をしっかりとよじる。

2 スピーカー端子をゆるめ、端子側面のすき間にスピーカーケーブルの芯線を差し込んでから、端子を締め付ける。

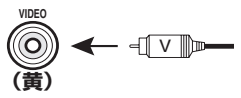
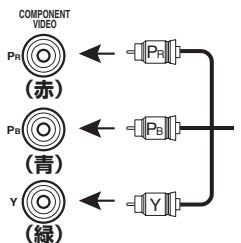
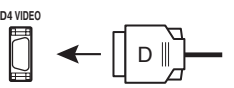
赤：プラス
黒：マイナス

バナナプラグを使って接続する
スピーカー端子をしっかりと締め付け、端子の先端にバナナプラグを差し込む。

■ スピーカーをバイアンプ接続する

サラウンドバックスピーカーを接続しない場合、SURROUND BACK/BI-AMP 端子を使用して、バイアンプ接続対応のスピーカーを接続できます。下図のようにスピーカーを本機に接続してください。また、アドバンストセットアップメニュー「BI-AMP」を「ON」に設定してください（57 ページ）。

警告
- バイアンプ接続を行う前に、必ずスピーカー側のウーファーとツィーターをつなぐ金具（またはケーブル）を取りはずしてください。詳しくは、スピーカーの取扱説明書をご確認ください。バイアンプ接続をしない場合は、上記の金具（またはケーブル）を必ず取り付けた状態で、スピーカーケーブルを接続してください。

ご注意
- スピーカーをバイアンプ接続した場合、サラウンドバックスピーカー、およびプレゼンススピーカーは使用できません。

■ プレゼンス L/R スピーカー（PL/PR）

音場プログラム（32 ページ）を選んでいるときに前方の効果音を出力することによって、より豊かなプレゼンス音場を実現できます。さらに CINEMA DSP 3D モードをオンすれば、より立体感のある音場効果を楽しめます（35 ページ）。また、セリフなどの中央に定位する音声の上下位置を調節できます（53 ページ）。
スピーカーを PRESENCE 端子（17 ページ）に接続し、「Presence Speaker」を「Yes」（48 ページ）に設定してください。

ご注意

- プレゼンススピーカーを使っている場合、サラウンドバックスピーカーから音声は出力されません。

端子とケーブル

本機は以下の入出力端子を装備しています。外部機器側の端子に合わせて、適切な端子およびケーブルをご使用ください。

■ 音声端子

端子とケーブル	説明
アナログ音声端子 	標準的なアナログステレオの音声信号を伝送します。接続にはステレオピンケーブルを使用します。
COAXIAL 端子 	同軸デジタル音声信号を伝送します。接続にはピンケーブルを使用します。
OPTICAL 端子 OPTICAL O	光デジタル音声信号を伝送します。接続には光ファイバーケーブルを使用します。

■ 映像端子

端子とケーブル	説明
VIDEO 端子 VIDEO V （黄）	標準的なコンポジットビデオ信号を伝送します。接続にはピンケーブルを使用します。
COMPONENT VIDEO 端子 	輝度信号（Y）と青色差信号（PB）、赤色差信号（PR）に分離したコンポーネントビデオ信号を伝送します。接続にはコンポーネントビデオケーブルを使用します。
D 端子 	輝度信号（Y）と青色差信号（PB）、赤色差信号（PR）に分離したコンポーネントビデオ信号、およびコントロール信号（走査線、アスペクト比などの情報）を伝送します。接続にはD 端子ケーブルを使用します。

- 本機の D 端子は、D1 から D4 ビデオまで対応しています。
- AV1 または AV2 を使って接続を行う場合は、D 端子 / COMPONENT VIDEO 端子の両方にケーブルを接続しないでください。両方にケーブルを接続した場合、画像が乱れることがあります。

■ 映像 / 音声端子

端子とケーブル	説明
HDMI 端子 	デジタルビデオ信号とデジタル音声信号を伝送します。接続には HDMI ケーブルを使用します。

- 接続には19ピンのHDMIケーブルで、HDMIロゴのついているものをお使いください。また、長さ 5.0m 以下のものを使うことをおすすめします。
- 本機をDVI端子のある機器に接続する場合は、HDMI端子 ↔ DVI-D 端子の変換ケーブルが必要です。
- HDMI 接続に関するエラー情報を確認できます（44 ページ）。

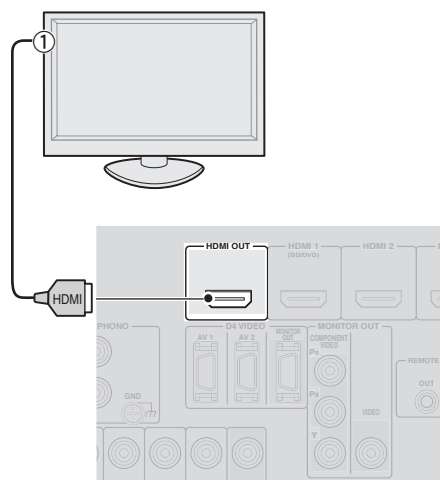
テレビやプロジェクターを接続する

テレビやプロジェクターなどのモニター機器に装備されている端子に合わせ、１つの種類の出力端子を選んで本機に接続します。DVD プレーヤーなどの再生機器を HDMI 端子を使って接続する場合は、モニター機器も HDMI 端子を使って接続してください。

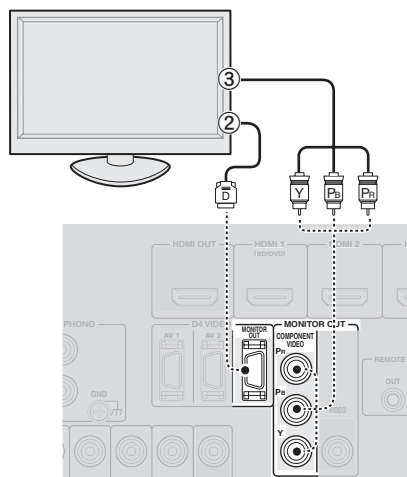
ご注意

- 接続する前に、すべての機器がコンセントに接続されていないことをご確認ください。

■ モニター機器に HDMI 入力端子がある場合

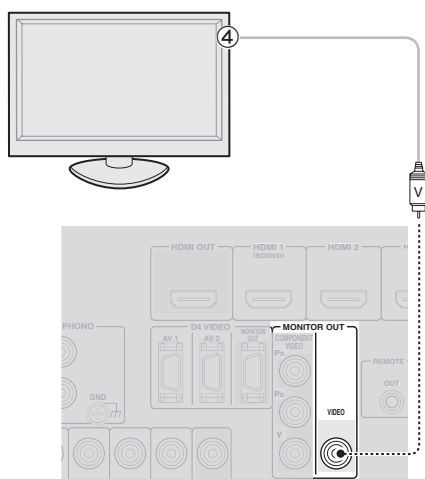
テレビまたはプロジェクター

	モニター側の端子	本機の端子
①	HDMI 入力	HDMI OUT

- 本機は HDMI コントロール機能に対応しています。HDMI コントロールに対応するテレビと接続すれば、テレビのリモコンで本機を操作できます。詳しくは 42 ページをご覧ください。

■ モニター機器にHDMI入力端子がなく、D端子 / コンポーネントビデオ入力端子がある場合

ご注意

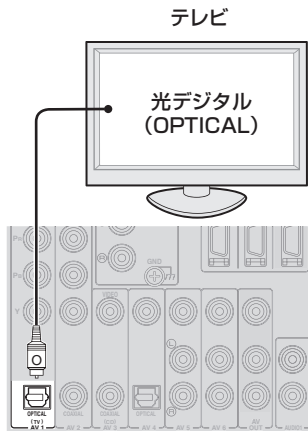
- D 端子と COMPONENT VIDEO 端子の両方を同時に接続しないでください。

	モニター側の端子	本機の端子
②	D 端子入力	D4 VIDEO MONITOR OUT
③	コンポーネント ビデオ入力	COMPONENT VIDEO MONITOR OUT

■ モニター機器にHDMI入力端子もD端子/コンポーネントビデオ入力端子もない場合

	モニター側の端子	本機の端子
④	ビデオ入力	VIDEO MONITOR OUT

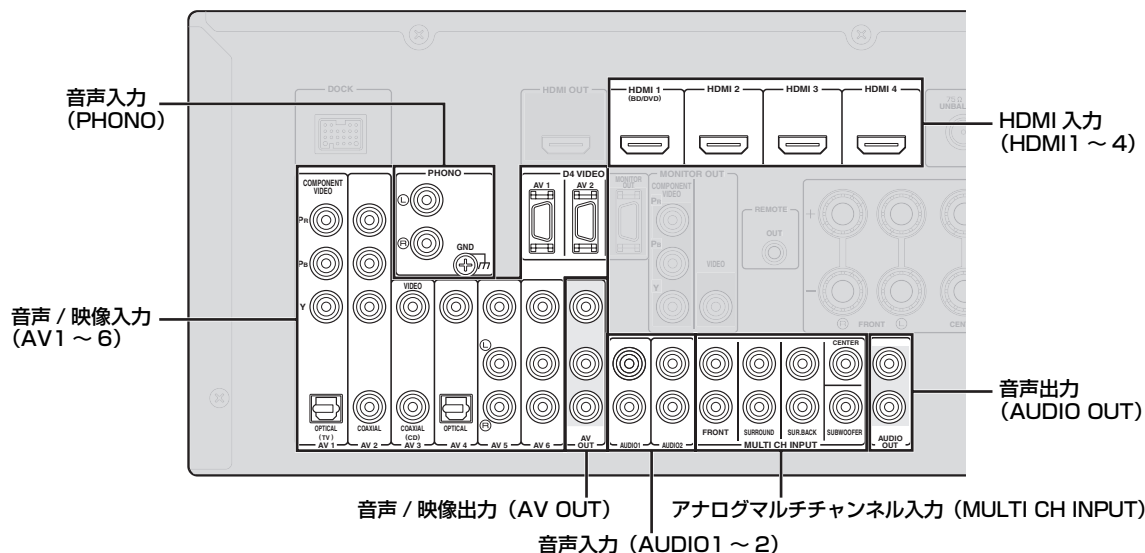
準備

テレビの音声を本機で出力するには

テレビの音声を本機で出力する場合は、本機の AV1 ～ 6 にテレビの音声出力端子を接続します。
テレビ側が光デジタル出力に対応している場合は、テレビの光デジタル出力を本機のAV1に接続することをおすすめします。AV1 と接続すれば、シーン機能（29 ページ）を使って、キー操作 1 つで入力ソースを AV1 に切り替えられます。

他の外部機器を接続する

本機には、入出力ソースごとに接続端子が用意されています。対応する入力ソースをフロントパネルやリモコンで選択すると、該当する機器の映像や音声を再生できます。

ご注意

- 接続する前に、すべての機器がコンセントに接続されていないことをご確認ください。

■ ブルーレイディスク /DVD プレーヤー、衛星チューナーなどの映像機器

外部機器の種類	信号の種類	外部機器の出力端子	本機の入力端子	
HDMI 出力を持つ外部機器	音声 / 映像	HDMI	HDMI1（BD/DVD）	
			HDMI2	
			HDMI3	
			HDMI4	
コンポーネントビデオ /D 端子出力を持つ外部機器	音声	光デジタル	AV1（TV）	OPTICAL
	映像	コンポーネント /D 端子		COMPONENT VIDEO/D4 VIDEO
	音声	同軸デジタル	AV2	COAXIAL
	映像	コンポーネント /D 端子		COMPONENT VIDEO/D4 VIDEO
ビデオ出力を持つ外部機器	音声	同軸デジタル	AV3（CD）	COAXIAL
	映像	ビデオ		VIDEO
	音声	光デジタル	AV4	OPTICAL
	映像	ビデオ		VIDEO
	音声	アナログ音声	AV5	アナログ音声
	映像	ビデオ		VIDEO
	音声	アナログ音声	AV6	アナログ音声
	映像	ビデオ		VIDEO

- カッコ付きの入力端子名は、シーン機能（29 ページ）の初期設定に対応する端子です。対応機器を接続すれば、シーン機能を初期設定のまま使用できます。
- フロントパネルディスプレイに表示される入力ソース名を変更できます（52 ページ）。
- 外部機器をアナログ音声端子とコンポーネントビデオ（またはビデオ）端子を使って本機に接続する場合、映像接続（コンポーネントビデオまたはビデオ）をすると同時に、アナログ音声出力端子を本機の AUDIO 1または AUDIO 2端子に接続してください。再生を楽しむときは、AUDIO 1または AUDIO 2を入力選択してから、映像入力ソースを選択してください（45 ページ）。

■ CD プレーヤーなどの音声機器

外部機器の種類	外部機器の出力端子	本機の入力端子	
光デジタル出力を持つ外部機器	光デジタル	AV1（TV）	OPTICAL
		AV4	OPTICAL
同軸デジタル出力を持つ外部機器	同軸デジタル	AV2	COAXIAL
		AV3（CD）	COAXIAL
アナログ音声出力を持つ外部機器	アナログ音声	AV5	アナログ音声
		AV6	アナログ音声
		AUDIO1	アナログ音声
		AUDIO2	アナログ音声
レコードプレーヤー	アナログ音声	PHONO	アナログ音声

- 同軸デジタル出力端子を装備した CD プレーヤーを接続する場合は、本機の AV ３端子へ接続してください。シーン機能を初期設定のまま使用できます。
- MM カートリッジまたは高出力型 MC カートリッジ付のレコードプレーヤーを接続する場合は、そのまま PHONO 端子に接続します。低出力型 MC カートリッジ付のレコードプレーヤーを接続する場合は、昇圧トランスまたは MC ヘッドアンプを使用して PHONO 端子に接続します。
- GND 端子は安全アースではありません。雑音が多いときに接続すると、雑音を低減できます。

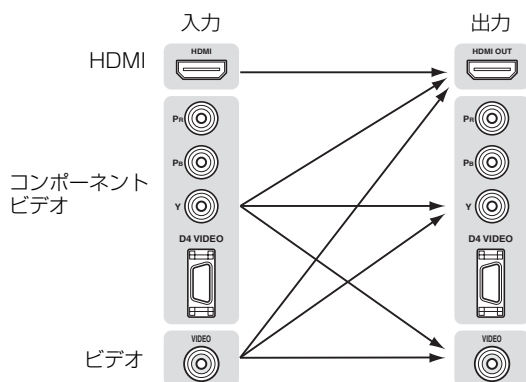
音声 / 映像出力端子について
AV OUT端子を使用する場合：外部機器をVIDEO端子/アナログ音声端子に接続してください。
AUDIO OUT端子を使用する場合：外部機器をアナログ音声端子に接続してください。

■ 信号の流れ

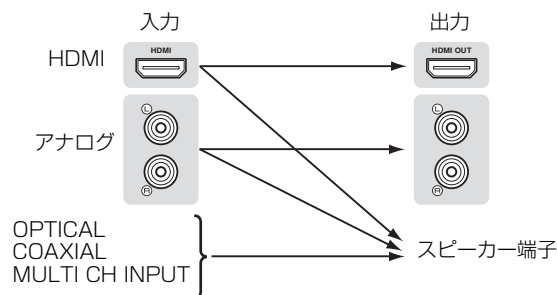
映像信号の流れ

本機は映像入力信号を自動的に変換し、HDMI OUT および MONITOIR OUT（D4/COMPONENT VIDEO/VIDEO）端子から出力します（ビデオコンバージョン機能）。

ご注意

- AV OUT（VIDEO）端子は、VIDEO 入力端子から入力した映像信号のみ出力します。

■ 音声信号の流れ

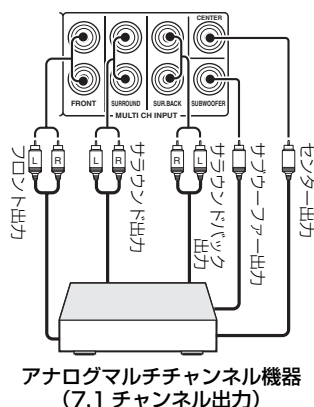
ご注意

- HDMI 入力端子から入力した音声信号は、「Audio Output」（50 ページ）の設定に応じてスピーカー端子または HDMI OUT 端子から出力されます。

■ アナログマルチチャンネル出力端子がある機器を接続する

DVD プレーヤーやスーパーオーディオ CD プレーヤーなど、アナログマルチチャンネル音声出力端子がある機器と本機を接続して、マルチチャンネル音声をお楽しみいただけます。アナログマルチチャンネル音声を楽しむには、「MULTI CH」を入力選択してください（29 ページ）。

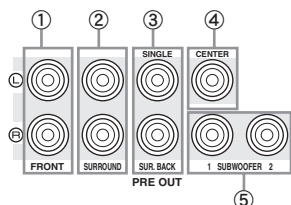
ご注意

- 「MULTI CH」を入力選択すると、（29 ページ）、音場プログラムは選べなくなります。
- スピーカーが接続されていないチャンネルの音声信号は出力されません。マルチチャンネル機器の音声を聴く場合は、5.1 チャンネル以上のスピーカー構成で楽しむことをおすすめします。
- アナログマルチチャンネル信号の音声と同時に楽しむ映像信号を入力選択できます（45 ページ）。DVD プレーヤーなどの機器がアナログマルチチャンネル音声出力端子を装備している場合、本機の MULTI CH INPUT 端子に接続してください。また、機器の映像端子を本機の AV1 ～ 6、または V-AUX 映像端子に接続してください。

アナログマルチチャンネル機器（7.1 チャンネル出力）

■ 外部パワーアンプを接続する

外部パワーアンプ（プリメインアンプ）を使用する場合は、PRE OUT 端子に接続します。各 PRE OUT 端子は、対応するスピーカー端子に同じチャンネル信号を出力します。

ご注意

- 本機のスピーカー端子にスピーカーを接続しないでください。

① **FRONT PRE OUT 端子**
フロント L / R チャンネルの信号を出力します。

② **SURROUND PRE OUT 端子**
サラウンド L / R チャンネルの信号を出力します。

③ **SUR.BACK PRE OUT 端子**
サラウンドバック L / R チャンネルの信号を出力します。外部パワーアンプを 1 つだけ接続する場合は、L 側（SINGLE）の端子に接続してください。

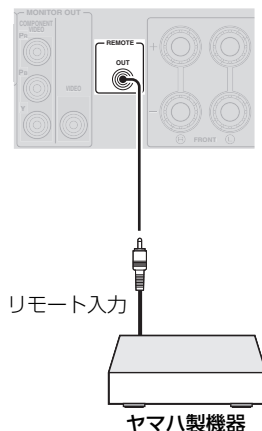
ご注意

- 「Surround Speaker」を「None」以外に設定してください（48 ページ）。

④ **CENTER PRE OUT 端子**
センターチャンネルの信号を出力します。

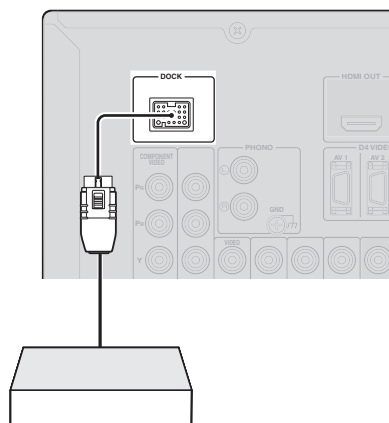
⑤ **SUBWOOFER PRE OUT 端子**
アンプ内蔵サブウーファーを接続します。

■ SCENE コントロール信号対応のヤマハ製機器とリモート接続する

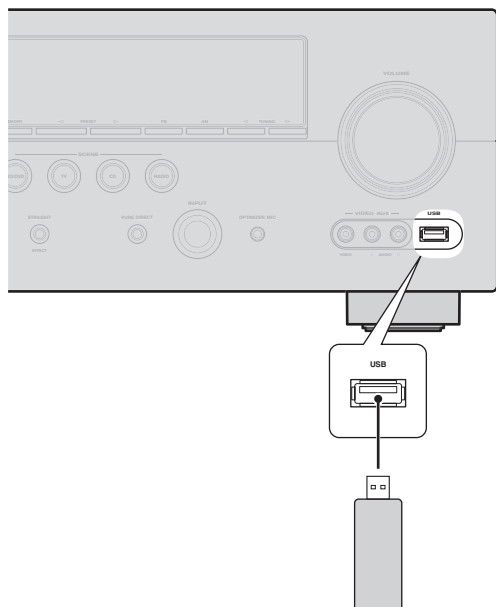
お使いの機器が SCENE コントロール信号の受信機能に対応しているヤマハ製機器の場合は、下図のようにモノラルミニプラグケーブルで本機の REMOTE OUT 端子に接続してください。

ヤマハ製機器

- SCENE コントロール信号の受信機能を持つヤマハ製機器を本機の REMOTE OUT 端子に接続してお使いの場合、9**SCENE**（または @**SCENE**）を押してシーン（29 ページ）を選ぶと自動的に再生が始まります。
- 本機の REMOTE OUT 端子に接続している機器がヤマハ製でない場合は、アドバンスドセットアップメニューの「SCENE IR」を「OFF」に設定してください（57 ページ）。

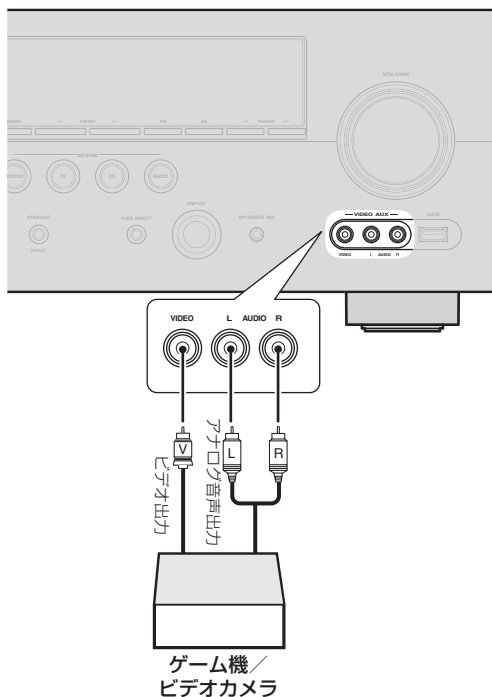
ヤマハ製iPodユニバーサルドック/Bluetooth®ワイヤレスオーディオレシーバーを接続する

本機には、ヤマハ製 iPod ユニバーサルドック（別売 YDS-11）や Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバー（別売 YBA-10）を接続できる DOCK 端子が装備されています。DOCK 端子にこれらのアダプターを接続すれば、本機を使って iPod や Bluetooth 機器の再生が楽しめます。

ヤマハ製iPodユニバーサルドック／Bluetoothワイヤレスオーディオレシーバー

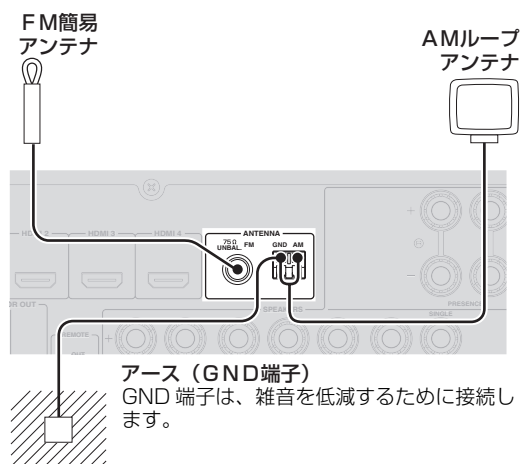
USBデバイスを接続する

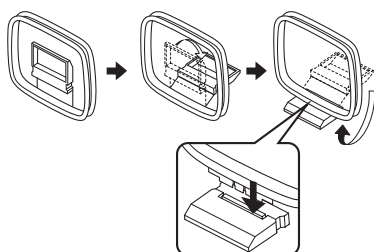
本機フロントパネルのUSB端子にUSBデバイスを接続します。本機が対応している USB デバイスについては 41 ページをご覧ください。

USBデバイス

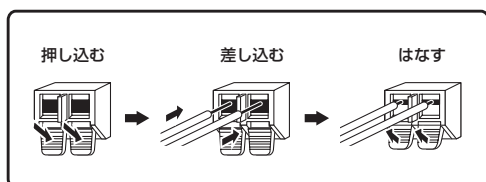
VIDEO AUX端子を使う

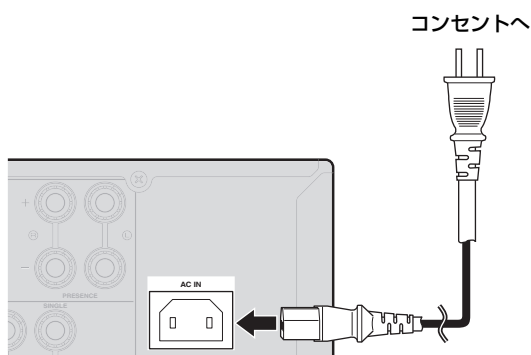
ビデオカメラやゲームなどの機器を手軽に接続したい場合は、フロントパネルの VIDEO AUX 端子を利用するのが便利です。本機と接続機器の音量を十分に下げてから接続してください。

ゲーム機／ビデオカメラ

FM/AMアンテナを接続する

本機には、FM 簡易アンテナと AM ループアンテナが付属しています。これらのアンテナを各端子に正しく接続してください。

- 通常は、付属のアンテナで十分な受信感度が得られます。
- AM ループアンテナは、本機から離して設置してください。
- 放送を良好に受信できない場合は、屋外アンテナを設置することをおすすめします。詳しくは、本機をお買い求めの販売店にお問い合わせください。
- 屋外アンテナを接続した場合でも、AM ループアンテナは必ず接続してください。

AM ループアンテナの組み立て方

AM ループアンテナの接続方法

AM ループアンテナのコードに極性はありません。AM 端子、GND 端子にはどちらのケーブルを接続しても構いません。

電源コードを接続する

すべての接続が終了したら、本機の電源ケーブルのプラグを家庭用 AC100V、50/60Hz のコンセントに電源プラグを接続します。

本機の電源をオンにする

1 **電源をオンにするには、ⓁSTANDBY/ON（または ⑯POWER）を押す。**

2 **電源をオフ（スタンバイ）にするには、もう一度ⓁSTANDBY/ON（または⑯POWER）を押す。**

- 電源をオンにしてから再生可能になるまで数秒かかります。
- @**SCENE**（⑨**SCENE**）を押して本機の電源をオンにすることもできます。
- 電源がスタンバイになっている間でも、少量の待機電力を消費します。長期間本機を使用しない場合は、電源プラグをコンセントから抜いておくことをおすすめします。

警告
本機の電源をオンにした状態で、電源ケーブルのプラグをコンセントから抜かないでください。故障の原因となったり、本機で行なった各種設定が正常に記憶されないことがあります。

スピーカーの出力特性を自動調整する（YPAO）

本機には、お使いのスピーカーの配置や性能、リスニングルームの音響特性を測定し、最適なバランスで出力されるようスピーカーの出力特性を自動調整する YPAO（Yamaha Parametric Room Acoustic Optimizer）が搭載されています。本機をご使用になる際には、最初に YPAO を使って調整を行うことをおすすめします。

ご注意

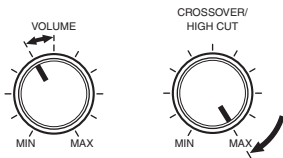
- 測定中テストトーンが大きな音量で出力されます。測定中は、リスニングルームに小さなお子様が入らないようご配慮ください。
- 最適な測定結果を得るため、測定中はリスニンググルームをできるだけ静かに保ってください。物音が鳴っている状況では、正確な測定結果が得られないことがあります。

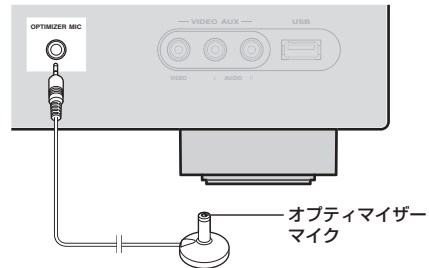
- スピーカーの出力特性は、セットアップメニューの「Manual Setup」を使って手動で設定することもできます。詳しくは、47 ページをご覧ください。

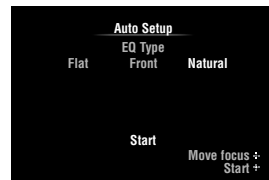
Auto Setup を実行する

1 測定環境に問題がないか確認する。

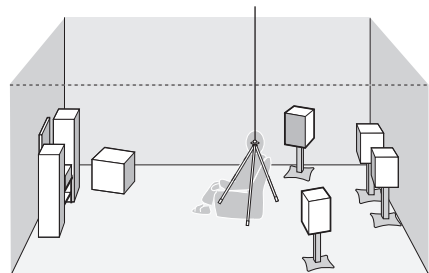
測定を始める前に、必ず以下のことをご確認ください。

- すべてのスピーカー、サブウーファーが正しく接続されている。
- ヘッドホンを取りはずしている。
- テレビが正しく接続されている。
- 本機とテレビの電源がオンになっている。
- テレビの映像入力が本機からの映像に切り替わっている。
- サブウーファーの電源をオンにして、音量が約半分（または半分よりやや小さめ）に設定されている。
- サブウーファーのクロスオーバー周波数が最大に設定されている。

サブウーファー

2 フロントパネルの ⓉOPTIMIZER MIC 端子に、付属のオプティマイザーマイクを接続する。

オプティマイザーマイク

フロントパネルディスプレイに「MIC ON. View GUI MENU」と表示されます。また、テレビに「Auto Setup」画面が表示されます。

- セットアップメニューを使って表示させることもできます（47 ページ）。

3 オプティマイザーマイクのヘッド部を上に向け、耳と同じ高さになるように視聴位置（リスニングポジション）へ置く。

オプティマイザーマイク

- マイクを耳と同じ高さに設置するために、三脚などを使うことをおすすめします。三脚に設置する場合は、三脚側のネジでオプティマイザーマイクを固定してください。

4 調整時のオーディオ特性を選択したい場合は、⑪ カーソル △ を押して「EQ Type」を選択し、⑪ カーソル ◁/▷ を押す。

⑪ **カーソル**が操作できない場合は、
⑩**ON SCREEN** を押してからもう一度操作してください。
本機には、周波数帯域ごとにレベルを調整できるパラメトリックイコライザーが搭載されています。自動測定されたスピーカー特性の結果を受け、一体感のある音場が得られるようにイコライザーが調節されます。
「EQ Type」では、ご希望のオーディオ特性を下記の中から選択できます。

Flat
各スピーカーの特性を均一にします。すべてのスピーカーの品質が同じ場合に設定してください。

Front
各スピーカーの特性をフロント L/R スピーカーに合わせます。フロントスピーカーの品質が他のスピーカーよりも大幅に優れている場合に選択してください。

Natural
すべてのスピーカーの音声を、自然な音質が得られるよう調整します。「Flat」では高域がきつく聞こえる場合に選択してください。

5 測定を開始するには、⑪ カーソル ▽ を押して「Start」を選択し、⑪ENTER を押す。

カウントダウンが始まり、約 10 秒後に測定が始まります。測定中は、大きな音量でテストトーンが出力されます。

ご注意

- 測定中は、本機を操作しないでください。
- ⑪ **カーソル** △ を押すと測定をキャンセルできます。

測定には約 3 分かかります。より正確な測定結果を得るため、測定を妨げない位置（スピーカーの横や後ろなど）に移動して物音などを立てないようにするか、リスニングルームの外で待機することをおすすめします。

問題なく測定が終わると、フロントパネルディスプレイに「YPAO Complete」と表示され、テレビに計測結果（Result）画面が表示されます。

Speaker Config
本機に接続されているスピーカーの数を、以下の順で表示します。
フロント、センター、プレゼンスの合計 /
サラウンド、サラウンドバックの合計 /
サブウーファー

Distance (Min / Max)
リスニングポジションからスピーカーまでの距離を以下の順で表示します。
最も近いスピーカーまでの距離 /
最も遠いスピーカーまでの距離

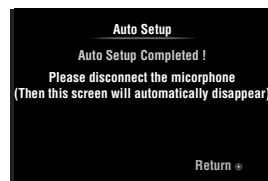
Level (Min / Max)
スピーカーの音量レベルを以下の順で表示します。
最も低い音量レベル / 最も高い音量レベル

ご注意

- 「Auto Setup」の実行中に「Error」と表示された場合、測定はキャンセルされ、エラー内容が表示されます。詳しくは「測定中にエラーメッセージが表示された場合」（28 ページ）をご覧ください。
- 測定中に問題が発生した場合は、「Check xx warning（s）」（xx は警告の数）と赤色で表示されます。詳しくは「測定後に警告メッセージが表示された場合」（28 ページ）をご覧ください。

6 ⑪ENTER を押す。

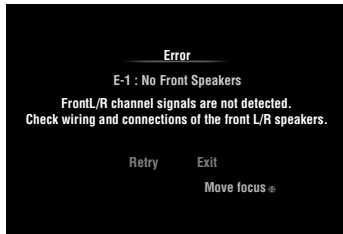
操作をキャンセルしたい場合は、⑪ **カーソル** ◁ / ▷ を押して「Cancel」を選択し、⑪**ENTER** を押します。

測定した結果に合わせて、スピーカーの出力特性が調整されます。
「Auto Setup Completed!」と表示されたら、オプティマイザーマイクを取りはずしてください。「Auto Setup」が終了します。

オプティマイザーマイクは熱に弱いため、測定が終了したら AV 機器の上など、高温になる場所や直射日光が当たる場所を避けて保管してください。

- スピーカーの数を変更した場合や、設置場所を変更したときは、もう一度「Auto Setup」を実施してください。

測定中にエラーメッセージが表示された場合

測定中にエラーが発生した場合、測定はキャンセルされ、「Error」が表示されます。エラー内容を確認し、問題を解決してください。エラーメッセージについては、66 ページをご覧ください。

[11] **カーソル** ▽ を一度押し、[11] **カーソル** ◁ / ▷ を使って「Retry」または「Exit」を選択し、[11]**ENTER** を押す。

Retry

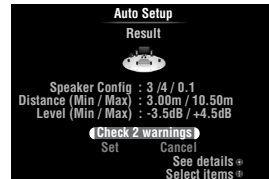
「Auto Setup」をもう一度実施します。

Exit

測定を中止して「Auto Setup」を終了します。

- 「E-5:NOISY」が表示された場合は測定を続行することも可能です。続行する場合は「Proceed」を選択します。ただし、問題を解決してから測定しなおすことをおすすめします。

測定後に警告メッセージが表示された場合

測定中に問題が発生した場合、結果表示画面に「Check xx warning（s）」が表示されます。警告内容を確認し、問題を解決してください。警告メッセージについては、67 ページをご覧ください。

- 警告メッセージが表示された場合、最適な設定は行われません。問題を解決してから再度「Auto Setup」を行うことをおすすめします。

1 「Check xx warning（s）」が選択されていることを確認し、[11]ENTER を押す。

警告メッセージの内容が表示されます。複数の警告がある場合は、[11] **カーソル** ▷ を押して次の警告を表示できます。

2 元の画面に戻るには、もう一度 [11]ENTER を押します。

基本操作

再生する

再生の基本操作

1　本機に接続した外部機器（テレビや DVD プレーヤーなど）の電源をオンにする。

2　ⓈINPUT セレクターを回して（または 5 入力ソース選択キーを押して）入力ソースを選択する。

- メニュー画面から入力ソースを選択することもできます（30ページ）。
- フロントパネルディスプレイに表示される入力ソース名を変更できます（52 ページ）。

3　入力ソースとして選択した外部機器を再生する、またはチューナーの放送局を選択する。

外部機器の再生方法については各機器に付属の取扱説明書をご覧ください。選局方法や本機を使った iPod/Bluetooth 機器 / USB デバイスの再生方法については以下をご覧ください。

- FM/AM 放送を聴く（36 ページ）
- Bluetooth 機器を再生する（40 ページ）
- iPod を再生する（38 ページ）
- USB デバイスを再生する（41 ページ）

4　音量を調節するには、ⓀVOLUMEコントロールを回す（または 18 VOLUME +/– を押す）。

ご注意

DTS-CD を再生した場合、使用状況によってはノイズが再生され、スピーカーが破損する原因になることがあります。再生する前に音量が十分に下がっていることを確認のうえ、ノイズが再生された場合は、下記の対策を行ってください。

1) ノイズだけが再生される
DTS のビットストリームが本機に正しく入力されていない場合は、ノイズだけが再生されます。本機と再生機器をデジタル接続して再生してください。症状が解消しない場合は、再生機器側に問題がある可能性があります。再生機器のメーカーにお問い合わせください。

2) 再生 / スキップ操作時にノイズが発生する
DTS-CD を再生する際に、入力ソース選択後にオプションメニューを表示して「Decoder Mode」を「DTS」に設定してください（43 ページ）。

シーン機能を使う

本機には、キー操作 1 つで入力ソースや音場プログラムなどを一括して切り替えられる「シーン機能」が搭載されています。映画鑑賞や音楽鑑賞など、使用目的に合わせた 4 つのシーンが用意されており、以下のような入力ソースと音場プログラムが初期設定されています。

キー名称	入力ソース	音場プログラム
BD/DVD	HDMI1	Straight
TV	AV1	Straight
CD	AV3	Straight
RADIO	TUNER	7ch Enhancer

- 本機が STANDBY のときに ⓆSCENE（または 9 SCENE）を押すと、本機の電源をオンにできます。
- SCENEコントロール信号の受信機能を持つヤマハ製DVDプレーヤーを本機の REMOTE OUT 端子に接続してお使いの場合、ⓆSCENE BD/DVD（または 9 SCENE BD/DVD）を押すと、自動的に再生が始まります。

シーンを選択するには

ⓆSCENE（または 9 SCENE）を押す。

- メニュー画面からシーンを選択することもできます（30ページ）。

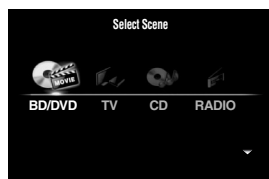
好みの入力ソース / 音場プログラムをシーンに登録するには

登録したい入力ソース / 音場プログラムを選択し、フロントパネルディスプレイに「SET Complete」と表示されるまで、設定を変更する ⓆSCENE（または ⑨SCENE）を押し続ける。

- 登録した入力ソース用のリモコンコードを設定すると（56 ページ）、⑨**SCENE** を押したあとに、リモコンで外部機器を操作できます。

メニュー画面からソースを選択する

テレビに表示されるメニューを使ってソースを選択することもできます。

1 リモコンの ⑩ON SCREEN を押す。
メニュー画面が表示されます。

2 ⑪ カーソル △ / ▽ を使ってカテゴリーを選択し、⑪ カーソル ◁ / ▷ を押して入力ソースを変更する。

カテゴリー	ソース
Scene	BD/DVD、TV、CD、RADIO
Media	USB、DOCK、TUNER、PHONO、V-AUX、MULTI CH
Input	HDMI1 ～ 4、AV1 ～ 6、AUDIO1 ～ 2

- 「Scene」の中に再生したい入力ソースがある場合、こちらから選択すると、入力ソースと音場プログラムなどを一括して切り替えられます。

3 ⑪ENTER を押す。

一時的に消音する（ミュート）

1 消音するには、ⒸMUTE（または ⑳MUTE）を押す。

2 消音を解除するには、もう一度 ⒸMUTE（または ⑳MUTE）を押す。

高音 / 低音を調整する（トーンコントロール）

フロント L/R スピーカーまたはヘッドホンから出力される音声の高音域（Treble）と低音域（Bass）のバランスを変更して、お好みの音色に調整します。

- スピーカーとヘッドホンは個別にトーンコントロールを設定できます。ヘッドホンのトーンコントロールを調節するには、ヘッドホンを接続した状態で操作を行ってください。

1 フロントパネルのⓃTONE CONTROLを繰り返し押して、「Treble」または「Bass」を選択する。

```
Treble   0.0dB
```

2 ⓄPROGRAM セレクターを回して、音量の増減を調節する。
調節範囲：–10.0dB ～ +10.0dB
数秒後に元の表示に戻ります。

ご注意

- ピュアダイレクトモードで再生しているときや「MULTI CH」を入力選択しているときは、トーンコントロールの設定は無効になります。

原音に忠実な音質で楽しむ（ピュアダイレクトモード）

ピュアダイレクトモードは、入力された音声を最小限の回路構成で出力する機能です。原音に忠実な音質で入力ソースの音声を楽しみたいときに使用します。

ⓇPURE DIRECT（または ⑧PURE DIRECT）を押して、ピュアダイレクトモードのオン / オフを切り替える。
ピュアダイレクトモードをオンにしている間は、以下の機能が無効になります。

- 他の音場プログラム、トーンコントロールの設定
- オプションメニューやセットアップメニューの表示および操作

- ピュアダイレクトモードをオンにしている間、フロントパネルディスプレイは非表示になります。オフに戻すと再度表示されます。

ヘッドホンを使用する

フロントパネルの ⓂPHONES 端子に、ヘッドホンのプラグを差し込む。

ヘッドホンの使用中に音場プログラムを選択すると、自動的にサイレントシネマ ™ モードに切り替わります。

ご注意

- ヘッドホンを接続している間、スピーカーから音声は出力されません。
- マルチチャンネルの信号を再生した場合、すべてのチャンネルの音声が左右のチャンネルに振り分けられます。「MULTI CH」を入力選択している場合は、フロント L / R チャンネルのみ出力されます。

フロントパネルディスプレイに表示する情報を切り替える

フロントパネルディスプレイに以下の情報を表示できます。表示を切り替えるには、ⒹINFO（または 7INFO）を押します。

- 選択中の入力ソース名（Input）
- 選択中の音場プログラム（DSP Program）
- 選択中のサラウンドデコーダー（Audio Decoder）
- FM/AM チューナーの周波数（Frequency）
- USB/iPod 再生時の情報（Song、Artist、Album、List）

たとえば HDMI1 を入力選択し、「DSP Program」を表示した場合は、フロントパネルディスプレイに以下のように表示されます。

それぞれの入力ソースでは次ページの情報を表示できます。

入力ソース	表示項目
HDMI 1～4 AV 1～6 AUDIO 1～2 V-AUX PHONO iPod（DOCK）（ノーマルモード） BLUETOOTH（DOCK）	Input DSP Program Audio Decoder
USB iPod（DOCK）（メニュー表示モード）	（再生時の画面表示中） DSP Program Audio Decoder Song Artist Album （メニュー表示中） List
TUNER	Frequency DSP Program Audio Decoder
MULTI CH	Input

音場プログラムを楽しむ

本機には、ヤマハデジタルサウンドフィールドプロセッシング（DSP）チップを搭載しています。記憶されたさまざまな音場プログラムや多彩なデコーダーを使って、入力ソースのほぼすべてをマルチチャンネル音声で楽しむことができます。

音場プログラムを選択する

■ フロントパネルで音場プログラムを選択するには

◎**PROGRAM セレクター**を回してお好みの音場プログラムを選択します。

■ リモコンで音場プログラムを選択するには

音場プログラムのカテゴリーに合わせて、以下の操作を行います。
映像用音場プログラム ....8**MOVIE** を繰り返し押します。
音楽用音場プログラム ....8**MUSIC** を繰り返し押します。
ステレオ再生..8**STEREO** を繰り返し押します。
マルチチャンネルステレオ再生用音場プログラム............8**STEREO** を繰り返し押します。
コンプレストミュージック・エンハンサー ....8**STEREO** を繰り返し押します。
サラウンドデコーダー ....8**SUR.DECODE** を繰り返し押します。

たとえば映像用音場プログラムの「Sci-Fi」を選択した場合は、フロントパネルディスプレイへ以下のように表示されます。

ご注意

- 音場プログラムは、入力ソースごとに記憶されます。入力ソースを切り替えると、該当する入力ソースで前回選択されていた音場プログラムが呼び出されます。
- Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD、DTS Express、DTS-HD Master Audio、DTS-HD High Resolution Audio 信号、およびサンプリング周波数が９６ kHz を超える信号を再生している場合、ストレートデコードモード（35 ページ）で再生されます。

音場プログラムガイド

本機には、音楽用、映像用、ステレオ再生用など、複数カテゴリーの音場プログラムが用意されています。音場プログラムの名前や説明にこだわらず、再生するソースが最も心地よく聴こえるプログラムを選択してください。

- 現在信号を出力しているスピーカーは、フロントパネルディスプレイのスピーカーインジケーターで確認できます（11 ページ）。
- それぞれのプログラムは、音場の要素（音場パラメーター）を調節できます。詳しくは 52 ページをご覧ください。
- 表中の CINEMA DSP は、シネマ DSP（71 ページ）を使った音場プログラムを表します。

映像用音場プログラム（MOVIE） CINEMA DSP

プログラム	特長
スタンダード Standard	Dolby Digital、DTS および AAC などの各種マルチチャンネル音声のオリジナル定位を乱すことなく、サラウンドの包囲感を重視した音場です。「理想的な映画館」をコンセプトにデザインされた音場で、視聴者を左右後方から美しい響きで包み込みます。
スペクタクル Spectacle	壮大なスケール感を演出するスペクタクルな音場です。シネスコサイズのワイド画面にマッチする広大な空間再現と微小な効果音から迫力の大音響まで、ダイナミックレンジの広い音場感が特長です。
サイファイ Sci-Fi	最新 SFX 映画の緻密なサウンドデザインを鮮やかに描き分ける抜けの良い音場です。セリフ、効果音、BGM の明快な分離感を保ちつつ各々の異なった空間を鮮やかに再現します。

プログラム	特長
アドベンチャー Adventure	アクション＆アドベンチャー映画に最適な音場です。響きを抑え、左右の拡がり感を重視した力強い空間を再現します。奥行感は浅めで各チャンネルのセパレーションや音の明瞭度を保ちつつ、クリアで力強い空間を再現します。
ドラマ Drama	シリアスなドラマからミュージカルやコメディまで、幅広いジャンルの映画に対応する落ち着いた響きが特長の音場です。控えめな響きでありながら適度な立体感を持ち、セリフの明瞭度とセンター定位を軸に効果音や BGM が柔らかな響きで立体的に再現されます。長時間聴いていても疲れません。
モノムービー Mono Movie	往年のモノラル映画を当時の映画館の雰囲気で楽しめる音場です。音声に拡がりと適度な残響が付加され、奥行感をともなった心地よい空間が再現されます。
スポーツ Sports	ステレオ放送のスポーツ中継やスタジオバラエティ番組がライブ感豊かに楽しめます。スポーツ中継では解説者やアナウンサーの声はセンターに明瞭に定位し、歓声も含め場内の雰囲気は適度な空間の中で周囲に拡がり、その場にいるような臨場感が体感できます。
アクションゲーム Action Game	カーレースや FPS などのアクションゲームに合わせてデザインされた音場です。チャンネル毎に効果の範囲を制限した反射音データを用いることで、明瞭な方位感を保ちつつさまざまな効果音の存在感を高め、臨場感と迫力のあるプレイ環境を提供します。
ロールプレイングゲーム Roleplaying Game	RPG やアドベンチャーゲームなどに合わせてデザインされた音場です。映画用の音場効果と、Action Game で用いた音場デザインを組み合わせることで、プレイ中のフィールドの奥行きや立体感を演出し、ムービーシーンでは映画的なサラウンド効果を提供します。

音楽用音場プログラム（MUSIC） CINEMA DSP

プログラム	特長
ホール イン ミュンヘン Hall in Munich	ヨーロッパに多くみられる、内装材にシックな木の内張りが使われた、ミュンヘンにある 2500 席程度のコンサートホールです。繊細な美しい響きが豊かに拡がり、落ち着いた雰囲気を持っています。座席の位置は 1 階の中央左寄りです。
ホール イン ウィーン Hall in Vienna	1700 席程度のウィーンの伝統的なシューボックス型の中規模コンサートホールです。周囲の柱や彫刻により、全方向からの複雑な反射音を生み出しています。豊かな響きが特長です。
チェンバー Chamber	宮廷の大広間のような天井の高い比較的広めの空間で、宮廷音楽や室内楽に適した心地よい残響が特長の音場です。
セラークラブ Cellar Club	天井の低いアットホームなライブハウスです。小さなステージのすぐ前にいるような、リアルでライブな音場で、強い響きが特長です。
ザ ロキシー シアター The Roxy Theatre	ロサンゼルスにあるロック系ライブハウスで、客席は最高時で約 460 程です。客席中央左寄りの音場です。
ザ ボトム ライン The Bottom Line	かつてニューヨークに存在した有名なライブハウス「ザ・ボトム・ライン」のステージ正面の音場です。フロアは 300 席ある左右に幅広い客席で占められ、明瞭な響きが特長の音場です。
ミュージックビデオ Music Video	ポップス・ロック・ジャズなどのライブコンサート会場のイメージです。ステージ上のボーカルやソロ楽器のリアル感と、リズム楽器のノリを重視したプレゼンス音場に加え、広大なライブ会場の空間を再現するサラウンド音場により、ホットなライブ空間に浸れます。

ステレオ再生用音場プログラム（STEREO）

プログラム	特長
2 チャンネル ステレオ 2ch Stereo	ステレオ前方からのステレオ音声が楽しめる、基本的な再生モードです。

• マルチチャンネル信号が入力されると、入力信号は 2 チャンネルにダウンミックスされ、フロント L/R スピーカーから出力されます。

基本操作

マルチチャンネルステレオ再生用音場プログラム（STEREO） CINEMA DSP

プログラム	特長
7チャンネル ステレオ 7ch Stereo	後方からも直接音が聴け、広いエリアで楽しめる効果が特長の再生モードです。ホームパーティーのBGMに最適です。

コンプレストミュージック・エンハンサー（ENHANCER）

プログラム	特長
ストレート エンハンサー Straight Enhancer	2 チャンネルまたはマルチチャンネルの圧縮オーディオフォーマットを、再生ソースのチャンネル数をそのままに、ダイナミックに再生します。
7チャンネル エンハンサー 7ch Enhancer	再生ソースのチャンネル数にかかわらず、圧縮オーディオフォーマットを、7 チャンネルでダイナミックに再生します。

サラウンドデコーダー（SUR. DECODE）

サラウンドデコーダーを使って、2 チャンネルソースを最大 7 チャンネルで再生します。

デコーダー	特長
プロロジック Pro Logic	Dolby Pro Logic デコーダーです。すべてのソースに適しています。
ムービー PLIIx Movie/ ムービー PLII Movie	Dolby Pro Logic IIx（または Dolby Pro Logic II）デコーダーです。映画鑑賞に適しています。視聴環境が下記の条件の場合、Dolby Pro Logic IIx デコーダーは選択できません。 • サラウンドバックスピーカーを使用していない場合 • ヘッドホンを接続している場合
ミュージック PLIIx Music/ ミュージック PLII Music	Dolby Pro Logic IIx（または Dolby Pro Logic II）デコーダーです。音楽鑑賞に適しています。視聴環境が下記の条件の場合、Dolby Pro Logic IIx デコーダーは選択できません。 • サラウンドバックスピーカーを使用していない場合 • ヘッドホンを接続している場合
ゲーム PLIIx Game/ ゲーム PLII Game	Dolby Pro Logic IIx（または Dolby Pro Logic II）デコーダーです。ゲームに適しています。視聴環境が下記の条件の場合、Dolby Pro Logic IIx デコーダーは選択できません。 • サラウンドバックスピーカーを使用していない場合 • ヘッドホンを接続している場合
シネマ Neo:6 Cinema	DTS Neo:6 デコーダーです。映画鑑賞に適しています。
ミュージック Neo:6 Music	DTS Neo:6 デコーダーです。音楽鑑賞に適しています。

• 「MULTI CH」を入力選択している場合は、ストレートデコードモード（35 ページ）で再生します。

音場効果をかけずに再生する（ストレートデコードモード）

ストレートデコードモードは、音場効果をかけずに再生する機能です。2 チャンネルの再生ソースの場合、フロント L/R スピーカーからステレオ音声で再生します。マルチチャンネルの入力ソースの場合は、ソースを適切なデコーダーでデコードし、音場効果をかけずにマルチチャンネル音声で再生します。

1 ストレートデコードモードを有効にするには、ⓅSTRAIGHT（または ⑧STRAIGHT）を押す。

フロントパネルディスプレイに「Straight」と表示されます。

2 ストレートデコードモードを解除するには、もう一度 ⓅSTRAIGHT（または ⑧STRAIGHT）を押す。

フロントパネルディスプレイに音場プログラム名が表示され、音場効果がかかった状態に戻ります。

サラウンドスピーカーなしで音場プログラムを楽しむ（バーチャルシネマ DSP）

バーチャルシネマ DSP は、サラウンドスピーカーがない場合でも、仮想スピーカーを創り出すことによって自然な音場効果を再現する機能です。フロントスピーカーのみの構成でも、音場プログラムの臨場感あふれる再生を楽しめます。
セットアップメニューの「Surround Speaker」（48 ページ）を「None」に設定するとバーチャルシネマ DSP モードに切り替わります。

ご注意

- 以下の場合は、「Surround Speaker」を「None」に設定しても（48 ページ）、バーチャルシネマ DSP モードは動作しません。
  – ヘッドホンを PHONES 端子に接続しているとき
  – 音場プログラムの 7ch Stereo を選択しているとき
  – ピュアダイレクトモードまたはストレートデコードモードを使用しているとき

ヘッドホンで音場プログラムを楽しむ（サイレントシネマ ™）

サイレントシネマは、マルチチャンネルソースを、ヘッドホンで楽しむ機能です。音場プログラム（32 ページ）を選択しているときにヘッドホンを PHONES 端子に接続すれば、自動的にサイレントシネマモードに切り替わります。

ご注意

- 以下の場合は、サイレントシネマモードは動作しません。
  – 音場プログラムの 2ch Stereo を選択しているとき
  – ピュアダイレクトモードまたはストレートデコードモードを選択しているとき

より立体的な音場を楽しむ（CINEMA DSP 3D モード）

CINEMA DSP 3D モードでは、より緻密で立体的な3D感覚の音場をリスニングルームに再現します。CINEMA DSP 3D モードで楽しむにはプレゼンススピーカーが必要です。以下の内容を行ってから、シネマ DSP 音場プログラムを選択してください。CINEMA DSP 3Dモードで再生しているときは、フロントパネルディスプレイに 3D インジケーターが点灯します。

- プレゼンススピーカーを PRESENCE 端子に接続する（17 ページ）
- 「Presence Speaker」を「Yes」に設定する（48 ページ）
- 「3D DSP」を「On」に設定する（53 ページ）
- PHONES 端子からヘッドホンを取り外す

FM/AM 放送を聴く

本機の FM/AM チューナーは、以下の 2 種類の方法でチューニングが行えます。

■ **ノーマルチューニングモード**
放送局をサーチしたり、周波数を直接指定したりして FM/AM 放送を受信します。

■ **プリセットチューニングモード**
あらかじめ FM/AM 放送局をプリセット（登録）しておき、プリセット番号を指定して放送局を呼び出します。

ご注意

- 受信感度が最良になるように、本機に接続した FM/AM アンテナの向きや位置を調節してください。

FM/AM 放送を受信する（ノーマルチューニング）

1 Ⓢ INPUT セレクターを回して（または [5] TUNER を押して）、入力ソースを「TUNER」に切り替える。

2 Ⓖ FM（[6] FM）または Ⓗ AM（[6] AM）を押してバンドを選択する。

3 Ⓘ TUNING ◁ / ▷（または [6] TUNING △ / ▽）を押して、周波数を指定する。
放送局を受信するとフロントパネルディスプレイの TUNED インジケーターが点灯します。放送局をステレオで受信している場合は、STEREO インジケーターも表示されます。

STEREO
TUNED
FM 82.5 MHz

Ⓘ **TUNING** ◁ / ▷（または [6] **TUNING** △ / ▽）の押し方に応じて以下のように動作が変わります。

キーを 1 秒以上押し続けた場合（自動選曲）
現在の周波数前後にある受信可能な放送局を自動的にサーチします。電波が強く、受信を妨げる障害物がない場合に効果的です。サーチが始まったらキーから手を離してください。

キーを押してすぐに放した場合（手動選曲）
周波数を 0.1 ずつ増減します。受信したい放送局の電波が弱く、自動選曲ではうまく受信できない場合に使います。

- FM 放送のステレオ / モノラルを切り替えは、オプションメニュー（45 ページ）から行えます。

4 周波数を直接指定して受信するには、リモコンの [13] 数字キーを使って受信したい放送局の周波数を入力する。
小数点は省略して入力します。例えば 77.1MHz の放送局を選択する場合は、[13] **数字キー**で「771」と入力します。

ご注意

- プリセットチューニング中、[13] **数字キー**を押すとプリセット番号が選択されます。Ⓘ **TUNING** ◁ / ▷（または [6] **TUNING** △ / ▽）を押してノーマルチューニングモードに切り替えてから操作を行ってください。
- 受信範囲外の周波数を入力した場合、フロントパネルディスプレイに「Wrong Station!」と表示されます。入力した周波数が正しいかご確認ください。

FM/AM 放送局を登録して使用する（プリセットチューニング）

放送局は 40 局まで登録（プリセット）できます。「オートプリセット」または「マニュアルプリセット」のいずれかの方法で放送局を登録してください。

オートプリセットで登録する

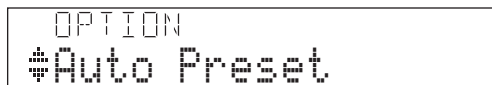
電波の強い放送局を検出し、自動的に 40 局まで登録します。AM 放送局は自動で登録できません。マニュアルプリセットで登録を行ってください。

1 Ⓢ INPUT セレクターを回して（または [5] TUNER を押して）、入力ソースを「TUNER」に切り替える。

2 リモコンの [17] OPTION を押す。
オプションメニュー（43 ページ）がフロントパネルディスプレイに表示されます。

- オプションメニューは、テレビにも表示されます。

3 リモコンの [11] カーソル △ / ▽ を使って「Auto Preset」を選択し、[11] ENTER を押す。

OPTION
⇕Auto Preset

約 5 秒後に、周波数の最小値から高い周波数に向かってオートプリセットを開始します。

- フロントパネルディスプレイに「READY」と表示されているときに [6] **PRESET** △ / ▽ または [11] **カーソル** △ / ▽ を押すと、オートプリセットを開始するプリセット番号を指定できます。
- 登録を中止したい場合は、[11] **RETURN** を押してください。

進行状況

READY
01:FM 76.0 MHz

プリセット番号　周波数

オートプリセットの実行中、登録が行われるたびにフロントパネルディスプレイに「MEMORY」と表示されます。
登録完了すると「FINISH」と表示され、自動的にオプションメニューに戻ります。リモコンの ⑰**OPTION** を押すと、元の状態に戻せます。

マニュアルプリセットで登録する

AM 放送局や、電波の弱い FM 放送を手動で登録します。

1 「FM/AM 放送を受信する」(36 ページ) を参考にして、放送局を受信する。

2 ⒺMEMORY(または ⑥MEMORY)を押す。
フロントパネルディスプレイに「Manual Preset」と表示され、しばらくすると登録先となるプリセット番号が表示されます。

- Ⓔ**MEMORY**(または ⑥**MEMORY**)を 2 秒以上押し続けると、手順3～4を省略して、前回登録したプリセット番号の次に空いている番号に放送局を登録します。

3 ⒻPRESET ◁ / ▷ (または ⑥PRESET △ / ▽) を押して、登録先となるプリセット番号を選択する。
空のプリセット番号を選択すると「Empty」と表示されます。登録済みのプリセット番号を選択した場合は、登録されている周波数がプリセット番号の右側に表示されます。

プリセット番号

新規登録する周波数

82.5
01:Empty

点滅

- ⑬ **数字キー**を使ってプリセット番号を選択することもできます。

4 登録を行うには、もう一度 ⒺMEMORY (または ⑥MEMORY) を押す。
登録が終わると、元の表示に戻ります。

- リモコンの ⑪**RETURN** を押す(または約 30 秒間操作をしない) と、登録を中止できます。

登録した放送局を呼び出す(プリセットチューニング)

オートプリセットまたはマニュアルプリセットで登録した放送局を呼び出します。

ⒻPRESET ◁ / ▷(または ⑥PRESET △ / ▽) を押して、プリセット番号を選択する。

- 登録されていないプリセット番号はスキップされます。
- すべてのプリセット番号が未登録の場合は、「No Presets」または「No Presets in Memory」と表示されます。36 ページをご覧になり、放送局を登録してください。
- プリセットチューニング中は、⑬ **数字キー**を押してダイレクトにプリセット番号を指定できます。未登録のプリセット番号を入力した場合は「Empty」、無効な番号を入力した場合は「Wrong Num.」と表示されます。
- ノーマルチューニング中、⑬ **数字キー**を押すと周波数が入力されます。Ⓕ**PRESET** ◁ / ▷(または ⑥**PRESET** △ / ▽)を押してプリセットチューニングモードに切り替えてから操作を行ってください。

プリセット放送局の登録を解除する

1 ⓈINPUT セレクターを回して (または ⑤TUNER を押して)、入力ソースを「TUNER」に切り替える。

2 リモコンの ⑰OPTION を押す。
オプションメニューがフロントパネルディスプレイに表示されます。

3 ⑪ カーソル △ / ▽ を使って「Clear Preset」を選択し、⑪ENTER を押す。
以下の画面が表示されます。

CLEAR
◆01:FM 82.5 MHz

登録を解除するプリセット番号

- リモコンの ⑪**RETURN** を押すと、操作を中止してオプションメニューに戻すことができます。

4 ⑪ カーソル △ / ▽ を使って、登録を解除したいプリセット番号を選択し、⑪ENTER を押す。
選択したプリセット番号が登録解除されます。複数のプリセット番号を登録解除したい場合は、同じ操作を繰り返してください。

5 操作を終了するには、⑰OPTION を押す。

基本操作

iPod を再生する

リアパネルの DOCK 端子に接続したヤマハ製 iPod ユニバーサルドック（別売 YDS-11 など）に iPod をセットすれば（24 ページ）、iPod を本機のリモコンで操作したりテレビに表示されるメニューを見ながら操作したりすることができます。また、コンプレストミュージック・エンハンサーモードを選択すれば、圧縮オーディオフォーマット（MP3 など）をダイナミックな音声で再生できます（34 ページ）。

ご注意

- iPod touch、iPod（iPod classic を含むクリックホイール）、iPod nano、iPod mini に対応しています。
- iPod の種類やソフトウェアのバージョンにより一部の機能が使えない場合があります。
- ヤマハ製 iPod ユニバーサルドックの種類により一部の機能が使えない場合があります。ここでは YDS-11 を使って説明します。

- 本機と iPod との接続が完了すると、フロントパネルディスプレイに「iPod connected」と表示されます。
- フロントパネルディスプレイやテレビに表示されるメッセージについては 64 ページの「iPod」をご覧ください。

iPodの操作

iPodを専用のユニバーサルドックにセットして本機の入力ソースを DOCK に切り替えると、iPod を操作できます。
iPod の再生方法には、テレビに表示されるメニューを見ながら操作する「メニュー表示モード」と、iPod の画面を見ながら操作する「ノーマルモード」の 2 種類があります。
本機に iPod を接続した場合は、リモコンを使って以下の操作ができます。

	キー	機能
⑪	ENTER	選択したメニューに入ります。
	△	上のメニューにカーソルを移動します。
	▽	下のメニューにカーソルを移動します。
	◁	1 つ前の表示に戻ります。
	▷	選択したメニューに入ります。
⑫	◁◁	巻き戻しします（長押し）。
	▷▷	早送りします（長押し）。
	▷▷|	次の曲の先頭にスキップします。
	|◁◁	再生中の曲の先頭にスキップします。
	□	再生を停止します。
	▯▯	一時停止します（ノーマルモード時は再生 / 一時停止）。
	▷	再生します（ノーマルモード時は再生 / 一時停止）。
⑲	DISPLAY	メニュー表示モードとノーマルモードを切り替えます。

ノーマルモードで操作する

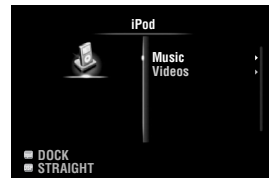
ノーマルモードでは、テレビにメニューを表示させずに、リモコンを使って基本的な操作（再生、停止、スキップなど）ができます。ノーマルモードの動作中は iPod 本体でも操作が行えます。

メニュー表示モードで操作する

テレビに表示されるメニューを見ながら、本機のリモコンを使ってさまざまな操作ができます。
テレビで音楽ファイルや映像ファイルをブラウズしたり、設定を変更したりすることもできます。メニュー表示モードの動作中、iPod 本体は操作できません。

- 表示できない文字は「＿」（アンダーバー）で表示されます。

1 ⓢINPUT セレクターを回して（または ⑤DOCK を押して）入力ソースを「iPod (DOCK)」に切り替える。

2 リモコンの ⑲DISPLAY を押す。
テレビにメニュー画面が表示されます。

3 ⑪ カーソル △ / ▽ を押して「Music」、または「Videos」を選択し、⑪ カーソル ▷ を押す。

- 音楽ファイルをブラウズするには「Music」を選択します。
- 映像ファイルをブラウズするには「Videos」を選択します。

ご注意

- iPod、およびヤマハ製 iPod ユニバーサルドックが映像ファイルのブラウズ機能に対応していない場合、「Videos」は表示されません。

4 ⑪カーソル △ / ▽ /◁ / ▷を押してメニュー項目を選択し、⑪ENTER を押して再生する。

- ⓓ**INFO**（または ⑦**INFO**）を押すと、フロントパネルディスプレイに表示する情報を切り替えられます（31 ページ）。表示される項目は、現在選択しているモードによって変わります。

■ シャッフル / リピート再生する

ノーマルモードのときは、iPod 本体を操作してシャッフル / リピート再生してください。

1 入力ソースとして「iPod（DOCK）」を選択しているときに、⑲DISPLAY を押して、メニュー表示モードに切り替える。

2 ⑰OPTION を押す。

オプションメニューが表示されます。

3 ⑪ カーソル △ / ▽ を押して「Shuffle」または「Repeat」を選択し、⑪ENTER を押してから、⑪ カーソル ◁/▷ を押して設定を選択する。

Shuffle：曲やアルバムをランダムに再生します（選択項目：Off、Song、Album）。

- ランダム再生しない場合は「Off」を選択してください。
- 曲ごとにランダム再生する場合は「Song」を選択してください。
- アルバムごとにランダム再生する場合は「Album」を選択してください。

Repeat：曲やアルバムを繰り返し（リピート）再生します（選択項目：Off、One、All）

- リピート再生しない場合は「Off」を選択してください。
- 曲ごとにリピート再生する場合は「One」を選択してください。
- すべての曲をリピート再生する場合は「All」を選択してください。

再生を開始すると、手順 3 で選択した方法で再生します。元の画面に戻すには、⑪**RETURN** を押してください。

4 設定を終了するには、⑰OPTION を押す。

基本操作

Bluetooth® 機器を再生する

本機は Bluetooth プロファイルの A2DP（Advanced Audio Distribution Profile）に対応しています。別売りの YBA-10 などのヤマハ製 Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバー（Bluetooth レシーバー）を DOCK 端子に接続すれば、本機と Bluetooth 機器（ポータブルオーディオプレーヤーなど）をケーブルで接続することなく、Bluetooth 機器に保存した音楽ファイルを再生できます。

Bluetooth の「ペアリング」と「接続」

ヤマハ製 Bluetooth レシーバーと Bluetooth 機器をはじめて接続する場合、ペアリング（Bluetooth 機器の登録）をする必要があります。ペアリングが完了している Bluetooth 機器を、Bluetooth レシーバーに接続（コネクト）して再生する機器として選択できます。

- ヤマハ製 Bluetooth レシーバーYBA-10は、8 台までの Bluetooth 機器とペアリングできます。9 台目のペアリングデータが登録されると、もっとも長い間使われていない機器のデータは消去されます。

Bluetooth® レシーバーと Bluetooth® 機器をペアリングする

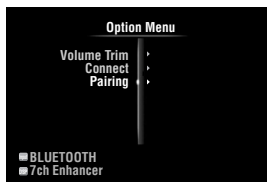
- Bluetoothレシーバーまたは Bluetooth機器のペアリングデータが消去された場合、再度ペアリングしてください。
- Bluetooth 機器の取扱説明書もご覧ください。

セキュリティー確保のため、ペアリングできる時間は 8 分に制限されています。以下の手順を一通り読んでから操作に移ることをおすすめします。

1 ⓈINPUT セレクターを回して（または 5DOCK を押して）入力ソースを「BLUETOOTH（DOCK)」に切り替える。

2 ペアリングしたい Bluetooth 機器の電源をオンにし、Bluetooth 機器をペアリングモードにする。

3 17OPTION を押す。

オプションメニューが表示されます。

4 11 カーソル ▽ を押して「Pairing」を選択し、11ENTER を押す。

「Searching」と表示され、ペアリングが始まります。

- ペアリングを中止するには 11**RETURN** を押します。
- フロントパネルの Ⓔ**MEMORY** を押し続けてペアリングを開始することもできます。

5 Bluetooth機器がBluetoothレシーバーを認識していることを確認する。

Bluetooth 機器が Bluetooth レシーバーを認識している場合は Bluetooth デバイスリストに「YBA-10 YAMAHA」（例）と表示されます。

6 BluetoothデバイスリストからBluetoothレシーバーを選択し、Bluetooth 機器にパスキー「0000」を入力する。

正しくペアリングされた場合はフロントパネルディスプレイに「Completed」と表示されます。

Bluetooth® 機器の再生を楽しむ

1 ⓈINPUT セレクターを回して（または 5DOCK を押して）入力ソースを「BLUETOOTH（DOCK)」に切り替える。

2 17OPTION を押す。

3 11 カーソル ▽ を繰り返し押して「Connect」を選択し、11ENTER を押す。

最後に接続した Bluetooth 機器と Bluetooth レシーバーが接続されます。

- 最後に接続した Bluetooth 機器を Bluetooth レシーバーが検索できなかった場合、フロントパネルディスプレイに「Not found」と表示されます。
- Bluetoothレシーバーと現在接続しているBluetooth機器の接続を解除するには、「Disconnect」を選択して 11**ENTER** を押すか、Bluetooth 機器側で接続解除操作を行ってください。
- Bluetooth レシーバーと（ペアリング済みの）他の Bluetooth 機器を接続するには、Bluetooth レシーバーが Bluetooth 非接続状態のときに Bluetooth 機器側で接続操作を行ってください。

4 Bluetooth 機器の再生を開始する。

5 設定を終了するには、17OPTION を押す。

USB デバイスを再生する

WAV（PCM フォーマットのみ）、MP3、WMA、MPEG-4 AAC、FLAC などのファイルを保存した USB デバイスを接続して再生します。FAT16 または FAT32 ファイルシステムで記録された USB マスストレージクラス対応の USB デバイス（USB ハードディスクを除く）に対応しています。

ご注意

- 先頭にあるパーティションのみ再生できます。
- USB デバイスのメーカーや種類により、ファイルを再生できない場合があります。

USB デバイスの再生を楽しむ

1 フロントパネルの USB 端子に USB デバイスを接続する（24 ページ）。

2 ⓈINPUT セレクター（または⑤USB）を使って入力ソースを「USB」に切り替える。

テレビにメニュー画面が表示されます。

以前、本機で再生したことがある USB デバイスを接続している場合は、最後に再生した曲を自動的に再生します。

3 ⑪ カーソル △ / ▽ /◁ / ▷ を押して、再生したいファイルを選択する。

- ⑪ △ / ▽ でファイルやフォルダを選択します。
- ⑪**ENTER**または⑪▷で、選択したフォルダを決定します。
- 1 つ前のフォルダに戻るには、⑪◁ を押します。

4 ⑪ENTER を押して再生する。

リモコンを使って以下の操作もできます。

キー		機能
⑫	▷	再生します。
	□	再生を停止します。
	▷▷I	再生中に次のファイルの先頭にスキップします。
	I◁◁	再生中のファイルの先頭にスキップします。

シャッフル / リピート再生する

1 入力ソースとして「USB」が選択されているときに、⑪OPTION を押す。

オプションメニューが表示されます。

2 ⑪ カーソル △ / ▽ を押して「Shuffle」または「Repeat」を選択し、⑪ENTER を押してから、⑪ カーソル ◁/▷ を押して設定を選択する。

Shuffle：フォルダに保存されているファイルをランダムに再生します（選択項目：Off、On）。

- ランダムに再生しない場合は「Off」を選択してください。
- フォルダ内のすべてのファイルをランダムに再生する場合は「On」を選択してください。

Repeat：選択したファイルやフォルダ内のすべてのファイルを繰り返し（リピート）再生します（選択項目：Off、One、All）。

- リピート再生しない場合は「Off」を選択してください。
- ファイルごとにリピート再生する場合は「One」を選択してください。
- フォルダ内のすべてのファイルをリピート再生する場合は「All」を選択してください。

3 設定を終了するには、⑪OPTION を押す。

その他の機能

HDMI コントロール機能を使う

HDMI を使ったコントロール機能に対応しているテレビ（一部を除く）と本機を HDMI 接続した場合、テレビのリモコンで本機の以下の機能を操作できます。

- 電源のオン / スタンバイ（テレビ連動）
- 音量の調節（上 / 下、消音）
- 音声を出力する機器の切り替え（テレビ ↔ 本機）

- HDMI を使ったコントロール機能に対応しているテレビでも、上記の機能が操作できないものがあります。詳しくはテレビに付属の取扱説明書をご覧ください。
- HDMI を使ったコントロール機能に対応しているブルーレイレコーダー/DVD レコーダーなどを HDMI 接続している場合は、それらの機器も連動して操作できます。詳しくはご使用の機器に付属の取扱説明書をご覧ください。
- テレビおよびブルーレイレコーダー、DVD レコーダーなどの機器は、同一メーカーの製品で統一することをおすすめします。
- 接続可能な機器に関する最新の情報は下記の弊社ホームページをご覧ください。
  http://www.yamaha.co.jp/product/av/support/hdmi_cec/

HDMI コントロール機能を使うには、HDMI コントロール機能の設定、および HDMI 機器のテレビへの登録が必要です。

- メーカーや機器により、HDMI 機器を登録しなくても使用できるものがあります。

■ HDMI コントロール機能の設定

1 HDMI 接続しているすべての機器の電源をオンにする。

2 HDMI 接続しているすべての機器の設定を確認し、コントロール機能を有効にする。
本機側では、「HDMI Control」を「On」にします（50 ページ）。
外部機器側については、機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

3 テレビの電源を一度オフにし、再びオンにする。

■ HDMI 機器のテレビへの登録

1 テレビの入力を、本機に切り替える。

2 本機に接続した、HDMI コントロール機能に対応しているブルーレイレコーダーまたは DVD レコーダーの電源をオンにする

3 本機の入力をブルーレイレコーダーまたは DVD レコーダーに切り替えて、レコーダーの画像が正しく映るかを確認する。

ご注意

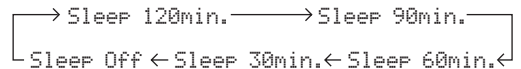
- 本機が動作しない場合は、以下のことをご確認ください。テレビの電源をオン / オフしたり、電源プラグをコンセントに接続し直したりすると、正常に動作する場合もあります。
  – 「HDMI Control」（50 ページ）が「On」に設定されている
  – テレビ側の設定でHDMIコントロール機能が有効になっている
- 接続方法や接続機器を変更した場合は、手順 1 〜 3 を再度操作してください。

- テレビ側の設定で音声出力機器を本機に切り替えると、本機のシーン「TV」が自動的に選択されます。AV1 の光デジタル端子にテレビの音声出力端子を接続している場合、シーンに登録されている音場プログラムとともにテレビ番組の音声を楽しめます。

一定時間後にスタンバイにする（スリープタイマー）

指定した時間が経過すると、自動的にスタンバイになるように設定できます。聴きながらおやすみになりたいときに便利です。

ⒶSLEEP（または 3SLEEP）を繰り返し押して時間を設定する。
キーを押すたびに、下記のように設定が切り替わります。

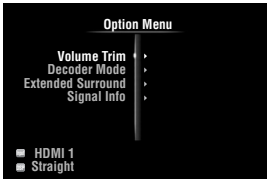
Sleep 120min. → Sleep 90min. → Sleep 60min. → Sleep 30min. → Sleep Off → Sleep 120min.

スリープタイマーを設定すると、フロントパネルディスプレイの SLEEP インジケーターが点灯します。
スリープタイマーを解除するには、フロントパネルディスプレイに「Sleep Off」と表示されるまで ⒶSLEEP（または 5SLEEP）を繰り返し押します。

応用操作

入力ソースごとにオプション設定を行う（オプションメニュー）

入力ソースごとにさまざまな設定を行います。入力ソースを切り替えると、自動的にソースごとの設定が反映されます。また、各入力ソースの信号情報を表示できます。オプションメニューは以下の方法で設定できます。

1 **ⓈINPUT セレクター**を回して（または 5 **入力ソース選択キー**を押して）入力ソースを選択する。

2 リモコンの 17**OPTION** を押す。

3 11 **カーソル** △ / ▽ を使って操作 / 設定したい項目を選択し、11**ENTER** を押す。

4 11 **カーソル** △ / ▽ / ◁ / ▷ / **ENTER** を使って、値を調節（または機能を実行）する。

5 オプションメニューを終了するには、17**OPTION** を押す。

11**RETURN** を押すと、1 つ前の表示に戻ります。

ご注意

- オプションメニューを終了した直後、11 **カーソル**などのキーが動作しない場合は、選択中の入力ソースをもう一度選択し直してください。

オプションメニュー項目一覧

各入力ソースには、以下のようなメニューアイテムがあります。

入力ソース	メニュー項目			
HDMI 1 ～ 4	Volume Trim	Decoder Mode	Extended Surround	Signal Info
AV 1 ～ 4	Volume Trim	Decoder Mode	Extended Surround	Signal Info
AV 5 ～ 6	Volume Trim			
AUDIO 1 ～ 2	Volume Trim	Video Out		
V-AUX	Volume Trim			
TUNER	Volume Trim	FM Mode	Auto Preset	Clear Preset
PHONO	Volume Trim			
USB	Volume Trim	Signal Info	Shuffle	Repeat
iPod (DOCK)	Volume Trim	Shuffle	Repeat	
BLUETOOTH (DOCK)	Volume Trim	Connect/ Disconnect	Pairing	
MULTI CH	Volume Trim	Video Out		

各メニュー項目の内容は以下のとおりです。現在選択している入力ソースに設定が反映されます。

- 「*」のついた項目は、初期設定を表します。

Volume Trim

入力ソース： 全入力ソース
設定範囲： –6.0dB ～ 0.0dB* ～ +6.0dB（0.5dB 単位）

入力ソース間の音量差を補正することで、入力を切り替えたときの音量の変化を防ぎます。

Decoder Mode

入力ソース： HDMI1 ～ 4、AV1 ～ 4
選択項目： Auto*/DTS/AAC

再生するデジタル音声信号を AAC、または DTS に固定します。

Auto　自動的に音声入力信号を選択します。

DTS　DTS 信号に固定します。DTS 信号以外の信号が入力されても再生されません。
AAC　AAC 信号に固定します。AAC 信号以外の信号が入力されても再生されません。

Extended Surround

入力ソース： HDMI1 ～ 4、AV1 ～ 4
選択項目： Auto*/PLIIxMovie/PLIIxMusic/EX/ES/Off

サラウンドバックスピーカーの使用時、マルチチャンネル（または２チャンネル）のデジタル音声入力信号を 6.1 または 7.1 チャンネルで再生するかどうかを切り替えます。

Auto　サラウンドバックチャンネルを生成するフラグがある場合に最適なデコーダーを自動的に選択し、6.1 または 7.1 チャンネルで再生します。
PLIIx Movie　サラウンドバックチャンネルを生成するフラグの有無にかかわらず、常に PLIIx Movie デコーダーを使って 7.1 チャンネルで再生します。サラウンドバックスピーカーを２つ接続しているときに選択できます。
PLIIx Music　サラウンドバックチャンネルを生成するフラグの有無にかかわらず、常に PLIIx Music デコーダーを使って 6.1 チャンネルまたは 7.1 チャンネルで再生します。サラウンドバックスピーカーを接続しているときに選択できます。
EX/ES　サラウンドバックチャンネルを生成するフラグの有無にかかわらず、最適なデコーダーを自動的に選択し、常に 6.1 チャンネルで再生します。
Off　サラウンドバックチャンネルを生成するフラグの有無にかかわらず、常に原音のチャンネル数で再生します。

Signal Info

入力ソース： HDMI1 ～ 4、AV1 ～ 4、USB

音声および映像入力信号の各種情報をテレビやフロントパネルディスプレイに表示します。フロントパネルの表示は、⑪ **カーソル** △ / ▽ を押して切り替えられます。

Signal Info パラメーター一覧

■ 音声情報

表示	内容
Format	デジタル音声のフォーマットを表します。
Channel	入力信号に含まれているチャンネル数を表します（フロント / サラウンド / LFE)。例えば、入力信号にフロント 3 チャンネル、サラウンド 2 チャンネル、LFE が含まれている場合は、「3/2/0.1」と表示されます。 上記の方法で表現できないチャンネルを含んでいる場合は、「5.1ch」のように合計のチャンネル数で表示されることがあります。
Sampling Frequency	デジタル入力信号のサンプリング周波数を表示します。
Bitrate	入力信号の 1 秒あたりのビットレートを表します。

ご注意

- 信号が入力されていない場合は「No Signal」、本機が認識できない信号が入力されている場合は「---」と表示されます。
- ビットレートは再生中に変化する場合があります。

■ 映像情報

表示	内容
Video In	映像入力信号の種類と解像度を表します。
Video Out	映像出力信号の種類と解像度を表します。
Message	HDMI 信号や HDMI 機器に関するエラーを表します。エラーメッセージの内容は下記をご覧ください。

HDMI エラー情報（エラー発生時のみ）

HDCP Error　HDCP の認証に失敗しました。
Device Over　制限台数を超える HDMI 機器が接続されています。
Out of Res.　テレビが映像入力信号の解像度に対応していません。

FM Mode

入力ソース： TUNER
選択項目： Stereo*/Mono

FM 放送の受信方法を選択します。

Stereo　ステレオで受信します。
Mono　モノラルで受信します。モノラルを選択すると、受信感度が向上します。

Auto Preset

入力ソース： TUNER

FM の周波数帯に含まれる放送局を自動検出して、プリセット放送局として順次登録します（36 ページ）。

Clear Preset

入力ソース： TUNER

プリセット放送局を登録解除します（36 ページ）。

Shuffle

入力ソース： iPod（DOCK）、USB
選択項目： iPod (DOCK)：Off*/Songs/Albums
USB：Off*/On

シャッフル再生の動作を切り替えます（39、41 ページ）。

Repeat

入力ソース： iPod（DOCK）、USB
選択項目： Off*/One/All

リピート再生の動作を切り替えます（39、41 ページ）。

Connect / Disconnect

入力ソース： Bluetooth（DOCK）

Bluetooth 機器との通信の有効 / 無効を切り替えます（40 ページ）。

Pairing

入力ソース： Bluetooth（DOCK）

本機とBluetooth機器をペアリングします（40ページ）。

Video Out

入力ソース： AUDIO 1～2、MULTI CH
選択項目： AV1 ～ 6/V-AUX/Off*

音声を再生しながら、テレビに映像を映し出すソースを選択します。詳しくは、45 ページ「音声と同時に再生する映像ソースを選択する」をご覧ください。

音声と同時に再生する映像ソースを選択する

「AV 1」、または「AV 2」、「MULTI CH」を入力選択しているとき、テレビに映像を映し出すソースを選択します。下記の手順に従って、音声と同時に再生する映像ソースを選択してください。

1 ⓢINPUT セレクターを回して（または ⑤ 入力ソース選択キーを押して）、入力ソースを「AV 1」、または「AV 2」、「MULTI CH」に切り替える。

2 リモコンの ⑰OPTION を押す。

選択した入力ソースのオプションメニューが表示されます。

3 ⑪ カーソル △ / ▽ を押して「Video Out」を選択し、⑪ENTER を押す。

```
  MLT CH
◀ Video......Off▶
```

4 ⑪ カーソル ◁ / ▷ を押して、映像入力ソースを以下の中から選ぶ。

- AV1 ～ 2（COMPONENT VIDEO 端子）
- AV3 ～ 6（VIDEO 端子）
- V-AUX（VIDEO 端子）
- Off（映像を入力しない）

5 設定を終了するには、⑰OPTION を押す。

本機の各種設定を行う（セットアップメニュー）

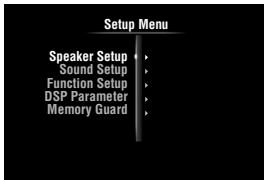
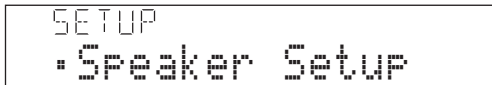
リモコンを使ってセットアップメニューを呼び出し、下記の設定を変更できます。詳しい内容については、「セットアップメニューの基本操作」をご覧になったうえで、対応するページをご覧ください。

メニュー / サブメニュー	機能	ページ
Speaker Setup	スピーカーに関する各種設定を行います。	47
Auto Setup	スピーカーの出力特性を自動調整します。	47
Manual Setup	スピーカーの出力特性を手動で設定します。	47
Speaker Configuration	スピーカーの有無や大きさなどを使用環境に合わせて設定します。	47
Speaker Level	スピーカーごとに音量バランスを調節します。	49
Speaker Distance	スピーカーの設置距離に合わせて、音声信号の出力タイミングを調節します。	49
Equalizer	イコライザーを使ってスピーカー出力を調整します。	49
Test Tone	テストトーンを出力します。	49
Sound Setup	音声出力に関する各種設定を行います。	49
Dynamic Range	ビットストリーム信号再生時のダイナミックレンジを設定します。	50
Lipsync	映像と音声の出力タイミングのずれを補正します。	50
HDMI Auto Lipsync	HDMI 端子から入力される映像と音声の出力タイミングのずれを自動的に補正するかしないかを設定します。	50
Auto Delay	HDMI Auto Lipsync で設定された補正時間を微調整します。	50
Manual Delay	映像と音声の出力タイミングのずれを手動で補正します。	50
Function Setup	HDMI 関連の設定やディスプレイ表示などを設定します。	50
HDMI	HDMI 入出力に関する各種設定を行います。	50
HDMI Control	HDMI を使ったコントロール機能のオン / オフを切り替えます。	50
Standby Through	本機がスタンバイのときに、HDMI 端子から入力された HDMI 信号を出力するかしないかを設定します。	50
Audio Output	HDMI の音声信号を本機で再生するか、他の機器で再生するかを選択します。	50
Resolution	アナログ映像信号を HDMI 信号へ変換するときの解像度を設定します。	51
Aspect	アナログ映像信号を HDMI 信号へ変換するときのアスペクト比を設定します。	51
Display	テレビやフロントパネルディスプレイの表示に関する各種設定を行います。	51
Dimmer	フロントパネルディスプレイ表示の明るさを調節します。	51
Front Panel Display Scroll	フロントパネルディスプレイ表示される文字の表示方法を設定します。	51
GUI Position	テレビに表示される GUI 画面の位置を調節します。	51
Volume	本機の音量に関する各種設定を行います。	51
Adaptive DRC	本機の音量とダイナミックレンジ（最大音量から最小音量までの差）を連動して調節します。	51
Max Volume	音量が間違って上がりすぎないように、音量の最大値を設定します。	51
Initial Volume	電源をオンにしたときの音量を設定します。	52
Input Rename	テレビ画面やフロントパネルディスプレイに表示される入力ソース名を変更します。	52
DSP Parameter	音場プログラムのパラメーターを変更します。	52
Memory Guard	誤操作によって設定値が変更されないようにセットアップメニューを保護します。	55

セットアップメニューの基本操作

セットアップメニューは、テレビとフロントパネルディスプレイの両方に表示されます。

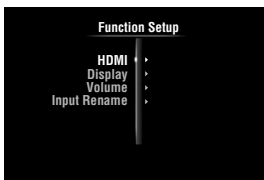
テレビ表示

フロントパネルディスプレイ

SETUP
•Speaker Setup

ここではテレビを見ながら設定する方法を例にあげ、操作方法を説明します

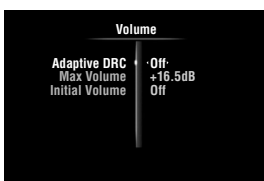
1 リモコンの ⑩ON SCREEN を押す。
モニターにメニュー画面が表示されます。

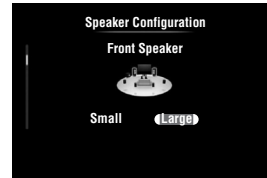
2 ⑪ カーソル ▽ を使って「Setup」を選び、⑪ENTER を押す。
セットアップメニューが表示されます。

3 ⑪ カーソル △ / ▽ を使ってメニューの種類を選択し、⑪ENTER を押す。
選択したメニューの内容が表示されます。

Function Setup の例

- ⑪**RETURN**を押すと、1 つ前の表示に戻すことができます。

4 さらにサブメニューを選択する場合は、⑪ カーソル △ / ▽ を使って設定したいメニューを選択し、⑪ENTER を押す。

Volume の例

5 ⑪ カーソル △ / ▽ を使って項目を選択し、⑪ カーソル ◁ / ▷ を押して設定を変更する。
「Speaker Setup」メニューの「Manual Setup」サブメニューには、1 項目で 1 画面を使用するものがあります。⑪ **カーソル** △ / ▽ を押すと表示を切り替えて、同じメニュー内の他の項目を表示できます。

Speaker Configuration の例

- 手順 5 を繰り返すと、複数の項目の設定を変更できます。

6 設定を終えるには、⑩ON SCREEN を押す。

- セットアップメニューを終了した直後、⑪ **カーソル**などのキーが動作しない場合は、選択中の入力ソースをもう一度選びなおしてください。

Speaker Setup

スピーカーに関する各種設定を行います。自動調整を行う「Auto Setup」（YPAO）と手動調整を行う「Manual Setup」の 2 種類があります。

- 「*」は初期設定を表します。

Auto Setup

お使いのスピーカーの配置や性能、リスニングルームの音響特性を測定し、最適なバランスで出力されるようスピーカーの出力特性を自動調整します。操作方法については 26 ページをご覧ください。

Manual Setup

パラメーターを手動で調節して、スピーカーの出力特性を調整します。「Auto Setup」（YPAO）の実行後は、このメニュー以下の項目で自動調整された結果を確認できます。必要に応じて、各項目の設定をお好みに合わせて微調整してください。

■ Speaker Configuration

接続しているスピーカーの有無や大きさ（再生能力など）を使用環境に合わせて設定します。

- スピーカー設定には、スピーカーの大きさ（Large または Small）を設定する項目があります。これらの設定を行う場合、スピーカーのウーファー部の口径が 16cm 以上の場合は「Large」、16cm 以下の場合は「Small」を目安にしてください。

応用操作

LFE / Bass Out

選択項目：Subwoofer / Front / Both*

LFE（低域効果音）チャンネルや他のチャンネルの低音域成分を出力するスピーカーを設定します。設定値を選択した場合の動作は以下のとおりです。

LFE チャンネルの信号

選択項目	サブウーファー	フロントスピーカー	その他のスピーカー
Subwoofer	出力する	出力しない	出力しない
Front	出力しない	出力する	出力しない
Both	出力する	出力しない	出力しない

他チャンネルの低音域成分

選択項目	サブウーファー	フロントスピーカー	その他のスピーカー
Subwoofer	[1]	[2]	[2]
Front	出力しない	[3]	[2]
Both	[3]	[4]	[2]

[1] スピーカーの大きさを「Small」に設定したチャンネルの低音域成分を出力します。
[2] スピーカーの大きさが「Large」に設定されている場合に低音域成分を出力します。
[3] フロント L/R チャンネルと、スピーカーの大きさを「Small」に設定したチャンネルの低音域成分を出力します。
[4] フロント L/R チャンネルの低音域成分を出力します。

Front Speaker

選択項目：Small / Large*

フロント L/R スピーカーのサイズを設定します。

Small　スピーカーが小さい場合に選択します。フロント L/R チャンネルの低音域成分は、サブウーファーから出力されます。

Large　スピーカーが大きい場合に選択します。

ご注意

- 「LFE / Bass Out」を「Front」にした場合、「Large」のみ選択できます。フロントスピーカーのサイズが「Small」のときに「LFE / Bass Out」を「Front」に切り替えると、自動的に「Large」に切り替わります。

Center Speaker

選択項目：None / Small* / Large

センタースピーカーのサイズを選択します。

None　センタースピーカーを接続していない場合に選択します。センターチャンネルの信号はフロントL/Rスピーカーに振り分けられます。

Small　センタースピーカーが小さい場合に選択します。センターチャンネルの低音域成分は、サブウーファー（ない場合はフロントスピーカー）から出力されます。

Large　センタースピーカーが大きい場合に選択します。

Surround Speaker

選択項目：None / Small* / Large

サラウンド L/R スピーカーのサイズを選択します。

None　サラウンドスピーカーを接続していない場合に選択します。サラウンドチャンネルの信号はフロントL/Rスピーカーに振り分けられます。この設定を選択すると「Surround Back Speaker」が自動的に「None」に切り替わります。

Small　サラウンドスピーカーが小さい場合に選択します。サラウンドチャンネルの低音域成分は、サブウーファー（ない場合はフロントスピーカー）から出力されます。

Large　サラウンドスピーカーが大きい場合に選択します。

- 「None」を選択した場合、音場プログラムの動作がバーチャルシネマ DSP モードに切り替わります。

Surround Back Speaker

選択項目：None / Large x 1 / Small x 1 / Large x 2 / Small x 2*

サラウンドバック L/R スピーカーのサイズを選択します。

None　サラウンドバックスピーカーを接続していない場合に選択します。サラウンドバックチャンネルの信号はサラウンド L/R スピーカーおよびサブウーファー（ない場合はフロントスピーカー）に振り分けられます。

Large x 1　大きいサラウンドバックスピーカーを 1 つ接続している場合に選択します。

Small x 1　小さいサラウンドバックスピーカーを 1 つ接続している場合に選択します。

Large x 2　大きいサラウンドバックスピーカーを 2 つ接続している場合に選択します。

Small x 2　小さいサラウンドバックスピーカーを 2 つ接続している場合に選択します。

ご注意

- 「None」を選択した場合、サラウンドデコーダーの PLIIx Movie、PLIIx Music、PLIIx Game は選択できません。

Presence Speaker

選択項目：None* / Yes

プレゼンススピーカーの有無を設定します。

None　プレゼンススピーカーを接続していない場合に選択します。

Yes　プレゼンススピーカーを接続している場合に選択します。

Bass Crossover Frequency

選択項目：40Hz / 60Hz / 80Hz* / 90Hz / 100Hz / 110Hz / 120Hz / 160Hz / 200Hz

スピーカーサイズが「Small」に設定されたスピーカーから出力される、低音域成分の下限周波数を設定します。設定値よりも低い周波数の信号は、サブウーファーまたはフロントスピーカーから出力されます。
お使いのサブウーファーが音量やクロスオーバー周波数の調節機能を装備している場合は、音量を約半分（または半分よりやや小さめ）、クロスオーバー周波数を最大に設定してください。

Subwoofer Phase

選択項目：Normal* / Reverse

低音が物足りないときやはっきりしないときに、サブウーファーの位相を設定します。

Normal　サブウーファーの位相を反転しません。
Reverse　サブウーファーの位相を反転します。

■ Speaker Level

設定範囲：–10.0dB ～ +10.0dB（0.5dB 単位）
初期値：「FR.L / FR.R / SWFR / PR.L / PR.R」0dB
「CNTR / SUR.L / SUR.R / SBL / SBR」–1.0dB

リスニングポジションで聞こえる各スピーカーの音量が同じになるように、それぞれのスピーカーの音量を個別に調節します。表示される項目は、使用するスピーカーの数に応じて変化します。

- サラウンドバックスピーカーが 1 つの場合は「SBL」「SBR」の代わりに「SB」と表示されます。
- 「Test Tone」（49 ページ）を「On」に設定すると、テストトーンを聞きながら調節できます。
- お使いのサブウーファーが音量やクロスオーバー周波数の調節機能を装備している場合は、音量を約半分（または半分よりやや小さめ）、クロスオーバー周波数を最大に設定してください。

■ Speaker Distance

各スピーカーの音が同時にリスニングポジションに届くよう、スピーカーごとに音が出るタイミングを調節します。はじめに単位（Unit）を設定してから、各スピーカーの距離を設定します。

Unit

選択項目：meters (m)* / feet (ft)

meters (m)　スピーカーの距離をメートルで表示します。
feet (ft)　スピーカーの距離をフィートで表示します。

FR.L / FR.R / CNTR / SUR.L / SUR.R / SBL / SBR / SWFR / PR.L / PR.R

設定範囲：0.30m ～ 24.00m（1.0 ～ 80.0ft）
初期値：「FR.L / FR.R / SWFR / PR.L / PR.R」3.00m（10.0ft）
「CNTR」2.60m（8.5ft）
「SUR.L / SUR.R / SBL / SBR」2.40m（8.0ft）

- 表示される項目は、「Speaker Configuration」（47 ページ）の設定に応じて変化します。
- サラウンドバックスピーカーが 1 つの場合は「SBL」「SBR」の代わりに「SB」と表示されます。

■ Equalizer

パラメトリックイコライザーやグラフィックイコライザーを使って、音色を調節します。

EQ Type Select

選択項目：Auto PEQ / GEQ* / Off

イコライザーの種類を選択します。

Auto PEQ　「Auto Setup」で設定した、パラメトリックイコライザーを使用します。「Auto PEQ」の下に、現在適用されているパラメトリックイコライザーの特性（26 ページ）が表示されます。
「Auto Setup」が行われていない場合、この項目は表示されません。

GEQ　グラフィックイコライザーを使って音色を調節します。調節メニューを表示するには、⑪**ENTER** を押します。

Off　イコライザーを使いません。

GEQ

Channels　Front Left、Front Right、Center、Surround Left、Surround Right、Surround Back Left、Surround Back Right
選択項目：　63Hz / 160Hz / 400Hz / 1kHz / 2.5kHz / 6.3kHz/ 16kHz
設定範囲：　–6.0dB ～ 0dB* ～ +6.0dB（0.5dB 単位）

スピーカーごとにグラフィックイコライザーを使って音質を調節します。本機のグラフィックイコライザーは7つの周波数帯域を調節できます。
「Channel」が選択されているときに ⑪ **カーソル** ◁ / ▷ を押すと、対象となるスピーカーを選択できます。
⑪ **カーソル** △ / ▽ を押すと調節する周波数帯域の選択、⑪ **カーソル** ◁ / ▷ を押すと設定値の増減が行えます。

■ Test Tone

設定値：Off* / On

テストトーンの出力オン / オフを切り替えます。スピーカーの音量バランスを調節する場合や GEQ を調節するときに使うと便利です。
⑪ **カーソル** ◁ / ▷ を押して「On」を選択してください。

Off　テストトーンを出力しません。
On　テストトーンを出力します。

応用操作

Sound Setup

音声出力に関する各種設定を行います。

■ Dynamic Range

選択項目：Min/Auto / STD / Max*

ビットストリーム信号再生時のダイナミックレンジの調節方法を選択します。

Min/Auto	（Min）Dolby TrueHD 信号以外のビットストリーム信号再生時に、夜間や小音量でも聴きやすいダイナミックレンジに調節します。（Auto）Dolby TrueHD 信号再生時に、入力信号からの情報に基づいてダイナミックレンジを調節します。
STD	一般的な家庭用として推奨するダイナミックレンジです。
Max	入力された信号を補正せず、そのまま再生します。

■ Lipsync

映像と音声の出力タイミングのずれを調節します。

HDMI Auto Lipsync

選択項目：Off* / On

リップシンクの自動補正機能に対応しているテレビと本機をHDMI接続している場合に、出力タイミングを自動的に補正します。

Off	テレビが自動補正機能に対応していない場合や自動補正機能を使わない場合に選択します。補正時間は「Manual Delay」で設定します。
On	テレビが自動補正機能に対応している場合に選択します。「Auto Delay」で補正時間を微調節できます。

Auto Delay

設定範囲：0* ～ 240ms（ 1ms 単位）

「HDMI Auto Lipsync」を「On」に設定したときの補正時間を微調節します。「Auto Delay」欄には実際に補正される時間、下側の「Offset」欄にはユーザーが調節した時間が表示されます。

Manual Delay

設定範囲：0* ～ 240ms（1ms 単位）

補正時間を手動で微調整します。テレビがリップシンクの自動補正機能に対応していない場合や、「HDMI Auto Lipsync」を「Off」に設定している場合に使用します。

Function Setup

HDMI 関連の設定やディスプレイ表示などを設定します。

HDMI

HDMI に関する各種設定を行います。

■ HDMI Control

選択項目：On* / Off

HDMI を使ったコントロール機能に対応している機器と本機をHDMI接続した場合に、HDMIを使ったコントロール機能の有効 / 無効を切り替えます。「On」に設定した場合、本機がスタンバイの状態でも、HDMI1 ～ 4 端子から入力された信号がテレビに出力されます。

On	HDMI コントロール機能を使用します。
Off	HDMI コントロール機能を使用しません。

■ Standby Through

選択項目：On* / Off

本機がスタンバイのときに、HDMI1 ～ 4 端子から入力したHDMI信号をHDMI OUT端子からスルー出力するかしないかを選択します。「On」に設定した場合は、本機がスタンバイの状態でも、HDMI1 ～ 4 端子から入力した信号をテレビに出力します。
「HDMI Control」を「On」に設定しているときは表示されません。

On	HDMI 入力信号を HDMI OUT 端子から出力します。
Off	HDMI 入力信号を HDMI OUT 端子から出力しません。

- HDMI 信号を実際にスルー出力するには、スタンバイに切り替える前に、HDMI1 ～ 4 のいずれかの入力ソースが選択されている必要があります。
- スルー出力が行われている場合は、フロントパネルディスプレイの ⓑ**HDMI THROUGH** が点灯します。点灯中は、スタンバイ状態でも 1 ～ 3W の電力を消費します。

■ Audio Output

選択項目：Amplifier* / TV / Amplifier + TV

HDMI1 ～ 4 端子から入力した音声信号を、本機で再生するか、本機の HDMI OUT 端子に接続した機器で再生するかを選択します。
「HDMI Control」を「On」に設定しているとき、この項目は表示されません。

Amplifier	本機に接続したスピーカーから HDMI 音声信号を出力します。
TV	本機に接続したテレビのスピーカーから HDMI 音声信号を出力します。本機に接続したスピーカーの音声はミュートされます。
Amplifier + TV	本機に接続したスピーカー、本機に接続したテレビのスピーカーの両方から HDMI 音声信号を出力します。

ご注意

- 「TV」または「Amplifier + TV」を選択した場合、本機に接続したテレビの仕様に応じて、本機がテレビに出力できる HDMI 音声 / 映像信号の信号フォーマットは変化します。

■ Resolution

選択項目：Through* / 480p / 720p / 1080i / 1080p

アナログ映像入力端子から入力した信号を HDMI OUT 端子から出力するときに解像度を変換します。「Through」に設定した場合は、変換せずにそのまま出力します。

ご注意

- 720p または 1080i 映像信号は解像度を変換できません。
- テレビを HDMI 接続している場合、本機は自動的にテレビが対応している解像度を検出します。対応している解像度の左側に「＊」（アスタリスク）が表示されます。
- テレビが対応している解像度を本機が検出できない場合は、アドバンストセットアップメニュー（57 ページ）の「MON.CHK」の設定を「SKIP」に設定してから、もう一度この項目を設定してください。

■ Aspect

選択項目：Through* / 16:9 / Smart Zoom

アナログ映像入力端子から入力した信号を HDMI OUT 端子から出力するときに縦横比（アスペクト比）を変換します。

Through	縦横比を変換せずに、元の比率で出力します。
16:9	画面の左右に黒い帯をつけて、4：3 の映像を 16：9 のテレビで最適な映像になるように出力します。
Smart Zoom	4：3 の映像の左右を引き伸ばして 16：9 のアスペクト比に変換し、テレビへ出力します。

ご注意

- 「Resolution」が「Through」に設定されている場合、画面のアスペクト比は変換できません。
- アスペクト比が 4：3 以外の映像信号が入力された場合、設定は無効になります。
- HDMI1 ～ 4 端子から映像信号を入力している場合や、720p、1080i、1080p 信号を入力している場合は、アスペクト比を設定しても効果はありません。

Display

テレビやフロントパネルディスプレイの表示に関する設定を行います。

■ Dimmer

設定範囲：–4 ～ 0*

フロントパネルディスプレイ表示の明るさを設定します。設定値を小さくするほどフロントパネルディスプレイの表示が暗くなります。

ご注意

- 本機がピュアダイレクトモードのときは、設定値を大きくしても表示は明るくなりません。

■ Front Panel Display Scroll

選択項目：Continuous* / Once

フロントパネルディスプレイの表示領域を超える文字列の表示方法を設定します。

Continuous	すべての文字をスクロールしながら、繰り返し表示します。
Once	すべての文字を一度スクロールして表示したあと、スクロールを停止し、最初の文字から 14 文字目までを表示します。

■ GUI Position

設定範囲：–5 ～ 0* ～ +5

テレビに表示される GUI 画面の位置を調節します。画面を上／右に移動するには設定値を大きくします。下／左に移動する場合は設定値を小さくします。

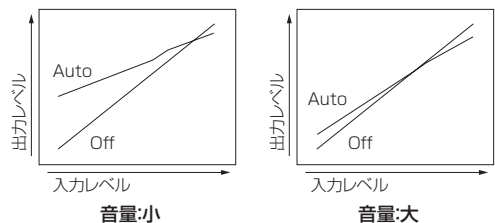
Volume

本機の音量に関する各種設定を行います。

■ Adaptive DRC

選択項目：Auto / Off*

本機の音量とダイナミックレンジ（最大音量から最小音量までの差）を連動して調節します。音量を小さくして再生したり、夜間に再生したりするときに効果的です。この機能を有効にすると、ダイナミックレンジが以下のように調節されます。

音量を小さくしたとき：
　ダイナミックレンジが狭くなります。
音量を大きくしたとき：
　ダイナミックレンジが広くなります。

Auto	ダイナミックレンジを自動的に調節します。
Off	ダイナミックレンジを自動的に調節しません。

- ヘッドホンを使用して再生しているときにも有効です。

■ Max Volume

設定範囲：–30.0dB ～ +15.0dB / +16.5dB*
（5.0dB 単位）

あやまって音量が上がりすぎないように、音量の最大値を設定します。たとえば「–5.0dB」に設定した場合、音量は Mute、–80.0dB ～ –5.0dB の範囲で調節できます。初期設定値（+16.5dB）では、最大音量まで出力します。

■ Initial Volume

設定範囲：Off* / Mute / –80dB ～ +16.5dB（0.5dB 単位）

電源をオンにしたときの音量を設定します。「Off」に設定した場合は、前回電源をスタンバイに切り替えたときの音量が設定されます。

ご注意

- 「Max Volume」の設定値が「Initial Volume」の設定値よりも小さい場合、「Max Volume」の設定が優先されます。たとえば「Max Volume」を「–30.0dB」、「Initial Volume」を「0dB」に設定しても、次回電源オン時の音量は自動的に「–30.0dB」に制限されます。

Input Rename

フロントパネルディスプレイに表示される入力ソース名を変更します。
⑪ **カーソル** △ / ▽ を押して、表示名を変更する入力ソースを選択します。

テンプレートから表示名を選択する
名前を変更したい入力ソースを選択し、⑪ **カーソル** ◁ / ▷ を押して以下のテンプレートの中から名称を選択します（Blu-ray、DVD、SetTopBox など）。

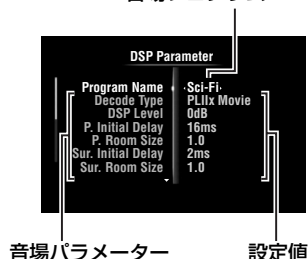
- 独自の表示名がつけられた入力ソースを選択した場合、テンプレートの名称に加えて現在の名称も表示されます。名称変更をキャンセルしたいときは、現在の名称を選択してください。

独自の表示名をつける
名前を変更したい入力ソースを選択し、⑪**ENTER** を押します。以下の操作で 1 文字ずつ文字を指定し、9 文字以内で表示名を入力できます。

⑪ **カーソル** ◁ / ▷　文字位置を選択します。
⑪ **カーソル** △ / ▽　文字を選択します。
⑪**ENTER**　入力した表示名を確定します。
入力可能な文字は以下のとおりです。
「A ～ Z」、「0～9」、「a ～ z」、「記号（#、*、+、－など）」、「スペース」

DSP Parameter

音場プログラムは初期設定のままで十分にお楽しみいただけますが、音場の要素（パラメーター）を調節することにより、ソースやリスニングルームの音響に合わせて音場効果やデコーダーをアレンジできます。

1 **⑪ カーソル △ / ▽ を使って「DSP Parameter」を選択し、⑪ENTER を押す。**
「DSP Parameter」画面が表示されます。

2 **カーソル △ / ▽ を使って「Program Name」を選択し、⑪ カーソル ◁ / ▷ を押して音場プログラムを選択する。**

3 **⑪ カーソル △ / ▽ を使って変更したいパラメーターを選択し、⑪ カーソル ◁ / ▷ を押して設定値を調節する。**

- 他の音場パラメーターの設定を変更する場合は、手順 2 と手順 3 を繰り返してください。

選択した音場プログラムのパラメーターを初期設定に戻すには、⑪ **カーソル** ▽ を繰り返し押して「Initialize」を選択し、⑪ **カーソル** ▷ を押します。確認メッセージがテレビに表示されたら、⑪ **カーソル** ▷ を押して確定するか、⑪ **カーソル** ◁ を押してキャンセルしてください。

基本的な音場パラメーター

DSP Level

設定範囲： –6dB ～ 0dB* ～ +3dB

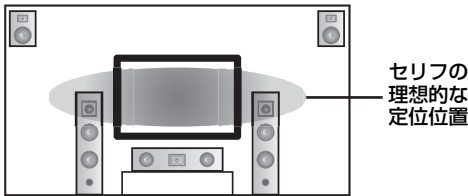
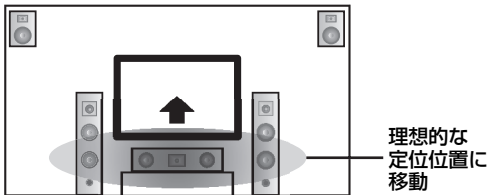
エフェクト量（音場効果のかかり具合）を微調節するパラメーターです。視聴環境に合わせて、直接音のレベルを確認しながら音場効果のかかり具合を変更できます。「DSP Level」は以下のように調節してください。

- 効果音が小さく感じられる
- 各音場プログラム間の違いが感じ取れない
  → 効果レベルを大きくする

- 音がぼんやりと聴こえる
- 音場効果のかかり具合が過剰に感じられる
  → 効果レベルを小さくする

Dialogue Lift

設定範囲： 0* ～ 5

プレゼンススピーカーを使っている場合に、セリフなど、中央に定位する音の定位位置（上下方向）を調節するパラメーターです。値を大きくすると上方に定位します。

セリフがテレビ画面よりも低い位置から聞こえる場合、「Dialogue Lift」を上へ移動してください。

「0」（初期設定値）が最も低く、「5」が最も高い位置です。

ご注意

- プレゼンススピーカーを使用していないときは表示されません。
- セリフの上下位置を初期設定よりも下にすることはできません。

3D DSP

選択項目： On* / Off

より緻密で立体的な 3D 感覚の音場をリスニングルームに再現します。

ご注意

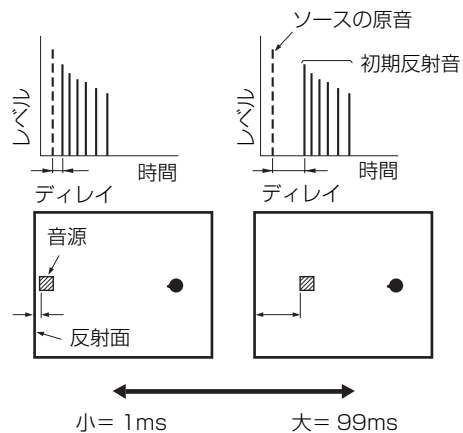
- プレゼンススピーカーを使用していないときは表示されません。

高度な音場パラメーター

■　初期反射音の調節

Initial Delay / P. Initial Delay / Sur. Initial Delay / Sur. Back Initial Delay

設定範囲： 1 ～ 99ms（Initial Delay / P. Initial Delay）
1 ～ 49ms（Sur. Initial Delay / Sur. Back Initial Delay）

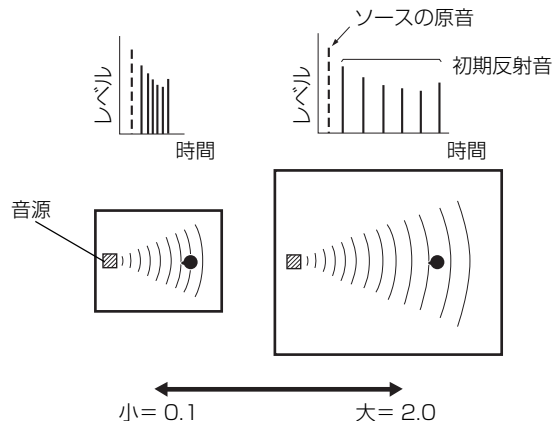
直接音から初期反射音が始まるまでの時間（遅延時間）を調節するパラメーターです。初期反射音の遅れは、音源と反射面との距離によって決まります。つまり、遅延時間を短くすると、音源が壁面に近づいた感じになり、逆に遅延時間を長くすると、音源は壁面から離れた感じになります。このパラメーターを調節することにより、ソースの原音から周りの壁までの距離感、空間の大きさ感、音像のできかた等が調節できます。

- 遅延時間を調節するときは、対応する「Room Size」も調節することをおすすめします。

■　ルームサイズの調節

Room Size / P. Room Size / Sur. Room Size / Sur. Back Room Size

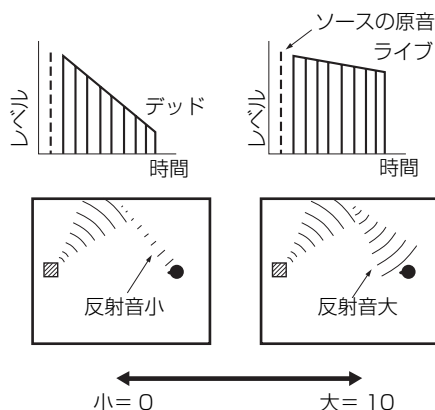
設定範囲： 0.1 ～ 2.0

空間の広がり感を調節するパラメーターです。値を大きくするほど広い空間（部屋）になり、値を小さくするほど狭い空間になります。音が反射を繰り返すとき、壁と壁の間が広い大きなホールほど、反射音と反射音の時間的な間隔が長くなります。このことから、反射音どうしの時間間隔を調節すれば、広がり感を変えることができるということになります。1.0 で実測値そのまま、2.0 にすると、1辺の長さが倍の空間になります。

応用操作

■ 初期反射音減衰特性の調節

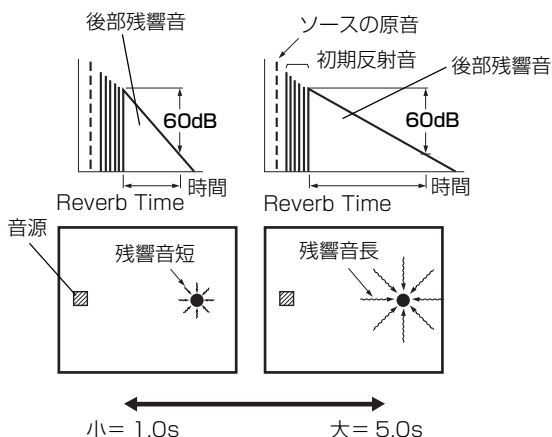
Liveness / P. Liveness / Sur. Liveness / Sur. Back Liveness

設定範囲： 0 ～ 10

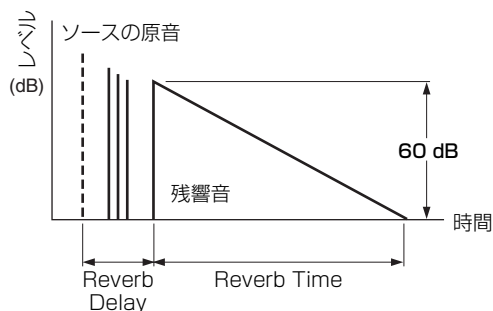
初期反射音の減衰特性を決めるパラメーターです。値を大きくするほど、ライブな（反響が多い）音場になり、値を小さくするほどデッドな（反響が少ない）音場になります。実際のホールでのライブ感／デッド感は、反射面の吸音特性によって決定され、反射音の減衰が早ければデッドに、遅ければライブに感じられます。

■ 後部残響音の調節

Reverb Time

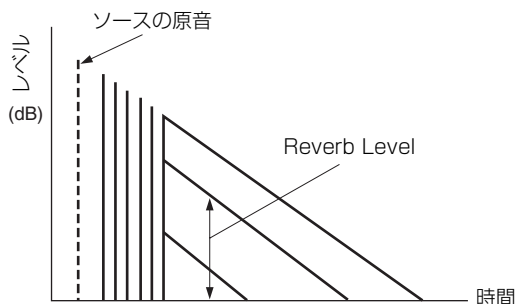
設定範囲： 1.0 ～ 5.0s

後部残響音が減衰していく時間を調節するパラメーターです。約 1kHz の残響音が 60dB 減衰するのにかかる時間を基準にしています。値を小さくするほど、残響音が早く減衰します。「Reverb Time」を調節することにより、反響が少なめのソースやリスニングルームに少し長めの残響時間を設定したり、逆に反響が多めのソースやリスニングルームには、短い残響時間を設定して自然な残響音となるように調節したりすることができます。

Reverb Delay

設定範囲： 0 ～ 250ms

残響音が発生しはじめるまでの時間を調節するパラメーターです。値を大きくするほど、残響音が初期反射音より遅れて発生するようになります。同じ「Reverb Time」でも、「Reverb Delay」を長くしていくと大きな空間の残響感になります。

Reverb Level

設定範囲： 0 ～ 100%

後部残響音のレベルを調節するパラメーターです。値を大きくするほど後部残響音のレベルが大きくなり、余韻が強く感じられます。

特定の音場プログラムでのみ使用できるパラメーター

■ MOVIE プログラムのみ

Decode Type

選択項目： PLIIx Movie（PLII Movie）/Neo:6 Cinema

MOVIE プログラムを選択している場合、デコーダーと組み合わせて再生できます。

ご注意

- 下記のMOVIEプログラムはデコーダーと組み合わせられません。
  – Mono Movie
  – Sports
  – Action Game
  – Roleplaying Game

■ 2ch Stereo のみ

Direct

選択項目： Auto*/Off
アナログ音声を入力ソースとして選択している場合は、トーンコントロールなどの状態に応じて、自動的に DSP 回路とトーンコントロール回路をバイパスさせることができます。より高音質な音声を楽しむときに使用します。

Auto　トーンコントロールの「Bass」と「Treble」の両方が 0dB であれば、DSP 回路とトーンコントロール回路をバイパスして出力します。
Off　回路のバイパスを行いません。

■ 7ch Stereo のみ

Center Level / Surround L Level / Surround R Level / Surround Back Level / Presence L Level / Presence R Level

設定範囲： 0 ～ 100%
7ch Stereo プログラムでの、センター、サラウンド L/R、サラウンドバック、プレゼンス L/R の各チャンネルの音量を調節します。各チャンネルスピーカーの有無により、設定できるパラメーターは変化します。

■ Straight Enhancer/7ch Enhancerのみ

Effect Level

選択項目： High*/Low
コンプレストミュージック・エンハンサーモードの効果を調節します。高音域が過剰に強調されているときは、「Low」に設定してください。

デコーダー用パラメーター

サラウンドデコーダー（34 ページ）を使って再生する場合、以下のデコーダーパラメーターを使って、デコーダーによる効果をカスタマイズできます。

■ PLIIx Music / PLII Music 選択時

Panorama

選択項目： Off*/On
フロント音場の広がり感を調節するパラメーターです。フロント L/R の音声を左右に大きく回り込ませることで、サラウンド音場につながるような広がり感を得ることができます。

Dimension

設定範囲： –3 ～ STD*（スタンダード）～ +3
フロント音場とサラウンド音場のレベル差を調節するパラメーターです。再生するソフトによって生じる、フロントとサラウンドのレベル差を調節して、好みのバランスにすることができます。−（マイナス）にするとサラウンド側、＋（プラス）にするとフロント側が強くなります。

Center Width

設定範囲： 0 ～ 3* ～ 7
センター音声の左右への広がりを調節するパラメーターです。センターからの音声を、好みに合わせて左右に振り分けることができます。0 にするとセンターのみ、7 にするとフロント L/R からのみセンター音声が出力されます。

■ Neo:6 Music 選択時

Center Image

設定範囲： 0.0 ～ 0.3* ～ 1.0
フロント音場の広がり感を調節するパラメーターです。値を小さくするとフロント音場の広がりが大きくなり、大きくすると狭く（センターへの定位が強く）なります。

Memory Guard

選択項目： Off* / On
誤操作によって設定値が変更されないようにセットアップメニューの設定を保護します。

Off　設定を保護しません。
On　設定（「DSP Parameter」の「Decode Type」、および「Memory Guard」を除く）を保護します。

- テレビにセットアップメニューを表示している場合、「On」を選択すると画面左上に「🔒」と表示されます。また、最上行に灰色の帯が表示されます。

本機のリモコンでさまざまな機器を操作する

本機のリモコンでは、選択している入力ソースごとに、異なる外部機器を操作できます。外部機器の操作に使用できるキーは以下のとおりです。

④ SOURCE POWER
外部機器の電源オン / オフを切り替えます。

⑪ カーソル、ENTER、RETURN
外部機器のメニュー操作などを行います。

⑫ 外部機器操作キー
外部機器の録画 / 再生などの操作や、メニュー表示キーとして動作します。

⑬ 数字キー
外部機器用の数字キーとして動作します。

⑭ テレビ操作キー

INPUT	テレビの映像入力を切り替えます。
MUTE	テレビを一時的に消音します。
TV VOL +/–	テレビの音量を調節します。
TV CH +/–	テレビのチャンネルを切り替えます。
POWER	テレビの電源を切り替えます。

⑲ DISPLAY
外部機器の表示切り替えを行います。

- 実際に外部機器を操作するには、リモコンコードを設定する必要があります。
- 各キーは、対応するキーが外部機器側にあるときのみ機能します。
- ⑭ **テレビ操作キー**は、選択している入力ソースに関わらず、常にテレビを操作できます。

工場出荷時には、各入力ソース選択キーに以下のようなリモコンコードが割り当てられています。リモコンコードについては、巻末に記載の「リモコンコード一覧」をご覧ください。

■ 工場出荷時のリモコンコード設定

入力ソース選択キー	カテゴリー	メーカー名	リモコンコード
[HDMI 1]	Blu-ray プレーヤー / レコーダー	Yamaha	2018
[HDMI 2]	---	---	---
[HDMI 3]	---	---	---
[HDMI 4]	---	---	---
[AV 1]	---	---	---
[AV 2]	---	---	---
[AV 3]	CD プレーヤー	Yamaha	5013
[AV 4]	---	---	---
[AV 5]	---	---	---
[AV 6]	---	---	---
[AUDIO 1]	---	---	---
[AUDIO 2]	---	---	---
[V-AUX]	---	---	---
[PHONO]	---	---	---
[USB]	---	---	---
[TUNER]	チューナー	Yamaha	5007
[DOCK]	DOCK	Yamaha	5011
[MULTI]	---	---	---

---：割り当てなし

リモコンコードを設定する

リモコンコードを設定することにより、本機のリモコンで他の機器を操作できます。リモコンコードについては、巻末に記載の「リモコンコード一覧」をご覧ください。
手順２～３は、前の手順終了後 1 分以内に操作してください。

1 ボールペンなどの先の細いもので、リモコンの ⑮CODE SET を押す。
②**TRANSMIT** が 2 回点滅します。

2 リモコンコードを登録したい入力ソースに対応する ⑤ 入力ソース選択キーを押す。

3 ⑬ 数字キーを押してリモコンコードを入力する。
登録が完了すると、リモコンの ②**TRANSMIT** が 2 回点滅します。②**TRANSMIT** が 6 回点滅した場合は、リモコンコードの入力に失敗したことを表します。もう一度手順 1 からやり直してください。

リモコンコードを初期化する

リモコンに登録されたすべてのリモコンコードを初期化して、工場出荷時の状態に戻します。

1 ボールペンなどの先の細いもので、リモコンの ⑮CODE SET を押す。
②**TRANSMIT** が 2 回点滅します。

2 リモコンの ⑩ON SCREEN を押す。

3 ⑬ 数字キーを押して「9981」と入力する。
初期化が完了すると、リモコンの ②**TRANSMIT** が 2 回点滅します。②**TRANSMIT** が 6 回点滅した場合は、リモコンコードの入力に失敗したことを表します。もう一度手順 1 からやり直してください。

本機の基本設定 / 初期化を行う（アドバンストセットアップメニュー）

アドバンストセットアップメニューでは、バイアンプ接続のオン/オフといった本機の基本設定や、ユーザー設定の初期化を行うことができます。

1 本機の電源をスタンバイに切り替えます。

2 フロントパネルディスプレイに以下のように表示されるまで、フロントパネルの ⓅSTRAIGHT を押しながら、ⓁSTANDBY/ON を押す。

ADVANCED SETUP

3 ⓄPROGRAM セレクターを回して、以下の中から設定したい項目を選択する。

「＊」は初期設定を表します。

- 実際のディスプレイ表示は、「XXX」の部分に設定値が入ります。

REMOTE ID -XXX

選択項目： ID1* / ID2

リモコンのIDを設定します。ヤマハ製AVアンプを複数使用する場合、各アンプのIDを同じ設定にすると、1つのリモコンですべてのアンプを操作できます。IDを分けた場合は、それぞれのリモコンで、アンプごとに操作できます。

BI-AMP - XXX

選択項目： ON / OFF*

メインスピーカーをバイアンプ接続（16 ページ）で使用するか動作を切り替えます。

SCENE IR - XXX

選択項目： ON* / OFF

BD/DVDまたはCDシーン機能を使用するときに、REMOTE OUT 端子から外部機器へのコントロール信号送信動作を設定します。

MON.CHK - XXXX

選択項目： YES* / SKIP

HDMI OUT 端子に接続したテレビへの出力信号に、解像度変換（アップスケーリング）の制限をかけます。

INIT-XXXXXXXXX

選択項目： DSP PARAM / VIDEO / ALL / CANCEL*

本機に記憶された各種設定を初期化します。初期化する内容は、以下の中から選択できます。

DSP PARAM：音場プログラムの設定
VIDEO：セットアップメニューで行ったビデオコンバージョン設定（解像度 / アスペクト比）および画面表示位置
ALL：すべての設定
CANCEL：初期化のキャンセル

4 ⓅSTRAIGHT を繰り返し押して、目的の設定値を選択する。

ここで選択した内容は、次に電源をオンにしたときに実行されます。手順３と４を繰り返して、複数の項目を設定することも可能です。

5 ⓁSTANDBY/ON を押して電源を切り、もう一度 ⓁSTANDBY/ON を押す。

手順 4 で行なった設定が反映され、本機の電源がオンになります。手順 3 で初期化を選択した場合は初期化が実行されます。

ファームウェアをアップデートする

本機は、フロントパネルに装備している USB 端子を使ってファームウェアをアップデートできます。また、現在のファームウェアのバージョンを確認できます。左記の手順３で以下の項目を選択してください。

FIRM UPDATE

ファームウェアをアップデートします。ファームウェアをアップデートするには、「FIRM UPDATE」を選択してから Ⓟ**STRAIGHT** を押してください。

ご注意

- ファームウェアのアップデートが必要なとき以外はこの機能を使用しないでください。
- ファームウェアをアップデートする前に、アップデートファイルと一緒に提供されるインフォメーションをよくお読みください。

VERXXX.XXX.XXX

ファームウェアのバージョンを表示します。

リモコン ID を設定する

本機のリモコンは、2 つの ID（リモコン ID）からいずれか 1 つを選択することができます。本機を設置している部屋で別のヤマハ製アンプをお使いの場合、本機のリモコン ID を切り替えることで、もう 1 台のアンプが動作するのを防止できます。

工場出荷時には、リモコン側、アンプ側ともに ID1 に設定されています。本機のリモコン ID を切り替えた場合、「ADVANCED SETUP」の「REMOTE ID」で必ずアンプ側の ID も切り替えてください。

1 ボールペンなどの先の細いもので、リモコンの ⑮CODE SET を押す。

②**TRANSMIT** が 2 回点滅します。

2 リモコンの ⑩ON SCREEN を押す。

3 リモコン ID コードを入力する。

リモコン ID1 に切り替える場合：
⑬ **数字キー**を押して「5019」と入力します。
リモコン ID2 に切り替える場合：
⑬ **数字キー**を押して「5020」と入力します。

登録が完了すると、コード入力後にリモコンの ②**TRANSMIT** が 2 回点滅します。
リモコンの ②**TRANSMIT** が 6 回点滅した場合は、リモコンコードの入力に失敗したことを表します。もう一度手順 1 からやり直してください。

- リモコンコードを初期化（56 ページ）すると、リモコン ID1 に戻ります。

付録

故障かな？と思ったら

ご使用中に本機が正常に作動しなくなった場合は下記の点をご確認ください。対処しても正常に作動しない、または下記以外で異常が認められた場合は、本機の電源をオフにし、電源プラグを抜いて、お買い上げ店またはヤマハ修理ご相談センターにお問い合わせください。

全般

症状	原因	対策	参照ページ
本機が正常に動作しない	内部マイコンが外部電気ショック（落雷または過度の静電気）、または電源電圧の低下によりフリーズしている。	AC コンセントから電源プラグを抜き、約 30 秒後にもう一度差し込んでください。	—
使用中に突然電源がスタンバイになる	機器内部の温度が上昇したため、保護回路により電源が切れた。	温度が下がるのを待って（1 時間程度）、電源を入れ直してください。	—
	スピーカーケーブルのショートなどにより、保護回路が働いた。	スピーカーケーブルの芯線どうしが接触していないか確認し、電源をオンにしてください。	—
	スリープタイマーが作動した。	本機の電源をオンにして、再生し直してください。	—
電源を入れてもすぐに切れてしまう、または STANDBY/ON スイッチ（または POWER キー）を押しても電源が入らない	電源コードがしっかり接続されていない。	電源コードを AC コンセントにしっかりと差し込んでください。	25
	（再度電源をオンにしたときに、「CHECK SP WIRES!」と表示されるとき）スピーカーケーブルがショートした状態で電源を入れたため、保護回路により電源が切れた。	すべてのスピーカーケーブルが本機とスピーカーに正しく接続されているか確認してください。	15 ～ 17
電源をオフにできない	内部マイコンが外部電気ショック（落雷または過度の静電気）、または電源電圧の低下によりフリーズしている。	AC コンセントから電源プラグを抜き、約 30 秒後にもう一度差し込んでください。	—
映像が出ない	テレビで適切な映像入力が選択されていない。	テレビを操作して適切な映像入力を選択してください。	—
	HDMI OUT 以外の映像出力端子にテレビを接続しているときに、再生機器を HDMI1 ～ 4 端子に接続している。	再生機器を COMPONENT VIDEO、D4 VIDEO、VIDEO のいずれかの映像入力端子に接続するか、テレビを HDMI OUT 端子に接続してください。	19、21
	HDMI OUT 端子に接続したテレビが対応していない映像信号を本機から出力している。	アドバンストセットアップメニューを表示して、「INIT」の項目から「VIDEO」を選択して映像の設定を初期化してください。	57
		アドバンストセットアップメニューを表示して、「MON.CHK」の設定を「YES」に設定してください。	19
	HDMI 端子を使ってテレビを接続しているときに、ゲーム機の映像を入力している。	テレビを COMPONENT VIDEO 端子を使って本機と接続してください。	19
	特殊な信号を入力している。	テレビを COMPONENT VIDEO、D4 VIDEO、VIDEO のいずれかの端子を使って本機と接続してください。	21
映像が乱れる	再生している映像ソフトにコピー防止機能がついている。		

症状	原因	対策	参照ページ
音声が出ない	再生機器がしっかり接続されていない。	接続を確認してください。接続に問題がないときはケーブルに接続不良が発生している可能性があります。	21、24
	再生したい入力ソースが正しく選択されていない。	本体の ⓈINPUT **セレクター**やリモコンの 5 **入力ソース選択キー**で、再生したい入力ソースを正しく選択してください。	29
	スピーカーがしっかり接続されていない。	接続を確認してください。	15 ～ 17
	音量が小さい、または消音されている。	音量を大きくしてください。	29
	CD-ROM など、本機で再生できない信号が入力されている。	本機で再生可能な信号のソースを再生してください。	—
	接続している HDMI 機器が著作権保護（HDCP）に対応していない。	著作権保護に対応した機器を接続してください。	—
	セットアップメニューの設定で、HDMI の音声出力がテレビにのみ出力されている。	セットアップメニューの HDMI の音声出力（Function Setup → HDMI → Audio Output）の設定を、「TV」以外に設定してください。	50
	適切なデコーダーが選択されていない。	オプションメニューを表示して、「Decoder Mode」の設定を「Auto」に設定してください。	43
センタースピーカーからしか音声が出ない	モノラルソースに音場プログラムをかけた場合、使用するサラウンドデコーダーの種類によっては、すべての音声がセンタースピーカーから出力されることがあります。	他の音場プログラムを選択してください。	32

症状	原因	対策	参照ページ
特定のスピーカーから音声が出ない（音声が出ていないスピーカーに対応するスピーカーインジケーターが点灯している場合も含む）	再生機器やスピーカーがしっかり接続されていない。	接続を確認してください。接続に問題がないときはケーブルに接続不良が発生している可能性があります。	14
	該当スピーカーから信号が出力されない設定になっている。	フロントパネルディスプレイのスピーカーインジケーターを確認してください。該当するチャンネルが消灯している場合は以下の項目をご確認ください。 1) 他の入力ソースに切り替えてください。 2) 選択中の音場プログラムでは、該当スピーカーから音声は出力されません。他の音場プログラムを選択してください。 3) 本機側で、該当するスピーカーがなし（None）に設定されている可能性があります。セットアップメニューの「Speaker Setup」を表示して、該当するスピーカーを有効にしてください。	29、32、47
	セットアップメニューの「Speaker Setup」で、該当するスピーカーの音量が最少になっている。	セットアップメニューの「Speaker Setup」を表示して、スピーカーの音量（Manual Setup → Speaker Level）を調節してください。	49
	ストレートデコードモードで再生している。	本体の ⓅSTRAIGHT または 8STRAIGHT を押してストレートデコードモードをオフにしてください。	35
	再生するソースや音場プログラムによっては、音が出ないチャンネルがある。（故障ではありません）	他の音場プログラムを選択すると音が出る場合もあります。	32
	スピーカーが故障している。	フロントパネルディスプレイのスピーカーインジケーターを確認し、該当するスピーカーチャンネルが点灯している場合は、他のスピーカーを接続して、音が出るか確認してください。音が出ない場合は、本機が故障している可能性があります。	—
サブウーファーから音声が出ない	セットアップメニューの「Speaker Setup」で LFE チャンネルの設定（LFE / Bass Out）を「Front」に設定したまま、Dolby Digital、DTS および AAC 信号を再生している。	「SWFR」または「Both」に設定してください。	48
	セットアップメニューの「Speaker Setup」で LFE チャンネルの設定（LFE / Bass Out）を「SWFR」または「Front」に設定したまま、2 チャンネル信号を再生している。	「Both」に設定してください。	48
	再生しているソースに LFE や低音信号が含まれていない。		
サラウンドバックスピーカーから音声が出ない	オプションメニューの「Extended Surround」の設定が「Off」になっている。または「Extended Surround」の設定が「Auto」の状態で、入力されている信号にサラウンドバックのフラグが含まれていない。	「Extended Surround」の設定を、「Off」および「Auto」以外に設定してみてください。	44
聴きたいデジタル音声フォーマットで音声が再生されない	再生機器側で、聴きたいデジタル音声フォーマットが出力されない設定になっている。	再生機器の取扱説明書をご覧のうえ、正しく設定してください。	—

症状	原因	対策	参照ページ
マルチチャンネルで再生できない	再生機器側で、2チャンネルまたはPCM信号を出力する設定になっている。	再生機器の取扱説明書をご覧のうえ、正しく設定してください。	—
	セットアップメニューの「Function Setup」でHDMI出力の設定（Audio Output）を「Amplifier + TV」に設定している。	「Amplifier」に設定してください。	50
「ブーン」などの雑音が入る	ケーブルがしっかり接続されていない。	ケーブルをしっかり差し込んでください。接続に問題がないときはケーブルに接続不良が発生している可能性があります。	15～24
	DTS-CDを再生している。	下記の対策を行ってください。 1) ノイズだけが再生される DTSのビットストリームが本機に正しく入力されていない場合は、ノイズだけが再生されます。 本機と再生機器をデジタル接続して再生してください。症状が解消しない場合は、再生機器側に問題がある可能性があります。再生機器のメーカーにお問い合わせください。 2) 再生 / スキップ操作時にノイズが発生する DTS-CDを再生する前に、入力ソース選択後にオプションメニューを表示して「Decoder Mode」を「DTS」に設定してください。	21、43
	レコードプレーヤーのGNDがしっかり接続されていない。	GNDの接続を確認してください。	22
音量を上げられない、または音が歪んでいる	本機の出力端子に接続された機器の電源が入っていない。	AVアンプという製品ジャンルの特性上、出力端子に接続している機器の電源が切れている場合に、再生音が歪んだり、音量が下がったりすることがあります。本機に接続しているすべての機器の電源を入れてください。	—
	「Max Volume」で小さい音量が設定されている。	大きい音量を設定してください。	51
レコードを再生している場合に音量が小さい	低出力型MCカートリッジ付のレコードプレーヤーで再生している。	昇圧トランスまたはMCヘッドアンプを使用して本機に接続してください。	22
「Memory Guard！」と表示され、設定が変更できない	「Memory Guard」を「On」に設定している。	「Off」に設定してください。	55
デジタル機器や高周波機器からの雑音を受けている	本機とデジタル機器や高周波機器の設置場所が近すぎる。	本機とそれらの機器を離して設置してください。	—

HDMI

症状	原因	対策	参照ページ
音声や映像が出ない	制限台数を超えるHDMI機器を接続している。	接続しているHDMI機器の数を減らしてください。	—
	接続しているHDMI機器が著作権保護（HDCP）に対応していない。	著作権保護に対応した機器を接続してください。	—

FM/AM 放送の受信

	症状	原因	対策	参照ページ
FM	ステレオ放送になると雑音が多く聞きづらい	放送局から離れた地域で受信しているか、アンテナ入力が弱い。	アンテナの接続を確認してください。	25
			屋外アンテナを感度の良い、多素子のものに変えてください。	—
			モノラルで受信してください。	36
	FM 専用アンテナを使用しているが、音が歪むなど受信感度が悪い	マルチパス（多重反射）などの妨害電波を受けている。	アンテナの高さや方向、設置場所を変えてください。	—
	自動で選局できない	放送局から離れた地域で受信しているか、アンテナ入力が弱い。	屋外アンテナを感度の良い、多素子のものに変えてください。	—
			手動選局、または周波数を直接指定して選局してください。	36
AM	自動で選局できない	電波が弱い、あるいはアンテナの接続が不完全。	AM ループアンテナの方向を変えてください。	—
			手動で選局してください。	36
	オートプリセットができない	AM 放送局はオートプリセットができません。	マニュアルプリセットをしてください。	37
	「ジー」、「ザー」、「ガリガリ」などの雑音が入る	空電や雷による雑音、または蛍光灯、モーター、サーモスタット付きの電気器具の雑音を拾っている。	AM 屋外アンテナを張り、アースを完全に取ると減少しますが、完全に除去するのは困難です。	—
	「ブンブン」、「ヒューヒュー」などの雑音が入る	本機の近くでテレビを使用している。	本機とテレビを離して設置してください。	—

リモコン

症状	原因	対策	参照ページ
本機をリモコンで操作できない	リモコン操作範囲から外れている。	本体のリモコン受光窓から 6m 以内、30°以内の範囲で操作してください。	11
	受光窓に日光や照明（インバーター蛍光灯やストロボライトなど）があたっている。	照明、または本体の向きを変えてください。	—
	乾電池が消耗している。	乾電池をすべて交換してください。	11
	リモコン側と本体側のリモコン ID が一致していない。	コードまたはリモコン ID の設定を変えてください。	57

症状	原因	対策	参照ページ
外部機器をリモコンで操作できない	リモコンコードが正しく設定されていない。	巻末の「リモコンコード一覧」をご覧になり、正しく設定してください。	56
		巻末の「リモコンコード一覧」をご覧になり、同じメーカーの別のコードを設定してください。	56
		⑪ **カーソルキー**などのリモコンキーが動作しない場合は、下記の操作を行なってみてください。 –DVDのディスクメニューなどで操作が行なえない場合：⑤ **入力ソース選択キー**をもう一度押してから操作してください。 –オプションメニュー / セットアップメニューで操作が行なえない場合：表示しているメニューに応じてもう一度該当するメニュー表示キーを押してから操作してください。	
	リモコンコードを正しく設定しても、メーカーまたは機器によっては操作できない場合があります。		

iPod

ご注意

- フロントパネルディスプレイやテレビに下記のメッセージが表示されない場合は、iPod の接続をご確認ください（24 ページ）。

表示	内容	対策	参照ページ
Loading...	iPod との接続を確認中です。		
	iPod から情報を取得中です。		
Connect error	iPod との通信に問題が発生しています。	本機の電源をオフにし、ヤマハ製 iPod ユニバーサルドックを接続し直してください。	24
		iPod をヤマハ製 iPod ユニバーサルドックにセットし直してください。	—
Unknown iPod	本機に対応していない種類の iPod が接続されています。	本機が対応している種類の iPod を接続してください。	—
iPod Connected	iPod がヤマハ製 iPod ユニバーサルドックに正しく接続されました。		
Disconnected	iPod がヤマハ製 iPod ユニバーサルドックから取り外されました。		
Unable to play	何らかの原因で再生できません。	iPod に保存されている曲が再生可能であるか確認してください。	—

Bluetooth®

表示	内容	対策	参照ページ
Searching...	ヤマハ製 Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバーと Bluetooth 機器がペアリングしています。		
	ヤマハ製 Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバーと Bluetooth 機器が接続を確立しています。		
Completed	ペアリングが完了しました。		
Canceled	ペアリングが中止されました。		
BT Connected	ヤマハ製 Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバーと Bluetooth 機器の接続が確立しました。		
Disconnected	ヤマハ製 Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバーと Bluetooth 機器の接続が切断されました。		
Not Found	ペアリングしているときに Bluetooth 機器が見つかりませんでした。	ペアリングは、本機と Bluetooth 機器で同時に行う必要があります。Bluetooth 機器側もペアリングモードになっているか確認してください。	40
	接続しているときに Bluetooth 機器が見つかりませんでした。	Bluetooth 機器の電源がオンになっているか確認してください。	—
		ヤマハ製 Bluetooth ワイアレスオーディオレシーバーと Bluetooth 機器の距離が１０メートル以上離れていないか確認してください。	—

USB

症状	原因	対策	参照ページ
USB デバイスの音楽ファイルやフォルダをブラウズできない	音楽ファイルやフォルダが FAT 領域以外の場所に保存されている。	音楽ファイルやフォルダを FAT 領域に保存してください。	—
	８階層をこえるフォルダ、または１つのフォルダにつき５００をこえるフォルダ／ファイルはブラウズできません。	USB デバイス内のデータ構造を変更してください。	—
	ファイルやフォルダ名に本機では表示できない文字が含まれている。	パソコンなどを使って名称を変更してから、再度ブラウズしてください。	—
	フロントパネルディスプレイでは日本語を表示できません。	GUI 画面でブラウズしてください。	—
USB デバイスを認識できない	USB デバイスが USB マスストレージクラスに対応していない。	USB マスストレージクラスに対応した USB デバイス（USB ハードディスク以外）をお使いください。USB マスストレージクラスに対応した USB デバイスであっても、本機で再生できないものがあります。	—
	本機が USB デバイスを正しく認識していない。	一度本機の電源をオフにしたのち、再びオンにしてください。	25

表示	内容	対策	参照ページ
USB connected	USB デバイスが接続されました。		40
Disconnected	USB デバイスが取りはずされました。	USB デバイスが正しく接続されているか確認してください。	—
	USB デバイスとの通信に異常があります。	本機の電源をオフにしてから USB デバイスを接続し直してください。	25
		USB デバイスを再セットアップしてください。	—
Access error	USB デバイスにアクセスできません。	別の USB デバイスをお試しください。	—
	USB デバイスとの通信に異常があります。	本機の電源をオフにしてから USB デバイスを接続し直してください。	25
		USB デバイスを再セットアップしてください。	—
Unable to play	データが無効です。	別の USB デバイスをお試しください。	—

Auto Setup

ご注意

- エラーメッセージや警告メッセージが表示された場合、発生している問題を解決してから Auto Setup をやり直してください。
- 「W-2」、または「W-3」が表示された場合、補正はされますが、最適な状態ではありません。
- スピーカーの種類により、スピーカーが正しく接続されていても「W-1」が表示されることがあります。
- 「E-10」が繰り返し表示される場合は、ヤマハ修理ご相談センターにお問い合わせください。

測定開始時の表示

表示	内容	対策	参照ページ
Connect MIC!	オプティマイザーマイクが接続されていません。	オプティマイザーマイクをフロントパネルの OPTIMIZER MIC 端子に接続してください。	26
Unplug HP!	ヘッドホンが接続されています。	ヘッドホンを取り外してください。	—
Memory Guard!	本機の設定が保護されています。	「Memory Guard」を「Off」に設定してください。	55

測定中の表示

エラーメッセージ	内容	対策	参照ページ
E-1:NO FRONT SP	フロント L/R チャンネル信号が検出されませんでした。	フロント L/R スピーカーが正しく接続されているか確認してください。	15
E-2:NO SUR. SP	サラウンド L/R チャンネル信号の片側しか検出されませんでした。	サラウンド L/R スピーカーが正しく接続されているか確認してください。	15
E-3:NO PRNS SP	プレゼンス L/R チャンネル信号の片側しか検出されませんでした。	プレゼンス L/R スピーカーが正しく接続されているか確認してください。	15
E-4:SBR->SBL	サラウンドバックスピーカーを 1 本のみ接続している場合に、R 側のサラウンドバックチャンネル成分のみが検出されました。	サラウンドバックスピーカーを 1 本のみ接続する場合は、L 側（SINGLE）の端子に接続してください。	15
E-5:NOISY	騒音が大きすぎて、正確な測定ができません。	周囲が静かな時間帯に測定をやり直してみてください。	—
		エアコンなど、騒音を発生する機器の電源を一時的に切るか、オプティマイザーマイクから遠ざけてみてください。	—

エラーメッセージ	内容	対策	参照ページ
E-6:CHECK SUR.	サラウンド L/R スピーカーが接続されていないのに、サラウンドバックスピーカーだけが接続されています。	サラウンドバックスピーカーを使うときは、サラウンド L/R スピーカーを接続する必要があります。	15
E-7:NO MIC	測定の途中でオプティマイザーマイクが外れました。	「Auto Setup」での測定中はオプティマイザーマイクに触れないようご注意ください。	26
E-8:NO SIGNAL	オプティマイザーマイクがテストトーンを検知していません。	オプティマイザーマイクが正しく設置されているか確認してください。	26
		各スピーカーが正しく接続、設置されているか確認してください。	15
		オプティマイザーマイク、または OPTIMIZER MIC 端子が壊れている可能性があります。お買い上げ店、または最寄りのヤマハ修理ご相談センターにお問い合わせください。	—
		テレビと HDMI 接続を行っている場合、HDMI コントロール機能によって本機から音声が出力されないことがあります。テレビを操作して、本機から音声出力できるよう設定（たとえば音声出力先＝アンプなど）してください。	—
E-9:USER CANCEL	何らかの操作をしたため、測定を中断しました。	測定をやり直してください。測定中は音量を調節するなどの操作をしないでください。	26
E-10:INTERNAL ERROR	内部エラーが発生しました。	測定をやり直してください。	26

測定終了時の表示

警告メッセージ	原因	対策	参照ページ
W-1:OUT OF PHASE	表示されたスピーカーの極性が、逆に接続されています。お使いのスピーカーの種類や設置環境によっては、スピーカーが正しく接続されていても、このメッセージが表示されます。	スピーカーの極性＋（プラス）、−（マイナス）が正しいか確認してください。正しく接続されている場合は、このメッセージが表示されても正常に使用できます。	15
W-2:OVER 24m	表示されたスピーカーとリスニングポジションとの距離が 24m よりも離れているため、正確に補正できません。	視聴位置の 24m 以内にスピーカーを移動してください。	—
W-3:LEVEL ERROR	各チャンネル間の音量差が大きすぎて、正確に補正できません。	スピーカーの設置位置を再度確認して、すべてのスピーカーが同等の環境下に設置されているか確認してください。	—
		スピーカーの極性＋（プラス）、−（マイナス）が正しいか確認してください。	15
		なるべく性能が似ている、または同じスピーカーを使用することをおすすめします。	—
		サブウーファーの音量を調節してください。	—

用語／技術解説

■ コンポーネントビデオ信号

映像信号を、輝度を表すY信号と、色を表すPB/CB信号（青色差信号）およびPR/CR信号（赤色差信号）の3系統に分けて伝送する方式です。それぞれの信号を独立して伝送するため画質の劣化が少なく、色をより忠実に再現できます。また、コンポーネントビデオ信号は、色を表す信号から輝度を表す信号を引いているので、色差信号とも呼ばれます。
この方式をお使いになるためには、コンポーネントビデオ端子、またはD端子のあるテレビを本機に接続してください。

■ コンポジットビデオ信号

輝度を表すY信号と､色を表すC信号を1つの映像信号としてまとめて伝送する方式です。テレビのNTSC信号などが採用しています。

■ サンプリング周波数

アナログ音声信号をデジタル信号化する際に、1秒間にサンプリング（信号の大きさを数値に置き換えること）を行う回数をサンプリング周波数といいます。
再生できる周波数帯は「サンプリング周波数」で決まり、サンプリング周波数が高いほど再生可能な音域が広がることになります。

■ バイアンプ

スピーカーのウーファーとツィーターを別々のアンプで駆動する方式です。中低域部と高域部を独立して接続することにより、逆起電力による音の純度低下を抑え、よりクリアな音声を楽しめます。

■ リップシンク（Lip sync）

HDMI 1.3がサポートしている、音声と映像の出力タイミングのずれを自動的に補正する技術です。映像信号の大容量化にともなう信号処理の複雑化により、音声出力に対して映像出力が遅れてしまうことがあります。この映像出力の遅延を自動的に検知し、遅延時間に合わせて音声を遅らせて出力することにより、音声と映像の出力タイミングを同期させています。

■ 量子化ビット数

アナログ音声信号をデジタル信号化する際に、音の大きさを数値化するときのきめ細かさを量子化ビット数といいます。音量の差を表すダイナミックレンジは「量子化ビット数」で決まり、量子化ビット数が大きいほど音の大きさの変化をきめ細かく再現できます。

■ AAC
（アドバンスト・オーディオ・コーディング）

MPEG-2オーディオ規格の一つで､BS/地上波デジタル放送で採用されています。モノラル音声から最大で7チャンネル音声までを効率良く圧縮して記録、伝送できます。
本機はAACデコーダーを搭載しているので、BS/地上波デジタルチューナーで受信した番組の5.1チャンネル音声をデコード（復号）して再生できます。

■ D端子

AV機器間での映像信号の伝送に用いられる端子で、性能に応じてランクがD1からD5に分けられています。D端子では、コンポーネントビデオ信号とコントロール信号（走査線、アスペクト比、インターレース / プログレッシブの情報）を、1本の専用ケーブルで接続できます。
本機にはD4ビデオ端子が装備されており、D1からD4の規格に対応しています。

■ Deep Color

HDMI 1.3がサポートしている映像技術です。RGBまたはYCBCR信号の処理を、従来の8ビットに対して10/12/16ビットで処理することで、より豊かな色調表現が可能です。表現できる色の数が従来の数百万色から数億色に増えたことにより、グラデーションの表現力や暗部のディテール再現力が向上し、カラーバインディング（しま模様状になる色の変化）の少ない画像を楽しめます。

■ Dolby Surround

現在、ほとんどのソフトに普及している方式です。Dolby Surroundは、ダイナミックで臨場感豊かな音響効果のために、フロントL/Rチャンネル（ステレオ音声)、会話などを再生するセンターチャンネル（モノラル音声)、効果音のサラウンドチャンネル（モノラル音声）の、アナログ4チャンネル方式を採用しています。サラウンドチャンネルの再生域は狭くなっています。
本機に内蔵のドルビープロロジックデコーダーは、各チャンネルの音量を自動的に調整して安定させ、音の移動感や方向性を強調して、より正確なデジタル処理を行います。

■ Dolby Digital

Dolby Digitalは、完全に独立したマルチチャンネル音声を再生できるデジタルサラウンドシステムです。全帯域の音声成分を持つフロント3チャンネル（フロントL/R、センター）と、サラウンド2チャンネル（サラウンドL/R)、低音域専用のLFEチャンネルの合計5.1チャンネルで構成されます。
サラウンド2チャンネルがステレオで収録されているため、Dolby Surroundと比較して、音の移動感や周囲の環境音がより明確になります。全帯域の5チャンネルの幅広いダイナミックレンジと正確な音の定位によって、これまでにない迫力と現実感を再現できます。
本機では、モノラル音声から5.1チャンネルスピーカーシステムまでお好みの視聴環境を選ぶことができます。

■ Dolby Digital Surround EX
本機は 5.1 チャンネルのソースに、サラウンドバックチャンネルを加えて 6.1 チャンネル再生を可能にする、Dolby Digital Surround EX ソフト対応の Dolby Digital EX デコーダーを内蔵しています（サラウンドバックチャンネルはサラウンド左とサラウンド右チャンネルから作られます）。Dolby Digital Surround EX で録音された映画のサウンドトラックを再生する際に、最良の音声を再生できます。この追加チャンネルにより、特に飛び越えたり飛び回ったりといった動きのあるシーンで、よりダイナミックでリアルな動作音をお楽しみいただけます。

■ Dolby Digital Plus
ブルーレイディスクなどの次世代光ディスクや、デジタルテレビ放送向けに開発された高品質音声フォーマットです。ブルーレイディスクではオプション採用され、最大7.1チャンネルのディスクリート音声信号を、最大転送レート 6Mbps で収録可能です。従来の Dolby Digital と互換性があるため、Dolby Digital 対応の機器でも再生できます。

■ Dolby Pro Logic II
Dolby Pro Logic II はドルビープロロジックを改良した方式で、Dolby Surround 方式のソフトに多く採用されています。2 チャンネルで記録された音声を信号処理し、優れた分離感を保ったまま 5.1 チャンネル音声に変換します。映画用の Movie モードと、音楽などのステレオソース用の Music モード、ゲーム用の Game モードが用意されています。
従来の 2 チャンネル音声（モノラル音声を除く）だけで記録された古い映画も、5.1 チャンネルの迫力ある音声で楽しめます。

■ Dolby Pro Logic IIx
ドルビープロロジックの技術です。2 チャンネルで記録された音声はもちろん、マルチチャンネルで記録された音声をも信号処理し、自然な 7.1 チャンネル音声をフルレンジで再生します。映画用の Movie モード（2 チャンネル信号入力時のみ）、音楽用の Music モード、ゲーム用の Game モードが用意されています。

■ Dolby TrueHD
ブルーレイディスクなどの次世代光ディスク向けに開発されたロスレス（可逆型）高品質音声フォーマットです。ブルーレイディスクではオプション採用され、96kHz/24bit 時には最大 8 チャンネルのディスクリート音声信号を、最大転送レート 18Mbps で収録可能です。従来の Dolby Digital と互換性があるため、Dolby Digital 対応の機器でも再生できます。ダイアログノーマライゼーションやダイナミックレンジコントロールをサポートしています。スタジオマスター品質の音声が楽しめます。

■ DSD（ダイレクト・ストリーム・デジタル）
SA-CD（スーパーオーディオ CD）などで使われている、デジタル信号を記録する方式の一つです。サンプリング周波数 2822.4kHz で記録することにより、CD などで使われている PCM よりも高音質で再生できます。周波数は 100kHz 以上、ダイナミックレンジは 120dB です。本機では、HDMI 端子から入力した DSD 信号を再生できます。

■ DTS 96/24
DTS 96/24 は DVD ビデオのマルチチャンネルサウンドを高音質で再生します。従来の DTS デコーダーとも互換性があるため、DTS 96/24 に対応していない機器では、通常の DTS サラウンドとして楽しむことができます。「96」はサンプリング周波数の 96kHz（従来の 48kHz から倍増）、「24」は量子化ビット数 24 ビットを示します。広い周波数帯域、ダイナミックレンジで、DVD ビデオの音楽や映画音声を 5.1 チャンネルで楽しむことができます。

■ DTS デジタルサラウンド
DTS デジタルサラウンドは、アナログの映画音声に取って代わる 5.1 チャンネル方式のデジタルサウンドトラックとして開発された最新技術で、世界中の映画館に急速に普及しています。ご家庭でも音の奥行きや自然な空間表現を楽しめるように開発したものが、本機で採用している DTS システムです。
極めて劣化が少なく、クリアな音質の 6 チャンネル（フロント L/R、センター、サラウンド L/R チャンネル、サブウーファー用 LFE0.1 チャンネルを加えた 5.1 チャンネル）で構成されています。

■ DTS Express
ブルーレイディスクなどの次世代光ディスク向けに開発された音声フォーマットで、ネットワーク・ストリーミング用に最適化された低ビットレート信号です。ブルーレイディスクではセカンダリーオーディオで使用され、本編の再生を楽しみながらインターネットを経由して映画制作者のコメントなどを楽しめます。

■ DTS-HD High Resolution Audio
ブルーレイディスクなどの次世代光ディスク向けに開発された高品質音声フォーマットです。ブルーレイディスクでオプション採用され、96kHz/24bit で最大7.1チャンネルのディスクリート音声信号を、最大転送レート 6Mbps（ブルーレイディスクの場合）で収録可能です。従来の DTS デジタルサラウンドと互換性があるため、DTS デジタルサラウンド対応の機器でも再生できます。

■ DTS-HD Master Audio
ブルーレイディスクなどの次世代光ディスク向けに開発されたロスレス（可逆型）高品質音声フォーマットです。ブルーレイディスクで標準採用され、96kHz/24bit で最大 7.1 チャンネルのディスクリート音声信号を、最大転送レート 24.5Mbps（ブルーレイディスクの場合）で収録可能です。従来の DTS デジタルサラウンドと互換性があるため、DTS デジタルサラウンド対応の機器でも再生できます。スタジオマスター品質の音声が楽しめます。

■ DTS Neo:6
2 チャンネル信号のソースを、サラウンドバックを含めた 6 チャンネルで再生できます。再生するソースに合わせて、音楽用の Music モードと、映画用の Cinema モードが用意されています。すべてのチャンネルを全帯域で再生できるだけでなく、ディスクリート方式で記録されたソースのようなチャンネルの分離感を体感できます。

■ FLAC (Free Lossless Audio Codec)
音声圧縮方式の一つで、可逆圧縮方式を採用しています。圧縮率では非可逆圧縮方式フォーマットには劣るものの、原音からの質の劣化がないため、高品質の音声を楽しめます。

■ HDMI
世界業界標準規格である HDMI（High-Definition Multimedia Interface Specification）規格に準じた、次世代テレビ向けのデジタルインターフェースです。著作権保護技術（HDCP：High-bandwidth Digital Content Protection System）に対応しているため、デジタルビデオ / オーディオ信号をデジタルのまま劣化させることなく、1 本のケーブルで伝送できます。

■ LFE（低域効果音）0.1 チャンネル
音声成分の帯域が 20 〜 120Hz の、低音域専用チャンネルです。Dolby Digital と DTS、AAC で、全帯域用の 5 チャンネルに加えて、効果的な場面で低音を増強するために使用されます。音声の帯域が低域のみに制限されているので、0.1 と表現されます。

■ MP3
MPEG で利用される音声圧縮方式の一つです。人間の感じ取りにくい部分のデータを間引く非可逆圧縮方式を採用しています。音楽 CD 並の音質を保ったままデータ量を約 1 ／ 10 に圧縮できると言われています。

■ MPEG-4 AAC
MPEG-4 オーディオ規格の 1 つで、MPEG-2 AAC より低いビットレートでデータを圧縮できることから、携帯電話や携帯音楽プレーヤーなどの小容量、高品質が求められる機器にも利用されています。
また、上記の機器以外にもインターネット上のコンテンツ配信など、パソコンやメディアサーバーなどでも多く利用されている規格です。

■ WAV
Windows 標準の音声ファイルの形式です。デジタル音声信号の保存形式などを規定しています。通常は非圧縮（PCM）のデータが使用されますが、任意の圧縮方式も利用できます。

■ WMA（Windows Media Audio）
Microsoft 社が開発した音声圧縮方式です。人間の感じ取りにくい部分のデータを間引く非可逆圧縮方式を採用しています。音楽 CD 並の音質を保ったまま約 1 ／ 20 に圧縮できると言われています。

■ PCM（リニア PCM）
MP3 形式や ATRAC 形式のようにアナログ音声信号を圧縮せずに、そのまま符号化して録音・伝送する方式です。「PCM」は、パルス・コード・モジュレーションの略で、デジタル信号をパルスの符号にして変調記録するという意味です。
音楽 CD や、DVD オーディオの録音方法などで採用されています。PCM 方式では、非常に短く区切った単位時間あたりの信号の大きさを数値に置き換える（サンプリング）手法を用いています。

■ x.v.Color
HDMI 1.3 がサポートしている映像技術です。色空間規格の一つで、sRGB 規格より広い色空間を持っているため、今までできなかった色の表現が可能です。sRGB 規格の色域との互換性を確保しながら色空間を拡張し、より鮮明で自然な映像になっています。特に静止画や CG で高い効果が得られます。

音場プログラム解説

■ 音場を構成する要素

直接音
楽器やボーカルなどの、音源からどこにも反射することなく、直接リスナーの耳に届く音です。

初期反射音
壁や天井などに１回反射してからリスナーの耳に到達する音です。初期反射音は直接音が発生してから50ms（50 ／ 1000 秒）から 80ms（80 ／ 1000 秒）くらいあとに耳に届きます。初期反射音により、直接音に明瞭さが付加されます。

後部残響音
壁や天井、部屋の後部などに２回以上反射を繰り返しながら、多数の反響音がひとまとめになり、連続した音響の余韻となる音です。これらの反射音は方向性がなく、直接音の鮮明さを劣化させます。

直接音、初期反射音、後部残響音が一つになることで、リスナーは演奏会場や劇場をイメージすることができます。デジタル音場プロセッサーはこの反射音、残響音を再現することで、音場を作り出します。

また、リスニングルームにおいて適切な反射音や後部残響音を再現できれば、独自のリスニング音場を作り出すことができます。つまりリスニングルームの音響効果をコンサートホール、ダンスフロア、大聖堂など、さまざまな演奏会場や劇場の音響効果に変えることができるのです。意のままに音場を再現する能力こそ、デジタル音場プロセッサーを通じてヤマハがこれまでに実践してきたことです。

■ コンプレストミュージック・エンハンサーモード

MP3 や AAC など、ポータブルオーディオプレーヤーなどで使用される圧縮音声フォーマットの再生に最適なプログラムです。高音域を拡張し、低音域を強調することによって、圧縮音声をダイナミックかつ臨場感たっぷりに再生します。

■ サイレントシネマ

ヘッドホンでマルチスピーカーによる音場プログラムを擬似的に再現するための、ヤマハ独自のシステムです。
音場プログラムごとにヘッドホン用の設定値が用意されているため、自然で立体感あふれる音場プログラムをヘッドホンでもお楽しみいただけます。

■ シネマ DSP（デジタル・サウンド・フィールド・プロセッサー）

Dolby Surround や DTS のシステムは、本来映画館用に設計されているため、ご家庭では部屋の広さや壁の材質、スピーカーの数などの条件の違いによって、同じソフトであっても視聴感に差が出てしまいます。
ヤマハシネマ DSP は、豊富な実測データに基づく独自の音場技術を応用することで、ドルビープロロジックや Dolby Digital、DTS のシステムと組み合わせて音のスケールや奥行き、音量感を補い、ご家庭でも映画館のような視聴体験を実現します。

■ バーチャルシネマ DSP

サラウンド L/R スピーカーを設置していなくとも、仮想的にサラウンド L/R スピーカーの音場を再現することで、音場プログラムを楽しめます。
センタースピーカーを設置できない場合でも、フロント L/R スピーカーだけで、バーチャルシネマ DSP をお楽しみいただけます。

HDMI 信号について

■ 音声信号について

音声フォーマット	詳細	ディスク（例）
2 チャンネルリニア PCM	2ch、32 ～ 192kHz、16/20/24bit	CD、DVD-Video、DVD-Audio
マルチチャンネルリニア PCM	8ch、32 ～ 192 kHz、16/20/24bit	DVD-Audio、ブルーレイディスク、HD DVD
DSD	2/5.1ch、2.8224MHz、1bit	SA-CD
ビットストリーム	Dolby Digital、DTS、AAC	DVD-Video
ビットストリーム（HD オーディオ）	Dolby TrueHD、Dolby Digital Plus、DTS-HD Master Audio、DTS-HD High Resolution Audio、DTS Express	ブルーレイディスク、HD DVD

- 再生機器が音声解説のビットストリーム信号をデコードできる場合、以下の方法で音声接続すれば、音声解説を楽しめます。
  – アナログマルチチャンネル接続（23 ページ）
  – デジタル接続
- 再生機器で音声解説をデコードし、本機へ接続する方法について詳しくは、再生機器の取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- お使いの DVD プレーヤーによっては、コピープロテクトがかかった DVD オーディオを再生する場合、映像信号および音声信号が出力されないことがあります。
- 本機は HDCP 非対応の HDMI または DVI 端子を装備したテレビやプロジェクターには対応していません。HDCP 対応の有無については、お使いの HDMI 機器または DVI 機器の取扱説明書をご覧ください。
- ビットストリーム音声信号をデコードするには、再生機器がビットストリーム信号をそのまま出力するように、再生機器で設定を変更してください。詳しくは、再生機器の取扱説明書をご覧ください。
- ブルーレイディスクなどの音声解説（例：インターネットからダウンロードした音声コンテンツなど）には対応していません。

■ 映像信号について

以下の解像度に対応しています。

– 480i ／ 60Hz
– 480p ／ 60Hz
– 720p ／ 60Hz、50Hz
– 1080i ／ 60Hz、50Hz
– 1080p ／ 60Hz、50Hz、24Hz

主な仕様

オーディオ部

定格出力（6Ω、20Hz ～ 20kHz、0.09% THD）
- フロント左／右...................... 105W + 105W
- センター...105W
- サラウンド左／右.................. 105W + 105W
- サラウンドバック左／右....... 105W + 105W

ダイナミックパワー（6Ω ／ 4 Ω ／ 2 Ω）
- フロント左／右............145 ／ 175 ／ 220W

実用最大出力（JEITA、6Ω、1kHz、10% THD）
- フロント左／右...................... 145W + 145W
- センター...145W
- サラウンド左／右.................. 145W + 145W
- サラウンドバック左／右....... 145W + 145W

ダンピングファクター（20Hz ～ 20kHz、8Ω）
- フロント左／右................................. 100 以上

入力感度／入力インピーダンス
（1kHz、100W ／ 8Ω 換算）
- PHONO（MM）.................... 3.5mV ／ 47kΩ
- AV5 他................................ 200mV ／ 47kΩ
- MULTI CH INPUT .... 200mV ／ 47kΩ

最大許容入力
- PHONO(MM 、1kHz 、0.1% THD)
  ....60mV 以上
- AV5 他（1kHz、0.5% THD）........2.0V 以上

出力電圧／出力インピーダンス
- AUDIO OUT .... 200mV ／ 1.2kΩ
- PRE OUT.................................... 1V ／ 1.2kΩ
- SUBWOOFER（2 チャンネル ステレオ＆ FRONT SP 設定 Small）............ 1V ／ 1.2kΩ

ヘッドホン出力／出力インピーダンス
- AV5 他（1kHz、50mV 入力、8Ω）
  ....100mV ／ 470Ω

周波数特性
- AV5 他、フロント（10Hz ～ 100kHz）
  ....0 ／－ 3dB

RIAA 偏差
- PHONO（MM）............................. 0 ± 0.5dB

全高調波歪率
- PHONO（MM、AUDIO OUT、20Hz ～ 20kHz、1V）...0.02% 以下
- AV5 他（Pure Direct）～フロント SP OUT（1kHz、50W ／ 6Ω）.................0.06% 以下

S ／ N 比（IHF-A ネットワーク、入力ショート）
- PHONO（MM、2.5mV、AUDIO OUT）
  .... 80dB 以下
- AV5 他（Pure Direct、250mV、SP OUT）
  ....100dB 以上

残留ノイズ（IHF-A ネットワーク）
- フロント左／右、SP OUT......... 150 μV 以下

チャンネルセパレーション
（入力ショート、1kHz ／ 10kHz）
- PHONO ....60dB 以上／ 55dB 以上
- AV5 他（5.1kΩ）....60dB 以上／ 45dB 以上

音量可変範囲／ステップ .... MUTE ／ － 80.0dB ～＋ 16.5dB ／ 0.5dB ステップ

トーンコントロール特性
- BASS（可変幅）.................. ± 10dB ／ 50Hz
- BASS（ターンオーバー周波数）...........350Hz
- TREBLE（可変幅）............ ± 10dB ／ 20kHz
- TREBLE（ターンオーバー周波数）.......3.5kHz

フィルター特性（fc ＝ 40 ／ 60 ／ 80 ／ 90 ／ 100 ／ 110 ／ 120 ／ 160 ／ 200Hz）
- H.P.F（フロント、センター、サラウンド、サラウンドバック　小）............... 12dB ／ oct.
- L.P.F（サブウーファー）............. 24dB ／ oct.

ビデオ部

ビデオ信号方式
- グレーバック ....NTSC
- ビデオコンバージョン................NTSC ／ PAL

コンポジットビデオ信号レベル
.... 1Vp-p ／ 75Ω

コンポーネントビデオ信号レベル
D4 ビデオ信号レベル
- Y .... 1Vp-p ／ 75Ω
- CB、CR................................. 0.7Vp-p ／ 75Ω

ビデオ最大許容入力.......................... 1.5Vp-p 以上
S ／ N 比 ....50dB 以上
モニターアウト周波数帯域
- コンポーネントビデオ
  .... 5Hz ～ 60MHz、－ 3dB
- D4 ビデオ .... 5Hz ～ 60MHz、－ 3dB

FM チューナー部

受信周波数範囲................. 76.0MHz ～ 90.0MHz
50dB SN 感度（IHF、1kHz、100% MOD.）
- モノ....................................... 3 μV（20.8dBf）

S ／ N 比（IHF）
- モノ／ステレオ .... 74dB ／ 70dB

歪率（1kHz）
- モノ／ステレオ .... 0.3%／ 0.3%

アンテナ入力 ....75Ω、アンバランス

AM チューナー部

受信周波数 ....531kHz ～ 1611kHz

総合

電源電圧 ....AC100V、50 ／ 60Hz
消費電力 240W
待機時消費電力
- HDMI コントロール機能＝オフ /Standby Through 機能＝オフ........................ 0.2W 以下
- HDMI コントロール機能＝オン／ Standby through 機能＝オン／信号未入力時
  .... 1.2W 以下
- HDMI コントロール機能＝オン /Standby Through 機能＝オン／信号スルー時
  ....3W 以下

寸法（幅×高さ×奥行き）
.... 435 × 171 × 365mm
質量 11.1kg

※仕様、および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

索引

あ行

か行

さ行

た行

な行

は行

ま行

や行

ら行

A

B

C

D

付録

Y

数字

「Ⓐ**SLEEP**」や「5 **HDMI1**」(例)は、フロントパネルまたはリモコンキーなどの名称を表しています。それぞれのキーの場所については、別紙「操作パネル図」、または各部の名称と機能をご覧ください。(「各部の名称と機能」(9ページ)をご覧ください。)

Information about software

This product uses the following free software.

For information (copyright, etc) about each software, read the original sentences stated below.

About curl

COPYRIGHT AND PERMISSION NOTICE

Copyright (c) 1996 - 2007, Daniel Stenberg, <daniel@haxx.se>.

All rights reserved.Permission to use, copy, modify, and distribute this software for any purpose with or without fee is hereby granted, provided that the above copyright notice and this permission notice appear in all copies.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT OF THIRD PARTY RIGHTS. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

Except as contained in this notice, the name of a copyright holder shall not be used in advertising or otherwise to promote the sale, use or other dealings in this Software without prior written authorization of the copyright holder.

Copyright (c) 1995, 1996, 1997, 1998, 1999 Kungliga Tekniska Högskolan (Royal Institute of Technology, Stockholm, Sweden).
Copyright (c) 2004 - 2007 Daniel Stenberg
All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1 Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2 Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3 Neither the name of the Institute nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE INSTITUTE AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE INSTITUTE OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

About lwip

Copyright (c) 2001, 2002 Swedish Institute of Computer Science.
Copyright (c) 2001-2004 Leon Woestenberg <leon.woestenberg@gmx.net>
Copyright (c) 2001-2004 Axon Digital Design B.V., The Netherlands.
All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1 Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2 Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3 The name of the author may not be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE AUTHOR "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

Copyright (c) 2002 CITEL Technologies Ltd. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1 Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2 Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3 Neither the name of CITEL Technologies Ltd nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY CITEL TECHNOLOGIES AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL CITEL TECHNOLOGIES OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

Copyright (c) 2003 by Marc Boucher, Services Informatiques (MBSI) inc.
Copyright (c) 1997, 1998 by Global Election Systems Inc. All rights reserved.
Copyright (c) 2001 by Cognizant Pty Ltd.

The authors hereby grant permission to use, copy, modify, distribute, and license this software and its documentation for any purpose, provided that existing copyright notices are retained in all copies and that this notice and the following disclaimer are included verbatim in any distributions. No written agreement, license, or royalty fee is required for any of the authorized uses.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

Copyright (c) 1993, 1994 The Australian National University. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms are permitted provided that the above copyright notice and this paragraph are duplicated in all such forms and that any documentation, advertising materials, and other materials related to such distribution and use acknowledge that the software was developed by the Australian National University. The name of the University may not be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS" AND WITHOUT ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTIBILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE.

Copyright (c) 1989 Carnegie Mellon University. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms are permitted provided that the above copyright notice and this paragraph are duplicated in all such forms and that any documentation, advertising materials, and other materials related to such distribution and use acknowledge that the software was developed by Carnegie Mellon University. The name of the University may not be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS" AND WITHOUT ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTIBILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE.

Copyright (c) 1991 Gregory M. Christy. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms are permitted provided that the above copyright notice and this paragraph are duplicated in all such forms and that any documentation, advertising materials, and other materials related to such distribution and use acknowledge that the software was developed by Gregory M. Christy. The name of the author may not be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS" AND WITHOUT ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTIBILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE.

Copyright (c) 1995 Eric Rosenquist, Strata Software Limited. http://www.strataware.com/ All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms are permitted provided that the above copyright notice and this paragraph are duplicated in all such forms and that any documentation, advertising materials, and other materials related to such distribution and use acknowledge that the software was developed by Eric Rosenquist. The name of the author may not be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS" AND WITHOUT ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTIBILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE.

Copyright (C) 1990, RSA Data Security, Inc. All rights reserved.

License to copy and use this software is granted provided that it is identified as the "RSA Data Security, Inc. MD5 Message-Digest Algorithm" in all material mentioning or referencing this software or this function.
License is also granted to make and use derivative works provided that such works are identified as "derived from the RSA Data Security, Inc. MD5 Message-Digest Algorithm" in all material mentioning or referencing the derived work.
RSA Data Security, Inc. makes no representations concerning either the merchantability of this software or the suitability of this software for any particular purpose. It is provided "AS IS" without express or implied warranty of any kind.
These notices must be retained in any copies of any part of this documentation and/or software.

Copyright (c) 1989 Regents of the University of California. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms are permitted provided that the above copyright notice and this paragraph are duplicated in all such forms and that any documentation, advertising materials, and other materials related to such distribution and use acknowledge that the software was developed by the University of California, Berkeley. The name of the University may not be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED “AS IS” AND WITHOUT ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTIBILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE.

About OpenSSL

LICENSE ISSUES

The OpenSSL toolkit stays under a dual license, i.e. both the conditions of the OpenSSL License and the original SSLeay license apply to the toolkit. See below for the actual license texts. Actually both licenses are BSD-style Open Source licenses. In case of any license issues related to OpenSSL please contact openssl-core@openssl.org.

OpenSSL License
Copyright (c) 1998-2007 The OpenSSL Project. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1 Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2 Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3 All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgment:
  “This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit. (http://www.openssl.org/)”
4 The names “OpenSSL Toolkit” and “OpenSSL Project” must not be used to endorse or promote products derived from this software without prior written permission. For written permission, please contact openssl-core@openssl.org.
5 Products derived from this software may not be called “OpenSSL” nor may “OpenSSL” appear in their names without prior written permission of the OpenSSL Project.
6 Redistributions of any form whatsoever must retain the following acknowledgment:
  “This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit (http://www.openssl.org/)”

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE OpenSSL PROJECT “AS IS” AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE OpenSSL PROJECT OR ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, XEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com). This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).

Original SSLeay License
Copyright (C) 1995-1998 Eric Young (eay@cryptsoft.com)
All rights reserved.

This package is an SSL implementation written by Eric Young (eay@cryptsoft.com). The implementation was written so as to conform with Netscapes SSL.

This library is free for commercial and non-commercial use as long as the following conditions are aheared to. The following conditions apply to all code found in this distribution, be it the RC4, RSA, lhash, DES, etc., code; not just the SSL code. The SSL documentation included with this distribution is covered by the same copyright terms except that the holder is Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).

Copyright remains Eric Young's, and as such any Copyright notices in the code are not to be removed. If this package is used in a product, Eric Young should be given attribution as the author of the parts of the library used. This can be in the form of a textual message at program startup or in documentation (online or textual) provided with the package.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1 Redistributions of source code must retain the copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2 Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3 All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgement:
  “This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com)”
  The word ‘cryptographic’ can be left out if the rouines from the library being used are not cryptographic related :-).
4 If you include any Windows specific code (or a derivative thereof) from the apps directory (application code) you must include an acknowledgement:
  “This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com)”

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY ERIC YOUNG “AS IS” AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

The licence and distribution terms for any publically available version or derivative of this code cannot be changed. i.e. this code cannot simply be copied and put under another distribution licence [including the GNU Public Licence.]

About FLAC codec library

Copyright (C) 2000,2001,2002,2003,2004 Josh Coalson

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

– Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
– Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
– Neither the name of the Xiph.org Foundation nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS “AS IS” AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE FOUNDATION OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

About Vorbis library

Copyright (c) 2001, Xiphophorus

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

– Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
– Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
– Neither the name of the Xiphophorus nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS “AS IS” AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE REGENTS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

Notice for Windows Media DRM

The Certified For Windows Vista logo, Windows Media and the Windows logo are trademarks or registered trademarks of Microsoft Corporation in the United States and/or other countries.
Content providers are using the digital rights management technology for Windows Media contained in this device (WMDRM) to protect the integrity of their content (Secure Content) so that their intellectual property, including copyright, in such content is not misappropriated.
This device uses WM-DRM software to play Secure Content (WM-DRM Software).
If the security of the WM-DRM Software in this device has been compromised, owners of Secure Content (Secure Content Owners) may request that Microsoft revoke the WM-DRM Software s right to acquire new licenses to copy, display and/or play Secure Content. Revocation does not alter the WMDRM Software s ability to play unprotected content. A list of revoked WM-DRM Software is sent to your device whenever you download a license for Secure Content from the Internet or from a PC. Microsoft may, in conjunction with such license, also download revocation list onto your device on behalf of Secure Content Owners.

リモコンコード一覧

テレビ（プロジェクターを含む）

Aiwa 0028, 0297

Epson 0156, 0201, 0309

Fujitsu 0023, 0024, 0025, 0105, 0328

Funai 0033, 0034, 0035, 0036, 0037, 0097, 0104, 0105, 0225, 0259

Hitachi 0006, 0014, 0015, 0016, 0042, 0072, 0090, 0094, 0173, 0254, 0255, 0256, 0260, 0264, 0265, 0266, 0274, 0285, 0300, 0319, 0328, 0348, 0349, 0385, 0402, 0410

LG 0016, 0038, 0039, 0077, 0103, 0145, 0222, 0243, 0246, 0253, 0260, 0261, 0264, 0268, 0271, 0273, 0274, 0282, 0290, 0299, 0316, 0327, 0328, 0351, 0359, 0367, 0382, 0384, 0389, 0396

Mitsubishi 0006, 0015, 0016, 0048, 0072, 0077, 0090, 0103, 0196, 0224, 0257, 0266, 0268, 0274, 0298, 0371

NEC 0026, 0053, 0072, 0090, 0096, 0102, 0103, 0266, 0328

Orion 0121, 0192, 0261, 0268, 0271, 0273, 0274, 0282, 0329

Panasonic 0006, 0007, 0066, 0067, 0068, 0069, 0070, 0102, 0106, 0113, 0147, 0215, 0241, 0265, 0274, 0279, 0310, 0332, 0334, 0368, 0374

Pioneer 0012, 0013, 0072, 0090, 0243, 0265, 0267, 0268, 0271, 0274, 0408

Samsung 0029, 0030, 0031, 0032, 0044, 0045, 0046, 0047, 0072, 0077, 0084, 0085, 0086, 0087, 0090, 0094, 0096, 0103, 0118, 0217, 0229, 0235, 0236, 0237, 0243, 0259, 0260, 0261, 0268, 0269, 0271, 0273, 0274, 0284, 0295, 0327, 0328, 0336, 0346, 0390, 0407

Sanyo 0020, 0021, 0022, 0049, 0065, 0090, 0141, 0191, 0243, 0250, 0260, 0266, 0273, 0291, 0327, 0328, 0370, 0373, 0391

Sharp 0009, 0010, 0011, 0072, 0080, 0081, 0082, 0083, 0085, 0090, 0094, 0110, 0148, 0183, 0216, 0224, 0247, 0248, 0258, 0266, 0288, 0304, 0324, 0325, 0340, 0358, 0362, 0369, 0386, 0392, 0398, 0400, 0401, 0403

Sony 0041, 0057, 0058, 0059, 0060, 0101, 0116, 0125, 0126, 0127, 0142, 0169, 0170, 0171, 0172, 0174, 0234, 0261, 0266, 0276, 0289, 0292, 0393, 0411

Toshiba 0027, 0043, 0053, 0054, 0061, 0062, 0063, 0064, 0065, 0122, 0123, 0124, 0128, 0130, 0132, 0139, 0214, 0244, 0266, 0283, 0305, 0328, 0329, 0342, 0350, 0352, 0353, 0354, 0375, 0404

Victor 0017, 0018, 0019, 0092, 0093, 0094, 0106, 0251, 0252, 0266, 0268, 0293, 0360, 0379

Yamaha 0000, 0001, 0002, 0003, 0004, 0005, 0072, 0090, 0096, 0103

VTR

Aiwa 1023, 1072, 1073, 1074

Funai 1023, 1072

Hitachi 1072, 1073, 1078, 1089, 1108, 1124

LG 1021, 1053, 1072, 1077, 1088, 1100, 1106, 1125, 1143

Mitsubishi 1029, 1072, 1078

NEC 1018, 1019, 1073

Orion 1033, 1069, 1074, 1097, 1139

Panasonic 1007, 1008, 1009, 1022, 1026, 1042, 1043, 1068, 1082, 1101, 1126, 1132

Samsung 1006, 1020, 1038, 1040, 1046, 1060, 1080, 1107, 1110, 1112, 1121, 1123, 1140, 1142

Sanyo 1019, 1020, 1114

Sharp 1031, 1045, 1057, 1081, 1115, 1137

Sony 1000, 1001, 1002, 1003, 1024, 1027, 1036, 1062, 1066, 1083, 1098, 1103, 1138

Toshiba 1004, 1005, 1034, 1051, 1063, 1066, 1073, 1078, 1086, 1099, 1102, 1119, 1144

Victor 1011, 1012, 1013, 1014, 1015, 1016, 1017, 1018, 1019, 1028, 1035, 1064, 1073, 1085, 1117, 1130, 1131, 1133, 1134, 1135, 1136

DVD プレーヤー

Denon 2105, 2147, 2197, 2286

Hitachi 2008, 2033, 2108, 2302, 2309, 2320, 2366

LG 2080, 2107, 2115, 2116, 2141, 2188, 2211, 2215, 2237, 2239, 2285, 2293, 2295, 2348, 2370

Marantz 2282

Onkyo 2205, 2290

Orion 2027, 2060

Panasonic 2015, 2016, 2017, 2036, 2037, 2038, 2039, 2040, 2041, 2042, 2043, 2074, 2089, 2104, 2108, 2112, 2120, 2131, 2132, 2197, 2205, 2244, 2245, 2246, 2253, 2254, 2255, 2292, 2321, 2324, 2327, 2328, 2329, 2331, 2383, 2388

Pioneer 2012, 2013, 2014, 2063, 2064, 2065, 2066, 2067, 2113, 2134, 2207, 2230, 2236, 2265, 2266, 2267, 2297, 2322, 2351, 2352, 2353, 2354, 2355, 2356, 2357, 2358, 2359, 2377

Samsung 2031, 2032, 2033, 2034, 2035, 2082, 2127, 2137, 2138, 2154, 2182, 2197, 2283, 2319, 2325, 2346, 2347, 2349, 2372, 2381

Sanyo 2139, 2195, 2212, 2374

Sharp 2009, 2010, 2084, 2122, 2142, 2143, 2144, 2181, 2190, 2228, 2262, 2375

Sony 2005, 2006, 2007, 2020, 2021, 2022, 2023, 2024, 2025, 2069, 2072, 2073, 2085, 2086, 2087, 2091, 2092, 2093, 2102, 2128, 2129, 2130, 2249, 2250, 2323, 2334, 2335, 2336, 2360, 2361, 2362, 2363, 2364, 2365, 2384

Toshiba 2004, 2026, 2027, 2028, 2029, 2030, 2098, 2099, 2100, 2101, 2114, 2117, 2118, 2119, 2136, 2187, 2195, 2205, 2291, 2337, 2338, 2378

Victor 2049, 2050, 2051, 2052, 2053, 2054, 2055, 2056, 2057, 2070, 2242, 2261, 2275, 2276, 2277, 2278, 2339, 2340, 2341, 2342, 2386, 2387, 2389, 2390, 2391

Yamaha 2000, 2001, 2002, 2003, 2011, 2018, 2019, 2036, 2106, 2197, 2273

Blu-ray プレーヤー / レコーダー

LG 2115

Panasonic 2089, 2131, 2132

Pioneer 2134

Samsung 2035, 2127

Sharp 2142, 2143, 2144

Sony 2025

Yamaha 2018

DVD レコーダー

Hitachi 2108

LG 2107, 2115, 2141, 2188

Panasonic 2037, 2038, 2039, 2040, 2041, 2042, 2043, 2089, 2104, 2108, 2112

Pioneer 2063, 2064, 2065, 2066, 2067, 2113

Sanyo 2139

Sony 2022, 2023, 2024, 2085, 2086, 2087, 2102, 2128, 2129, 2130

Toshiba 2030, 2099, 2100, 2101, 2114, 2117, 2118, 2119

Victor 2054, 2055, 2056, 2057

ケーブルテレビチューナー

Panasonic 3034, 3036, 3040

Pioneer 3012, 3032, 3038, 3042, 3048, 3083, 3084

Samsung 3011, 3023, 3032, 3042

Sony 3014, 3047

衛星放送チューナー

Humax 4051, 4075, 4076, 4110

Panasonic 4043, 4044, 4046, 4084, 4113, 4118, 4143, 4148

Pioneer 4124, 4135

Sony 4017, 4020, 4135

Toshiba 4144, 4152, 4153

CD プレーヤー

Yamaha 5000, 5013

CD レコーダー

Yamaha 5001

MD プレーヤー

Yamaha 5002, 5003, 5004

テープデッキ

Yamaha 5005, 5006

チューナー

Yamaha 5007, 5008, 5009, 5010, 5014, 5015, 5016, 5017, 5018

USB

Yamaha 5012, 5021

DOCK

Yamaha 5011, 5022

LD プレーヤー

Yamaha 2002

ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用いただくためのものです。
サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

ヤマハAV製品の機能や取り扱いに関するお問い合わせ

■ ヤマハオーディオ&ビジュアルホームページ

お客様から寄せられるよくあるご質問をまとめておりますので、ご参考にしてください。

http://www.yamaha.co.jp/audio/

本機の設置や設定、操作に関するお問い合わせ

■ ヤマハお客様コミュニケーションセンター オーディオ・ビジュアル機器相談窓口

ナビダイヤル（全国共通） 0570-011-808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP電話からは下記番号におかけください。
TEL (053) 460-3409

〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町10-1

受付：月～金曜日 10：00～18：00　土曜日 10：00～17：00
（日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く）

ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問い合わせ

■ ヤマハ修理ご相談センター

ナビダイヤル（全国共通） 0570-012-808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP電話からは下記番号におかけください。
TEL (053) 460-4830

FAX (053) 463-1127

受付：月～金曜日 9：00～18：00　土曜日 9：00～17：00
（日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く）

修理お持ち込み窓口
受付：月～金曜日 9：00～17：45
（土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く）

北海道 〒064-8543 札幌市中央区南10条西1丁目1-50
ヤマハセンター内
FAX (011)512-6109

首都圏 〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
FAX (03)5762-2125

浜松 〒435-0016 浜松市東区和田町200
ヤマハ(株)和田工場内
FAX (053)462-9244

名古屋 〒454-0058 名古屋市中川区玉川町2丁目1-2
ヤマハ(株)名古屋倉庫3F
FAX (052)652-0043

大阪 〒564-0052 吹田市広芝町10-28
オーク江坂ビルディング2F
FAX (06)6330-5535

九州 〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2丁目11-4
FAX (092)472-2137

*名称、住所、電話番号、URLなどは変更になる場合があります。

● 保証期間
お買い上げ日から1年間です。

● 保証期間中の修理
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間が過ぎているとき
修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

● 修理料金の仕組み
技術料　故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
部品代　修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
出張料　製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

● 補修用性能部品の最低保有期間
補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

● 製品の状態は詳しく
サービスをご依頼されるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。
※ 品番、製造番号は製品の背面もしくは底面に表示してあります。

● スピーカーの修理
スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

● 摩耗部品の交換について
本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。
本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをおすすめします。
摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ電気音響製品修理受付センターへご相談ください。

摩耗部品の一例
ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※ このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

永年ご使用の製品の点検を！

愛情点検

こんな症状はありませんか?
- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズか変形がある。
- 製品に触れるとピリピリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。

すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハ株式会社

Printed in Malaysia　WQ94910

J

AX-V1065 操作パネル図

イラストに記載されている数字やアルファベットは、取扱説明書中のキーなどに付記されている数字やアルファベットに対応しています。

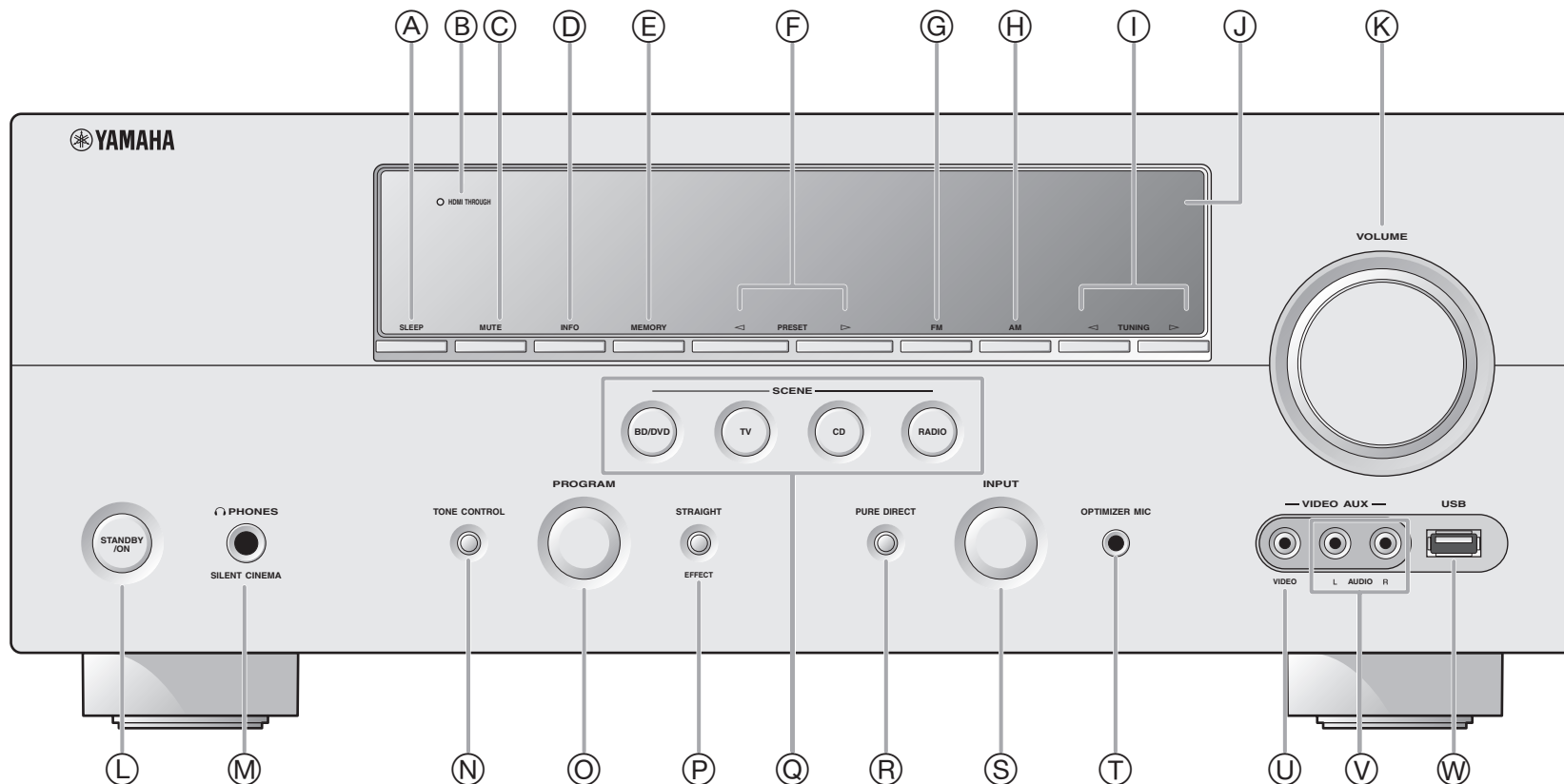
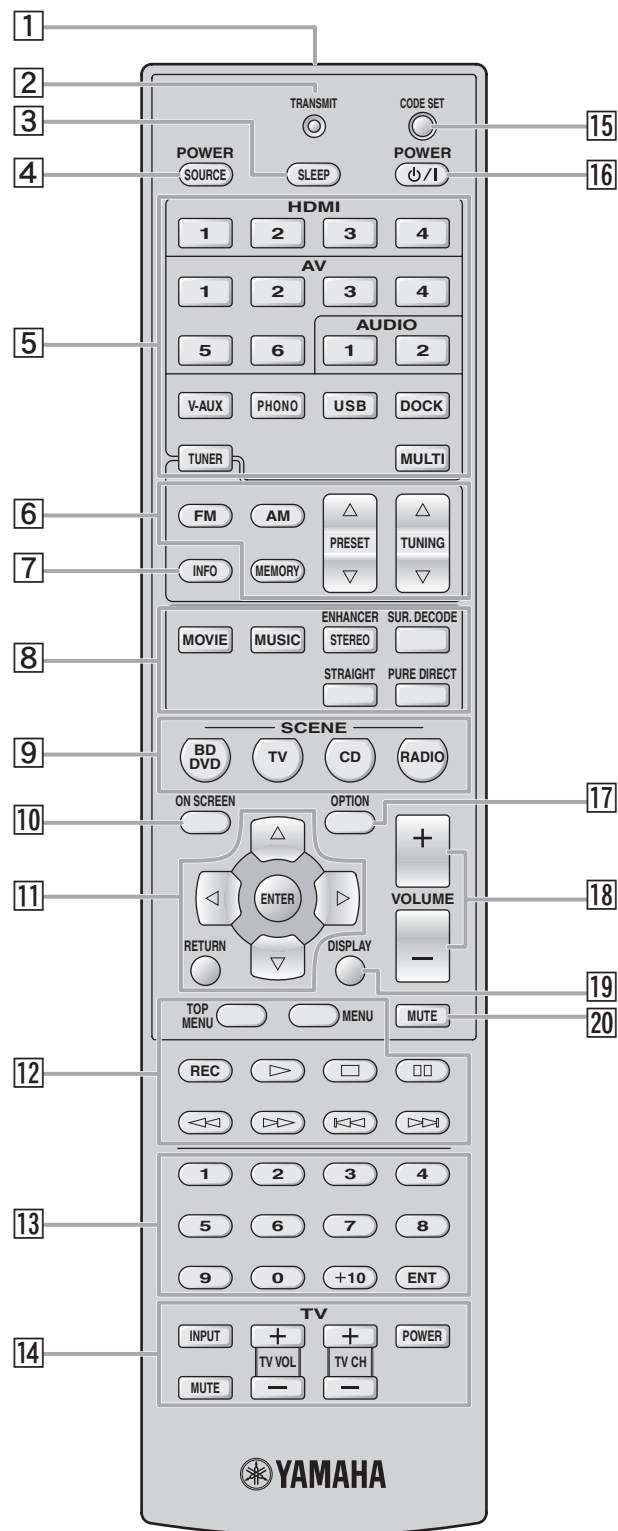
■ フロントパネル

■ リモコン

YAMAHA CORPORATION
Printed in Malaysia WQ95030

J

ヤマハ株式会社

Printed in Malaysia WT92600

追加機能のおしらせ

入力ソースとして AV3、AV4、AUDIO1、AUDIO2 のいずれかを選択した場合、HDMI1-4 や AV1-6、V-AUX に接続された外部機器の映像をテレビへ表示できます。この機能を利用すれば、以下のような機器を接続できます。

例 1： ビデオ出力が D 端子、音声出力がアナログ音声の出力端子を持つ外部機器（ゲーム機など）
例 2： HDMI 端子を使って音声出力が行えない外部機器（衛星放送チューナーなど）

使用する際には、次の接続および設定を行います。

Part 1： 外部機器を接続する
Part 2： ビデオ入力端子を選択する

Part 1：外部機器を接続する

- **外部機器の HDMI 端子**：外部機器の音声出力タイプ（アナログまたはデジタル）に応じて、本機の HDMI 入力端子へ適切に接続します。詳しくは以下の説明をご覧ください。
- **外部機器の音声出力端子**：本機の AV3-4 または AUDIO1-2 の音声入力端子に接続します。
- **外部機器の映像出力端子**：本機の AV1-6 または VIDEO AUX の映像入力端子に接続します。

ご注意

- 外部機器との接続は、本機の電源プラグをコンセントからはずしてから行ってください。

■ HDMI 端子と音声入力端子の接続

接続する外部機器の出力端子	本機の対応入力ソース / 端子		接続が可能な HDMI 入力端子
アナログ音声出力	AUDIO1	AUDIO	HDMI1
	AUDIO2	AUDIO	HDMI2
同軸デジタル音声出力	AV3（CD）	COAXIAL	HDMI3
光デジタル音声出力	AV4	OPTICAL	HDMI4

■ オーディオ端子の接続

接続する外部機器の出力端子	本機の対応入力ソース / 端子	
同軸デジタル音声出力	AV3（CD）	COAXIAL
光デジタル音声出力	AV4	OPTICAL
アナログ音声出力	AUDIO1	AUDIO
	AUDIO2	AUDIO

■ ビデオ端子の接続

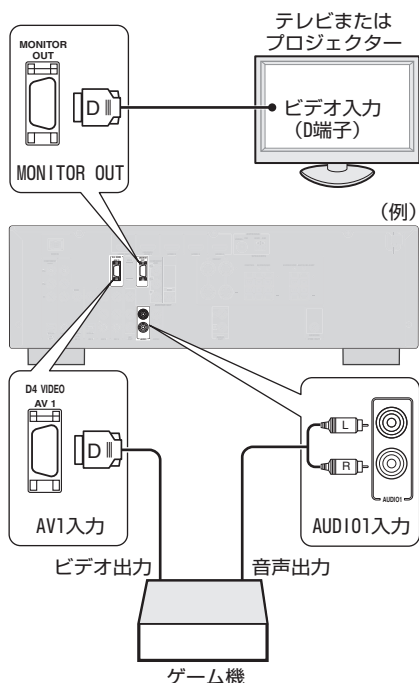
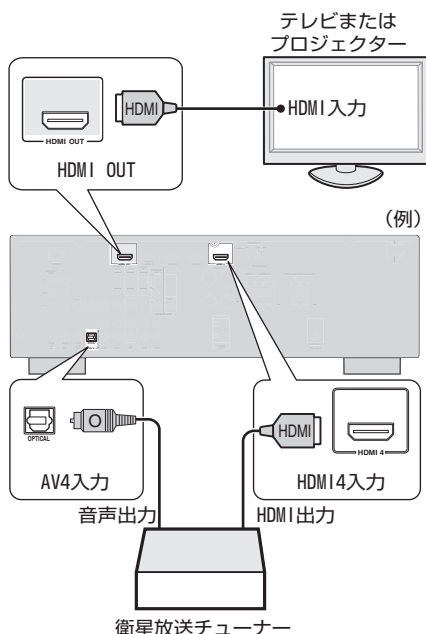
接続する外部機器の出力端子	本機の端子	
コンポーネント / D 端子	AV1（TV）	COMPONENT VIDEO または D4 VIDEO
	AV2	COMPONENT VIDEO または D4 VIDEO
ビデオアウト	AV3（CD）	VIDEO
	AV4	VIDEO
	AV5	VIDEO
	AV6	VIDEO
	VIDEO AUX（フロントパネル）	VIDEO

ご注意

- 本機とテレビをアナログ方式のビデオ（コンポーネント /D 端子またはビデオ端子）で接続している場合は、外部機器と本機の接続も同じ種類の映像端子で接続してください。

裏面へ続く

接続例

例 1：ゲーム機を接続する場合

例 2：衛星放送チューナーを接続する場合

Part 2：ビデオ入力端子を選択する

1 本機の電源をオンにする。

2 リモコンの AV3-4 または AUDIO1-2 を押して、外部機器を接続した入力ソースを選択する。

ここでは、外部機器の音声出力端子を接続した入力ソースを選択します。

たとえば例 1 の接続を行った場合、**AUDIO1** を押します。

3 リモコンの OPTION を押す。

オプションメニューが表示されます。

4 リモコンのカーソル △ / ▽ を押して「Video Out」を選択し、ENTER を押す。

```
   AUDIO1
◂ Video......Off▸
```

5 カーソル ◁ / ▷ を押して、映像入力ソースとして使用する端子を下記の中から選択する。

- HDMI1-4*
- AV1-2
  （COMPONENT VIDEO または D4 VIDEO）
- AV3-6（VIDEO）
- V-AUX（VIDEO）
- Off（映像入力なし）

* 使用できる HDMI 端子は手順 2 で選んだ入力ソースに応じて異なります。詳しくは表面をご覧ください。

たとえば例 1 の接続を行った場合、「AV1」を選択します。

```
   AUDIO1
◂ Video......AV1▸
```

6 設定を終了するには、OPTION を押す。